盛　夏

キンバイソウ（九合目）

世界の山旅 辺境の旅

「一人ではいけない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが実体験に基づいたアルパインツアーの旅づくりです。

【新企画】朝鮮半島最高峰・長白山縦走 5日間

出発日 7/13、8/7、8/24出発
旅行代金 ¥198,000～¥238,000(大阪発着)

美しいカルデラ湖・天池を眺めながら、標高2500m以上の峰々が連なる好展望の稜線を縦走。コンパクトな日程ながら、名物料理や温泉も楽しめる盛りだくさんな新企画です。

まだ間に合う! 夏のおすすめツアー

ヘリで入下山。カナディアン・ロッキーの雄大なパノラマを独占！

エスプラナーデ・山小屋縦走トレッキング 9日間

発着地 東京 ※大阪/東京間往復¥3,000で手配可
出発日 7/24、7/31、8/7
旅行代金 ¥538,000～¥556,000

高山植物の宝庫・四姑娘山域で5,000m峰に挑戦

四姑娘山トレッキングと大姑娘山登頂 10日間

発着地 大阪・福岡・名古屋・東京
出発日 7/17、7/24、7/31、8/7
旅行代金 ¥264,000～¥294,000

KLMオランダ航空利用。短期間で効率よくアフリカ大陸最高峰に挑戦

[山麓乗り入れ]キリマンジャロゆったり登頂とタランギレ国立公園サファリ 11日間

発着地 大阪・東京
出発日 8/9、8/25、9/7、9/15
旅行代金 ¥586,000～¥592,000

山小屋2泊の余裕を持った日程で、マレーシア最高峰登頂に挑戦

Mt.キナバルゆったり登頂 6日間

発着地 大阪・東京
出発日 8/8、9/19、10/31
旅行代金 ¥198,000～¥272,000

世界の紅葉・黄葉ハイキング

黄葉のベストシーズンに合わせた厳選のハイキングコースを歩く

秋のカナディアン・ロッキー 渓谷ハイキング 8日間

発着地 東京 ※大阪/東京間往復¥3,000で手配可
出発日 9/15、9/22、9/29、10/4
旅行代金 ¥362,000

紅葉が果てしなく広がる手付かずのユーコンの大地へ

秋のユーコン縦断ハイキングと世界遺産クルアニ国立公園 9日間

発着地 東京 ※大阪/東京間往復¥3,000で手配可
出発日 8/23、9/1
旅行代金 ¥438,000～¥448,000

白銀に輝くMt.マッキンリーと、グレーシャーブルーの世界

"ラストフロンティア" アラスカ渓谷縦断ハイキングとフィヨルド・クルーズ 9日間

発着地 東京 ※大阪/東京間新幹線で手配可
出発日 9/6
旅行代金 ¥598,000

世界遺産の神秘的な湖沼群と秀峰・四姑娘山を満喫

四姑娘山ハイキングと九寨溝、黄龍 10日間

発着地 大阪、福岡、名古屋、東京
出発日 7/20、8/24、9/7、10/12
旅行代金 ¥308,000～¥312,000

掲載のツアー以外にも多くの企画がございます。まずはカタログをご請求ください。

観光庁長官登録旅行業第490号 / (社) 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF肥後橋ビル2F
東　京／☎03(3503)1911　大　阪／☎06(6444)3033
名古屋／☎052(581)3211　福　岡／☎092(715)1557
札　幌／☎011(711)7106　仙　台／☎022(265)4611(転送)
(㈱)りんゆう観光)　広　島／☎082(542)1660(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

新・ツアーカタログ
世界の山旅 ～秋のキャンペーン～ 発

（ご紹介地域）ヨーロッパ・アルプス、北欧、カ
ィアン・ロッキー、ユーコン、カナダ東部、アラス
米本土、中国、台湾、韓国、西オーストラリア ほ
空が澄みわたり、森や大地が黄金色に染まる秋。そ
秋が満喫できる魅力的な世界の山旅を、全３３コー
紹介しています。今すぐご請求ください。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映し

近江の山　花暦　―盛夏―

山本武人

盛夏の伊吹山に咲く花

伊吹山のお花畑は全国的に有名である。イブキと名のつく花は34種。三合目付近から山頂まで花が続く。山頂のお花畑はドライブウエイから花を求め、夏の週末はツアー客が列をなす賑わいだ。

夏に咲く花では山頂のお花畑を一面彩るシモツケソウ、その中にメタカラコウ・シシウドが目立つ。初夏の頃には九合目付近にカラマツソウやミヤマコアザミが咲く。クガイソウ・ルリトラノオの紫色も美しい。キンバイソウは大型の花で名のごとく濃い黄色をつける。コオニユリはお花畑でまっすぐにのびている。

コオニユリ（山頂）

ゼンテイカ（ニッコウキスゲ）（山頂）

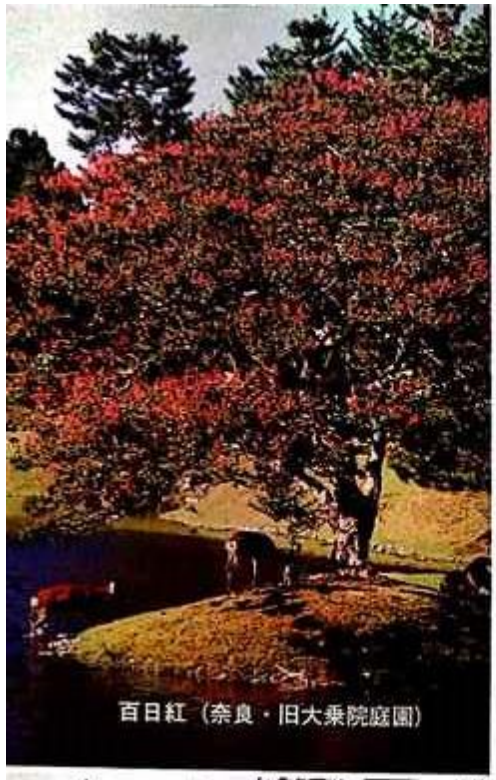
シモツケソウとメタカシコウのお花畑（山頂）

クサボタン（九合目）

Photo essay

蓮始開

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一

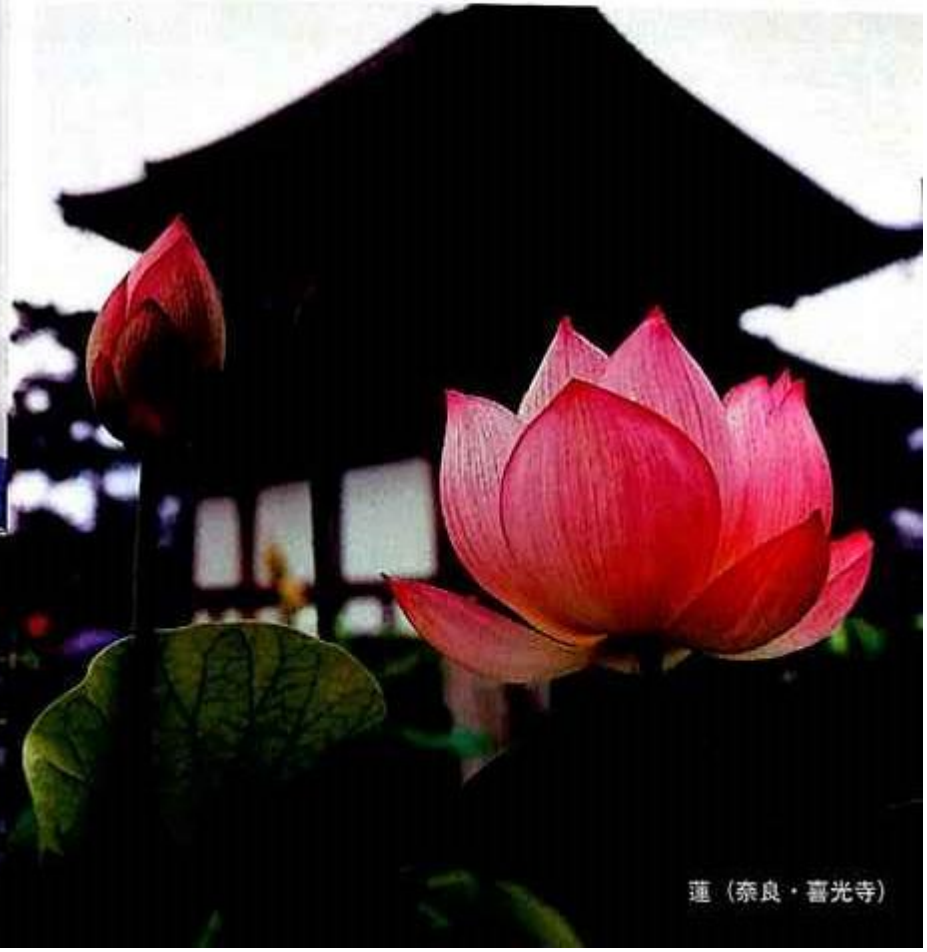


百日紅（奈良・旧大乗院庭園）

蓮始開（はすはじめてひらく）

ぽんっ　ぽんっ　ぽんっ　ぽんっ
夜明けの静かな空気を揺らし
薄紅の柔らかな花が産声をあげる
朝日に輝く蓮華（れんげ）のじゅうたん
壮観　荘厳　艶やか　静謐（せいひつ）
何千年もの間眠り続けた種子
二千年を経て発芽した大賀蓮
中尊寺金色堂須弥壇（ちゅうそんじこんじきどうしゅみだん）の中尊寺蓮
泥より出でて泥に染まらず
古代人は蓮の花に極楽浄土を見た
中将姫が蓮糸で織った当麻曼荼羅（たいまのまんだら）
仏さまの座っておられる蓮華座（れんげざ）
仏前の金色の蓮華「常花（じょうか）」
合掌の手の姿は蓮の花の形

蓮の群生地（草津・烏丸半島）



蓮（奈良・喜光寺）

季節の実景

付知峡（東濃中津川市）

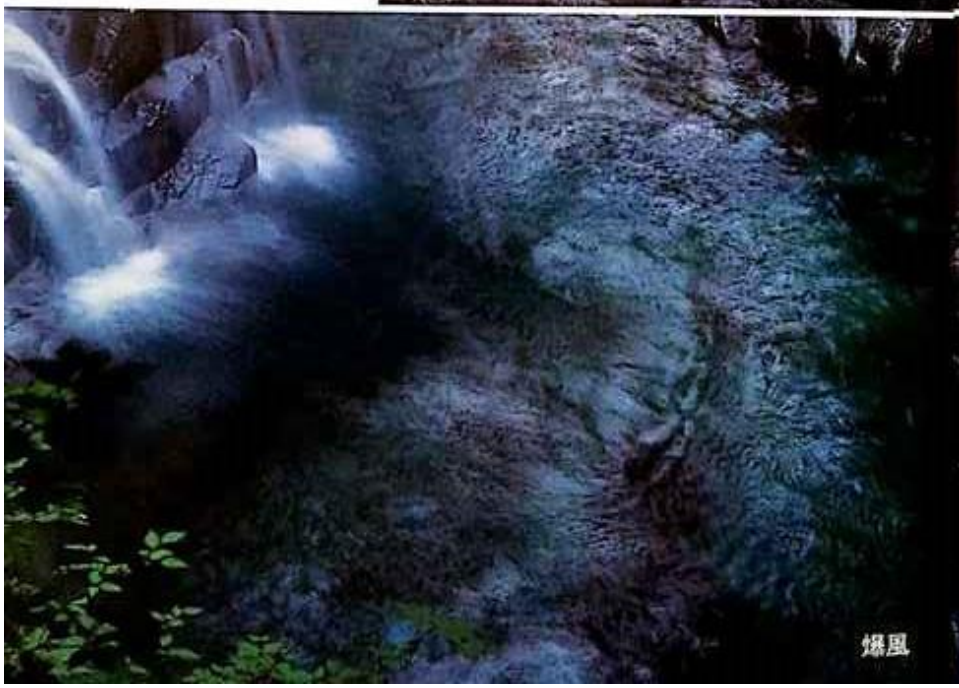
撮影　武市通治

盛夏

岩清水

仙樽橋

不動滝



爆風

仙樽の滝

雨上がりの田代池（上高地）　高岡富美子

キンコウカ大群落（尾瀬・燧沢田代）　芝義雄

山頂が最も賑わう頃（伊吹山）　西村敏夫

雲上の縦走路（北アルプス・白馬三山）　芝義雄

新ハイキング
関西の山
7・8月 2010（盛夏）
No.113

●表紙 「朝焼けの槍・穂高連峰」（北アルプス）…松田敏男
●口絵 近江の山「花暦」…… 山本武人
Photo essay「蓮始開」…… 松永恵一
季節の実景「付知峡（東濃）」…… 武市通治
一芝義雄・高岡富美子・酒村敏夫
「癒しの森で」…… 奥田英一郎

鏡池から槍ヶ岳
（西村文男）

特集 盛夏に歩く山 3コース……編集室 12
①雲ノ平・祖父岳……14
②川上岳……16
③至仏山・燧ケ岳・会津駒ケ岳……18

紀行
白夜のラップランド……利倉正洋 20
妙高山と天神山……慶佐次誠一 25
神石山と葦生湿原……藪木伸人 34
毛無山……山田明男 38
田沢湖と秋田駒ケ岳……木村太郎 41

随想
植物雑感四方山話②……田中明 32
飛鳥の神奈備山……藪木伸人 52

連載紀行
標高による山の紀行 △△13ぱの山……松田敏男 30
三角点を訪ねて 点名「大音波」へ……磯部耗 47
韓国登山シリーズ「摩尼山」……吉見英樹 60
文学歴史ハイク「其面の滝を訪ねて」……松永恵一 64

研究
旗振り通信の新研究「伊賀市で新発見の旗振り山Ⅳ」……柴田昭彦 54

レポート
山の地名を歩く「ベテガリ岳」……西尾寿一 68
無限江山「夏は大河の水源の山へ」……檀上俊雄 71

コースガイド
①三方五湖周辺の三角点巡り①……長宗清司 74
②権現谷北尾根……磯部耗 76
③山中道（滝ヶ谷）を経て夢見ヶ丘（青山）へ……松尾一郎 80

せせらぎ……83
サービスチェーン……85
山行計画・報告……89
会員募集・新入会員紹介……111
訂正とお詫び……
原稿募集・編集後記……
広告案内……112

巻頭言

「山はゆっくり歩こう」。例会のリーダーを務める私は最近、とくにこのことを意識するようになった。グループで歩けば後続はいろいろだ。花や周囲の展望を楽しむ人、写真を撮る人、通過タイムを記入する人、話しながら歩く人など千差万別である。なかにはきょうに限って体調の優れない人もいる。

山歩きのガイド本には標準タイムが載っていてそれを参考にして歩くが、ゆっくりと歩き、休憩を十分にとってもそれに大きく遅れることはない。とくに下山路は注意して歩く。早足でくだって石や根っこにつまずきでもしたら大変なことになる。

先頭がゆっくり歩けば、後続も余裕をもって歩ける。常にグループの隊列が乱れないように気を配っている。「ノロいな」と感じる人もあろうが、分岐路で迷ってしまうこともある。

残りの人生もゆったり気分で落ち着いて過ごしたいものだ。

新ハイキング関西（代表）村田哲俊

癒しの森で —但馬高原植物園—

奥田 英一郎

心落ち着く庭

高原の花オカトラノオ

樹齢千年？の大カツラ

特集

盛夏に歩く山　3コース

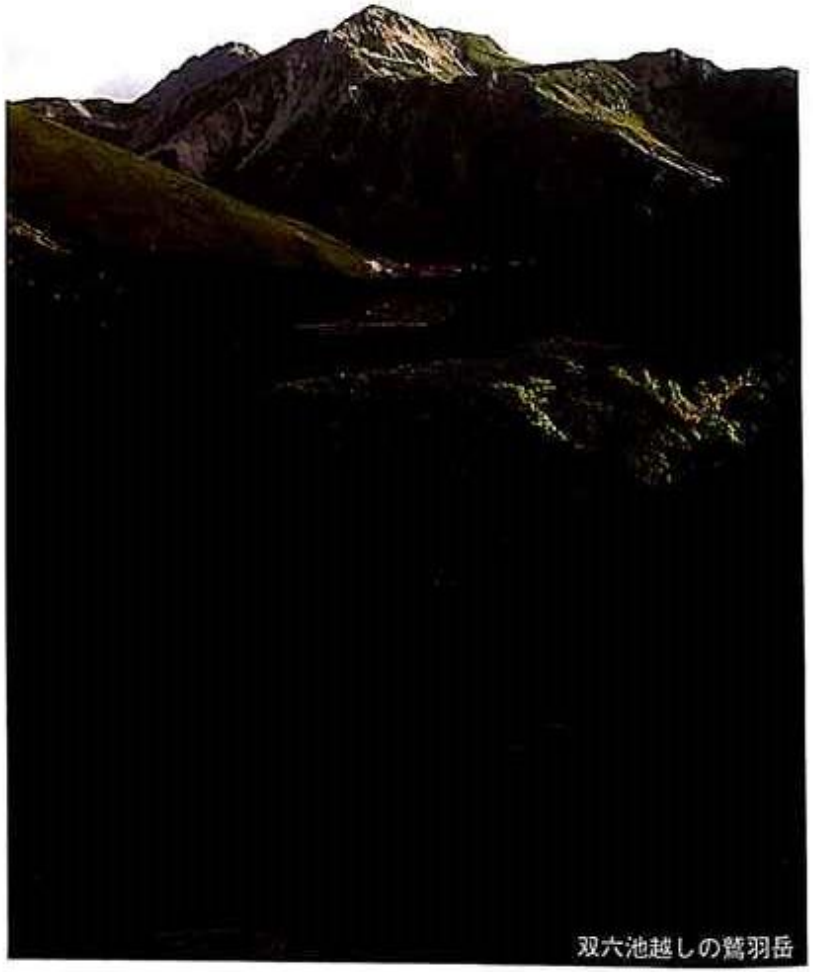
— 編集室—

① 雲ノ平・祖父岳（北アルプス）

② 川上岳（飛騨）

③ 至仏山・燧ヶ岳・会津駒ヶ岳（尾瀬会津）

川上岳山頂を望む（遠方は北アルプス）



双六池越しの鷲羽岳

特集①　北アルプス

花の黒部源流の山を楽しむ

雲ノ平・祖父岳

中般コース（★★★　）

双六池でソロテントを張り、軽装で雲ノ平を目指そう。

今回の目的地は広い溶岩台地の南端、祖父岳だ。雲ノ平へは太郎兵衛平や裏銀座などから、さまざまなアプローチがあるが、槍・穂高を眺めながら幾度歩いても心ときめく小池新道から双六池を経て向かう。

鷲羽岳、三俣蓮華岳、水晶岳（黒岳）、黒部五郎岳という黒部源流の山々をあわせて楽しむこともできるからだ。

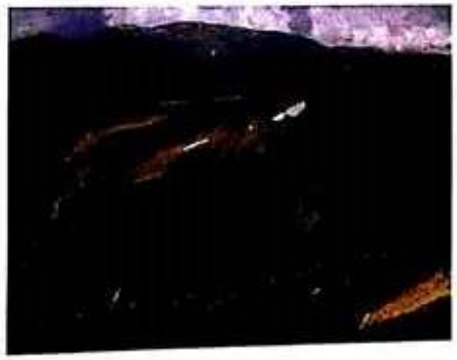
双六池から双六岳、三俣蓮華岳の道はその序章にふさわしい。進むごとに広大な高原が姿を現し、ぐんぐん近づいてきて期待は高まる。

多くの人が殺到して狭い岩場で行列をつくっている人気の山と違って、広くて登山者もまばら、思う存分に山のもつ自然の多様性を味わうことができる、他では味わえない贅沢なルートである。

自然の造形とは実に多彩であるが、高さばかりではなく時には雄大な高原に親しむのもいいものだ。

高原逍遥は足どりの軽やかさが不可欠であり、荷物は最小限にしたい。居心地のいい場所をベースにしてのワンディハイキングが雲ノ平を楽しむにふさわしい。テントはどうも、という人は居心地のいい双六小屋もある。

また雲ノ平で一夜を送りたいとか、水晶岳や黒部五郎岳に登りたいのであれば、それらの山荘をオプションとして考えればよい。



雲ノ平

双六岳から三俣蓮華岳への道は稜線ルート・中道ルート・捲道ルートがあり、いずれも花ありカール・周氷河地形ありで味わい深い。とはいえ道のりは長いので、往路は道草をせずに雲ノ平を一気に目指そう。

往きは黒部源流の山々を眺めながら稜線ルートを歩き、帰路は疲労が出て足どりが鈍るぶん、花に慰められながらの捲道ルートをがんばるのがいいだろう。

夜明けとともに出発し、三俣山荘から鷲羽岳、ワリモ岳から雲ノ平最高点祖父岳へ向かう。岩苔乗越から山頂にかけての道は雲ノ平の魅力にあふれ、眼下に広がる台地は絵のように美しい。

ここで昼食をとり、雲ノ平山荘からアルプス庭園祖母岳へ向かう。帰路は溶岩台地を黒部源流標識のある谷へくだり、黒部川の生まれる場所を見届け、わずかに登り返して三俣山荘へ。

祖父岳山頂

もし祖父岳到着が昼を回るようなら帰路が厳しくなる。祖母岳はカットし、直接源流へ向かい帰路を急ぐ。（槍上）

《コースタイム》

新穂高（約8時間）双六池・双六小屋（軽装往復約10時間）雲ノ平祖父岳、双六池・双六小屋（約6時間30分）新穂高

《地図》

地形表現の美しい国土地理院5万集成図槍・穂高がお勧め

昭文社＝槍ヶ岳・穂高岳

特集②　飛騨

北アルプスの展望台
川上岳

中級コース（★★★　）

宮川水源の森にそびえる山であり、位山と船山とあわせて位山三山とも飛騨三山とも呼ばれるが、この川上岳が抜きんでた高さを誇っている。

ここから流れる宮川は高山市内を流れる川として知られ、新穂高をめぐる山々からの高原川とあわさって神通川となる。蛭ヶ野高原から乗鞍岳におよぶ中央分水嶺の一角をなし、静かに山を楽しみたいたい人にお勧めのエリアだ。

登路としては下呂側上之田や位山から天空遊歩道を往復するのが一般的だが、この山を眺め、山頂からから望むアルプス展望のすばらしさを味わうのであれば、宮川水源から登るコースがいい。

宮川防災ダムへの道を見送り、ツメタ谷の国有林管理林道を進むとゲートがあり、鞍部まで林道歩きとなる。ここから稜線へ続く尾根のブナ林の道はよく整備されていて、ひと登りすると美しい宮川水源の森への分岐に着く。三つの峰が並び立つ白山を望むこともできる水源への捲道を往復しよう。

頂上稜線の北端の峰に出ると一気に展望が開け、絵のように美しい尾根の連なりの奥に円頂の山頂が姿を現し、中央分水嶺にふさわしい。上之田から

川上岳山頂から御嶽山

の道をあわせ、わずかに登り返すが山頂の右側間近に御嶽山、中央分水嶺最高峰の乗鞍岳、思い出がいっぱいの槍・穂高、孤高の面持ちで目立つ笠ヶ岳などが次々に目に飛び込んできて、その雄大さは予想をはるかに超えて感動的だ。関西岳人にとって西側からの北アルプス風景は、湖北の山からの遠望と同じアングルであり、親しみがわく。

山頂や三角点前に腰を下ろし、飛騨川の谷や位山・船山と合わせ、北アルプスの大パノラマが一望できる贅沢さは格別だ。

北アルプスの左端は可愛く尖ってそびえる黒部五郎岳であり、中央分水嶺ではないものの、日本を代表する水源地帯である黒部源流の一角にあたる。

下山は位山への天空遊歩道を進み、独標1507㍍を過ぎてしばらくするとツメタ谷・大イチイの森への標識があり、この道をくだる。比較的新しくつくられた急な尾根道だが、しっかりとササが刈られていて快適にくだることができる。

次第に傾斜がゆるくなり保存林へ入る。道もしっかりとした遊歩道となる。斜面をくだり切ると段丘上の地形になり、大イチイが姿を現す。ツメタ谷を立派な橋で渡れば朝に登った林道へ出る。（樋上）

《コースタイム》

ツメタ谷林道ゲート（1時間）中央分水嶺鞍部（40分）宮川水源の森分岐（往復25分）水源の森（1時間20分）川上岳山頂（40分）ツメタ谷分岐（1時間20分）ツメタ谷林道ゲート

〈地形図〉
2万5千＝位山・山之口

川上岳への登路から白山を望む

特集③　尾瀬会津

至仏山・燧ヶ岳・会津駒ヶ岳

尾瀬ヶ原を縦断し、高層湿原に花を見る。

中級コース（★★★）

はるかな尾瀬は関東の人には身近な存在でアプローチも楽である。しかし、関西からはあまりに遠く感じられ、いったん東京を経由するので大変だ。人気の尾瀬ケ原で美しい花やその風景に接したいと思うが、なかなか容易ではない。

夏の休暇を利用して尾瀬に行ってみたいと思う人にガイドしてみよう。同じ遠くへ行くなら、奥の会津駒ヶ岳もいっしょに登りたい。

JR沼田駅からバスで尾瀬の入口戸倉へ行く。至仏山への登山口は鳩待峠だ。戸倉から鳩待峠への林道は一般車は乗り入れ禁止で、登山バスに乗り換える。

鳩待峠から至仏山へ登る。ゆったりとした道で心地よい。岩場の山頂が見えてくると、眼下に尾瀬ケ原が広がってきて爽快だ。岩の間には多くの花が咲いている。山ノ鼻に下りる道は大岩がゴロゴロしている。滑りやすく危険で一時通行止めになっていたほどだ。

山ノ鼻から湿原の中に木道が尾瀬ケ原にのびている。上田代、中田代、下田代へと花を見て、後方に至仏山を振り返り、真正面に燧ヶ岳を眺めながらゆっくりたどろう。

尾瀬ヶ原から燧ヶ岳を望む

この日は見晴十字路の山小屋に泊まる。

翌朝は見晴新道を燧ヶ岳に登る。山頂付近までは樹林帯で展望はない。ひたすら高度を稼ぐ。温泉小屋道と合流して柴安嵓に到着する頃、尾瀬沼の湖面が眼下に見えてくる。いったん鞍部に下り、岩のかぶさる俎嵓に登り返せば燧ヶ岳山頂に到着だ。胸のすく展望とはこのこと、登りの苦労が一気に報われる。

尾瀬沼へくだってもいいが、明日は会津駒ヶ岳だ。檜枝岐の登山口に近い尾瀬御池を目指して北へくだろう。この道も岩稜帯を抜ければ湿原コースで、熊沢田代、広沢田代へと続く。高層湿原の中に花も多く、自然の風景がすばらしい。そして何より人の少ないのがいい。

御池ロッジは大きな施設で広い。あたりに樹林が立ち並び、雰囲気の良い宿泊所だ。

早朝のバスで檜枝岐の登山口に行き、会津駒ヶ岳を目指す。急な登りは少ないのでゆったりと歩ける。稜線に出ると眼下に草原が広がっている。駒ノ小屋を見て草原にくだっていく。20分で会津駒ヶ岳の山頂だ。北に中門岳が見える。せっかくだから草原の中の木道を伝って往復してみよう。

肩ノ小屋に戻ったら南に尾根道を行く。大津岐峠に出たら、キリンテキャンプ場へくだろう。樹林の中に快適な道が続く。キリンテから会津高原駅行きのバスがある。

（村田）

〈コースタイム〉

鳩待峠（2時間30分）至仏山（2時間）山ノ鼻（1時間40分）見晴十字路泊（3時間30分）燧ヶ岳（2時間30分）尾瀬御池泊（バス20分）檜枝岐登山口（3時間30分）駒ノ小屋（会津駒ヶ岳・中門岳へ往復1時間30分）駒ノ小屋（1時間30分）大津岐峠（2時間）キリンテ

〈地図〉昭文社＝「尾瀬」

＊このコースは8月の例会で実施する。

紀行

北欧トレッキング

白夜のラップランド

利倉正洋

スウェーデン北部

これで八度目となるラップランドだが、今回は例年に比べ約1ヶ月早い6月の出発となった。

ラップランドでの歩き友達ヘニングが、残雪の多い景観と、沈まない夏至の太陽（ミッドナイト・サン）を楽しもうと言うのである。雪がしっかり着いた氷河もいくつか見られるはずで、かける日数は実質約2週間とした。

北に向かう夜汽車の中でヘニングが話してくれた。「今回、ある期待をしている。白夜の季節にはサーレクの高地でフェールビッパーという鳥が巣作りをしていて、うまくいけばそれを見つけるチャンスがある」と。

アクツ小屋下の草原よりMt.スキャーフェ

汽車を降りてバスを乗り継ぎ、前もってヘニングが連絡しておいた自家用車（ハイヤー）で今回の出発点まで送ってもらった。このあたりでは夏至以降にならないと、山小屋は閉じているし、湖を渡るボートもお休みだ。我々はまずアクツ小屋を目指す。

アクツ小屋は、ラップランドの有名なトレッキングコース「王様の散歩道」（クングスレーデン）の中程にあり、周囲のすばらしい環境とちょっと変わった形をしたMt・スキャーフェが望めることもあって、他の山小屋とはちょっと違う別格の存在である。我々が着いた時点では、まだ小屋の管理人はいなかった。

その後の約1週間、小屋を拠点にして周囲の山を散策したり、夏至祭を小屋で祝うためにやってきた常連客達と、ささやかだが心のこもったテーブルを囲んだりした。少しは気の利いた話題を英語で披露するというのもけっこう疲れる。

夏至祭を祝った翌日、いよいよサーレクを目指して小屋をあとにした。小屋で補充した食料も加わってザックはパンパンだ。

サーレク地域付近略図

小屋から一気に高度を上げて高原に出る。風が冷たい。今回の計画は、「サーレクの境界に沿ってひとつ山を越え、向こう側のシトヤウレ湖（全長18キロの氷河湖）に下りる。湖岸を上流端にあるリニム村まで歩き、そこから湖に注いでいるバスタバーゲ谷を遡行し、やがてサーレクの内部へと入っていく……」というものであった（サーレクは、ラップランドの中でも最も自然が手つかずに残されている特別な地域）。

高原は大小の岩ゴロと丈の低い草地であり、大体はどこでも歩けてしまうのである。しかし、所どころ残雪と小さな流れ、あるいは湿地帯があったりして、それなりに進路の状況を読みながら方向を決めていく。経験豊かなヘニングの勘が冴える場面でもある。夕方近く、前方に大きな岩が転がっているのが見える。風が強いので、今夜はその岩陰にテントを張ろうということで近づいて行った。

足元からピーッという鳴き声とともに

サーレク境界あたりで幕営

に鳥が飛び立った。ヘニングが言っていたフェールピッパーだ。ちょっと探すと小石の間に三個のタマゴを置いた巣が見つかった。周囲の石コロと実にうまく同化していて、親鳥が飛び出さない限り気づきようがない。じっと待っていると、やがて親鳥が戻ってきて、無事撮影を完了。この鳥のメスは卵を産み落とすとさっさと南に向けて旅立ってしまい、オスだけでタマゴを温め、ヒナを育てるという。

フェールピッパー（オス）

この夜（6月20～21日）、トイレのためテントを這い出したら、ちょうど太陽が山の稜線付近まで降りている。時計を見ると、なんと0時だ。生まれて初めて見る真のミッドナイト・サン。感激である。

その2日後、残雪たっぷりの斜面を、コースを選び選び慎重にくだってシトヤウレ湖岸に出た。ところが、である。この湖は100％ボートで行き来するものだから、湖岸には全く人の踏跡が無い。ムース（ヘラジカ）やトナカイが付けた細々とした踏跡を探しつつ、身の丈を超すブッシュのなかを悪戦苦闘してやっと湖の上端（リニム）にたどり着いた。湖へ横から注ぐ何本もの流れを渡るものだから、靴はドロドロ、靴下は濡れ濡れになってしまった。

このリニム村（Rinim）には以前幾世帯かのサミ人（ラップ人）が生活していたというが、現在はクムネン夫妻だけが年間を通じて住んでいる。クムネンはトナカイを多く保有していて（リッチマンである）、毎年そのツノを日本に送っている。漢方薬に使われるそうだ。

しかし彼等は留守だった。ハウスの屋根にはでかいパラボラアンテナが付いている。多分、通信用だろう。少し先の草地の丘にテントを張る。良い天候が続いていてありがたい。濡れた靴下と登山靴を干す。あすはいよいよバスタバーゲ谷を遡行し、サーレク地帯に入る。6月というのにすでに大きな蚊が飛び交っていた。

シトヤウレ湖を見下ろす

広い谷に沿った幅のある草原をゆるやかに歩くと、やがてバスタバーゲ谷の入口に達する。ここから谷も狭まり、すぐ右下の流れへと急斜面で、ほとんどトラバース気味の細い踏跡に沿って歩く。残雪も多くなってきた。ときたま左からの流れにかかっているスノーブリッジを慎重に渡る。雪の上に人の足跡がひとつも見当たらないので、我々が今期初めてこのコースの入山者だということがわかる。

夕方、左からの急流が進路を横切っている地点にたどり着いた。目の前に純白の山々がそびえている。サーレクの中心部に近づいた実感が湧く。だがこの急流を渡るには少し度胸が要る。渡れそうなスノーブリッジが無いか上流を探ってみるが、登るほどに谷がゴルジュ状となり、薄気味悪い。とりあえずここにテントを張り、翌朝水量が減っていることに期待した。

翌日も晴天である。ヘニングの誕生日が6月24日であることを憶えていたので、ささやかなプレゼントであるけれど、日本からM社のTシャツをザックに忍ばせてきた。朝の挨拶と同時に「ハッピーバースディー」と差し出すと、彼の喜んだこと。さっそく、長袖の上から着ていた。5年前にトレッキングコースで知り会った彼とは偶然同い歳だった。

さて、これからどうするか。地図を見ながら話し合った。計画では、このバスタバーゲ谷に沿って約4㌔遡行すると峠に達する。そこから向こう側へ7㌔くだって大きな湖に出て、さらに10㌔も歩けばサーレクの境界に出られるのである。問題はこの湖までの11㌔。

の谷筋であって、左右から幾本もの支流が流れ込んでいる。時期が早いのでまだ誰もこの谷に入っていないこと、残雪（スノーブリッジ）の状態がどうも中途半端にやせており、それでいて雪解けの水量が多い。で、もしどれかの支流を越えることができなかったら、また苦労してここまで戻ってこなければならない。

以上のようなことで、結局ここから引き返すことになった。私としては一応サーレクの山々と氷河を遠望ではあるが見る場所まで来たし、もし奥に入り込んでから、にっちもさっちもいかなくなることだけは避けたい。ヘニングの意見も尊重した。

パスタバーゲン谷上流よりサーレクの山々

そこで考えた変更後の案というのがこうである。

湖端のリニム村にいったん戻り、クムネンのボートでシトヤウレ湖を対岸に渡る。そしてもう一山を越えて、向こう側にあるサルトルオクタ山荘へ出るというもの。もちろん地図にはコースの表記はなく、踏跡もトナカイの微かな足跡だけである。しかし、こういうところがラップランドの一番おもしろい部分であり、何となくワクワクしてしまう。所要日数は約5日間。食料は十分ある。

夕刻までにリニム村にたどり着いた。ところがクムネン夫妻はまだ戻っていなかった。もし、舟が帰ってきたらエンジンの音が聞こえるようにと、湖が見下ろせる丘にテントを張って待つことにする。

翌朝エンジンの音が聞こえてきた。しかしそれはクムネンではなく、今期初めてのトレッカーを乗せた別のボートだった。我々はこれに乗って対岸に渡ることができたのだ。

そして予定通り、もうひとつの山を越えて無事サルトルオクタ山荘に着いた。結局、トレッキング中には誰ひとり会うことのなかった我々だけの〝白夜のラップランド〟であった。

（平成21年6月歩く）

《コースタイム》略

紀行

忘れられた山を訪ねて

妙高山（みょうこうさん）と天神山（てんじんさん）

慶佐次盛一

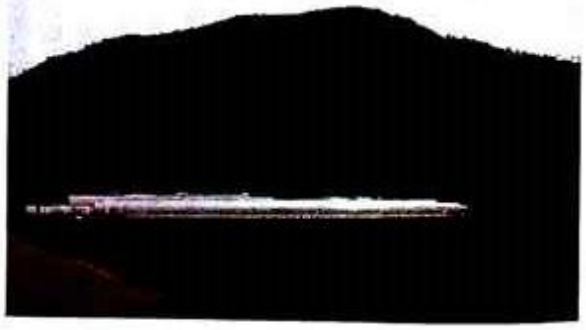
兵庫丹波

本誌110号に載った村田代表の末期癌克服の記事は私に感動と勇気を与えてくれた。

実は私も平成16年に肺癌で左肺の約半分を切除、やっと歩けるようになった頃に十数年前に治療した腰部脊柱管狭窄症が再発。鎮静剤を服用しながら歩いてきたが、平成19年に悪性の肺炎を患い残されていた左肺の機能も失われ、いよいよ山に登れなくなった。

その間本誌への投稿も休んでいたが、村田代表の記事を読んで、私にどこまでやれるかわからないが山の紀行文を投稿する勇気が湧いてきた。今回、長年所在不明だった兵庫丹波の天神山の紀行文を書いてみた。

なだらかな曲線を描く天神山



拙著『兵庫丹波の山』（ナカニシヤ出版）を執筆するにあたり、明治39年（1907）に日本山岳会が発刊した高頭式編の『日本山嶽誌』に記載されている山名が非常に参考になった。しかし、明治時代に呼ばれていた山名がいつの間にか消えてしまったのか、あるいは

忘れられてしまったのか最後までその所在がわからなかった山があった。その山が天神山だった。その天神山は『日本山嶽誌』にはこう記載されていた。

「天神山　丹波国氷上郡ノ東方ニアリ。鴨庄村ヨリ十五町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡二千尺」

京都の故I氏も『日本山嶽誌』記載の山を訪ねるのがご趣味で、ふたりで連絡を取り合いながら探していたが、所在不明でやむなく天神山は割愛して発刊に踏み切ったのだった。だから拙著『兵庫丹波の山』は未完成ともいえる。ところが皮肉なもので、発刊した後から『多利郷土誌』（畑正義著）に写真付きで天神山が記載されているのを知り、おのれの調査不足を思い知らされた。

それにより、天神山は妙高山（564・8㍍）西方稜線の標高点454㍍ピークから蓮華寺にかけての稜線の一ピークだとわかったが、古い写真と畑氏の記述でははっきりとピークを特定することができなかった。『日本山嶽誌』には妙高山は次のように記載されている。「妙高山　丹波国氷上郡ノ東方ニアリ。鴨庄村ヨリ一里六町ニシテ其山頂ニ達ス。全山秩父古生層ヨリ成ル。標高凡千六百尺」

『日本山嶽誌』では天神山の方が妙高山より標高が高いが、実際にはこの稜線に妙高山より高いピークは無い。当時は目測だから誤りもあっただろうが、『日本山嶽誌』に記載された天神山の標高からみて、天神山は妙高山から西方約1㌔先の454㍍ピークではないかと思った。しかしこれは私の憶測だけで確認されたわけではない。その後、日本山岳会が平成版の『新日本山岳誌』（ナカニシヤ出版）を発刊する情報を知り、きっとその中で天神山を採り上げてくれるだろうと大いに期待を寄せていた。

『新日本山岳誌』は平成7年に発行された。残念ながら天神山は掲載されていなかった。それどころか『ふるさと兵庫100山』にも選定されている妙高山も掲載されていないのでがっかりした。これでは長年胸につかえていたものがすっきりしない。天神山はどこにあるのか？　とても私ひとりで調査できないと考え、地元の山の会に応援を求めた。

私の要請に応えて早速「市島山楽会」「氷上高年低山会」「丹波春日の森の会」の三つの山の会のご協力が得られたのはありがたかった。

天神山には以前天満宮の社があったそうだが、明治42年（1910）麓の阿陀岡神社に合祀されて以来お参りする人も少なくなり、次第に天神山の存在が薄れてしまったようで、地元の山の会の調査も難航したようだ。結局数回にわたる踏査と聞き取り調査で、登路である「頂上七廻り」の上のピークが天神山ではないかという結論に達したと、報告を受けた。

それは私が天神山ではないかと思っていた454㍍ピークから北西約500㍍先の440㍍の等高線に囲まれたなだらかなピークだった。「いつでもご案内しますよ」との優しいお言葉に甘えて4月3日に決行することにした。

本来なら麓から登るべきだが私の体調では時間がかかり過ぎると判断、JR市島駅から神池寺まで車で行けるから、お寺から100㍍ばかり標高を稼げば妙高山だ。妙高山から後は山下りみたいなものだから私の体力でも可能だろうということで、神池寺から妙高山、454㍍ピークを経て天神山に至り、そして西麓の蓮華寺へくだる計画になった。

天候不順の日が続いていたが山行当日は幸運にも朝からいいお天気で、大阪から4人で出発。市島駅でご協力いただいた地元の三山岳会4人の方々と合流、計8人で提供のマイカー四台に分乗、まずは蓮華寺へと向かった。

春が遅い丹波にも満開とまではいかないが七分咲きの桜の花が春の装いを見せ、猪ノ口山（黒井城址）や高谷山、小富士山の姿が懐かしい。途中の鴨神社あたりで説明があり、振り返ると丹波槍こと鷹取山の後方に小野寺山と五台山が競い合うように重なり、重量感あふれる愛宕山や五大山、三日月山の山塊が私の胸を熱くした。蓮華寺が近づくと正面に天神山がなだらかな優しい曲線を青空に描いていた。

蓮華寺住職に断り、駐車場に神池寺で置いた車を回収するための車二台を置き、二台で神池寺へと走る。牧南、塚原を過ぎると車は徐々に高度を上げてゆく。市島町多利が近づくと荒廃した田畑が目立つ。私がかつて訪れた時、二軒の農家が残っていたがもう廃村になったようだ。

やがて神池寺に着く。まだ早いのか人影も見えず静まり返った境内である。養老二年（718）法道仙人の開基と伝えられ、その山の姿が須弥山に似ているから妙高山と号し、山に沼（すまず池）があるから神池寺と称したそうで、行基菩薩や慈覚大師も来山、一時は僧坊百を数えるほど栄え、丹波比叡とも称される古刹である。住職に駐車の許可を得て、まずは妙高山へ向かって本堂への長い急な石段を登る。

「きょういちばんのきつい登りです」と言われた通り、本堂前に登り着いた時、私は早くも息絶え絶えの状態。ひと息いれて本堂の左から広い登山道に入る。登る人が少ないのか落ち葉がゆたかに積もった道だった。道の傍らに見える石垣は昔の僧坊跡である。ゆる

い傾斜だったが私にはきつく、時々息を整えながらゆっくりと登る。そんな私を気遣ってペースを合わせてくれる地元の岳人には申し訳なかった。

カゴノキや旧氷上郡名木名林百選に選ばれた異様なコブだらけのアカガシの大木を見ながら進むうちに傾斜も大きくゆるみ、道の左側に「右野上野、黒井　左鹿場、国領」と、崩し書きで彫られた道標石仏が立っている。広い道は妙高山の南側を捲いているので、ここから稜線の細い踏跡を登る。間もなく愛宕地蔵尊の前に出て、北向きの二等三角点はその裏に埋まっている。愛宕地蔵尊は放火・戦火などの災難に見舞われた神池寺が火伏せのために祀ったそうだ。相変わらず展望の無い頂だったが、私にとって実に25年ぶりの山頂で懐かしく、体調を崩してから初めての山らしい山だった。

山頂からそのまま稜線を進むと先程の広い山道に合流し、今度は454㍍のピークを目指す。進むほどに道は細くなり、先の方に454㍍ピークと天神山の影が見えてくる。鷲は春でも稜線はまだ冬枯れの雑木が続き、枝の間から黒頭峰、夏栗山、三尾山、のこぎり山などが垣間見えて胸を躍らせる。

454㍍ピークは野上野側に赤いロープが張られ松茸山の立入禁止の表示があり、地形図通り破線の道が野上野へとくだっている。私達は北西に踏跡程度の道を進路にとり、緩傾斜面を40㍍程高度を下げ、ゆるやかな登りで30㍍ばかり標高を上げた所が天神山の頂だった。

天神山は「多利の天神山の松」として名高い二抱え以上の松の美林に覆われていたが、明治32年頃売却。その売却代金の利子で旧新知（南と北）は天神講を勤め酒の飲み放題が戦前まで続いていたそうだが、今はその面影もない。

展望も無くヒサゴの種が落ちる雑木に覆われた小広い稜線の高みで何の特徴もない山だが、すぐこの下に「頂上七廻り」の道があるからこの山が天神山に間違いなかろう。天神山は多利の東に位置するから東山とも呼ばれ、山中に天満宮をお祀りしているから、あるいは昔の人は一つのピークにこだわらず先程の454㍍ピークをも含めて山全体を天神山と愛称し、親しんでいたのかも知れない。これで高頭式編の『日本山嶽誌』に記載された兵庫丹波の山は全て訪れたことになる。さすがに地元の山の会、よくここまで調べてくださったものと感謝するとともに、私の長年の胸のわだかまりもすっかり雲散霧消してしまった。やはり丹波の北部、途中少し時雨もきたがまたすっきりと晴れ上がり、木漏れ日のなかでの昼食がことのほかうまかった。

野上野方面へくだると思われる踏跡があったが、稜線の左寄りに沿って進むと「頂上七廻り」の下りになる。小道程度だが、その名の通り小刻みに七回ほど曲がりながらくだってゆき、地形図の日ヶ奥渓谷からの広い道に飛び出した。この道から「頂上七廻り」に取り付くには踏跡も定かでなく目標もないので、目印の紐を雑木の幹に結んでいただいた。

地形図の破線路は北へ大きく方向を変えて尾根上へと続いているが、私達は山腹の道をくだる。地形図に破線が描かれてもいいくらいはっきりした道である。このあたりはもう杉の植林帯で道端にでんと腰をすえた巨岩に驚きながらくだっていると、左に白いビニール紐が張り渡してある場所がある。八幡宮跡と伝えられる所でわずかな平地が残り、石垣に使われたと思われる石がわずかに付近に散乱していた。八幡宮は寛政四年（1792）に阿陀岡神社に合祀されたそうだからずいぶん昔のことで、地元の人に教えて貰わないとわからない。

ここから少しくだった左側50㍍ほど奥に「奥の谷竜神」碑が建っている。鷲の古池、新池の護り神だが、昭和30年の旱魃時に雨乞い祈願の結願を記念して建てられたもの。元の道に戻ると途切れた地形図破線の道になり、間もなく地形図通り分岐する。まっすぐ行けば新池へくだれるが道は相当荒れているとか。私達は右（北）へ折れ、平坦になった道を進んでいると右側の杉林のなかに「天満宮社跡」と刻まれた立派な石碑が立っている。天神山の名の由来となった天満宮跡である。地形図ではこのあたり一帯が平坦地になっているから相当な建物であったと想像される。伐採木の下には割れた瓦がまだ残っていた。多利と菅原氏との関係は定かではないが、菅原道真は天神でありまた竜神でもある。竜は雷を呼び雨を降らす。農業に貴重な水を乞うために天満宮を勧請したのかも知れない。そう思うとすぐ近くに「奥の谷竜神」を祀った理由も解けた気がした。

しばらく休んで蓮華寺へとくだる。少々荒れた急な道だったが傾斜が落ち着くと新しい大堰堤が現れ、それを越えると蓮華寺本堂の屋根瓦が見え、鹿除けネットの扉を開けると本堂横に着いた。ここで神池寺へ車を回収に行く車と別れ、その間大阪組は阿陀岡神社で待つことになった。

神社は吾田鹿葦津姫命（木花咲耶姫命）を祀る延喜式内社。現存する本殿は寛保二年（1742）の建物で厳かな雰囲気で鎮座する社には分祀した天満宮の鳥居もあった。やがて神池寺からの車も合流。黒井駅まで送っていただいた。

今回の山行は地元の山の会のご案内ならではの内容の濃いもので、有意義な一日を過ごすことができた。

＊妙高山の登山路は『丹波・市島山歩きマップ』（市島観光案内所0795－85－6880）、『ふるさと兵庫100山』（神戸新聞社総合出版センター発行）に詳しい。蓮華寺・神池寺の駐車は許可を得る必要がある。

（平成22年4月3日歩く）

《コースタイム》
JR市島駅（車20分）蓮華寺（車20分）神池寺（15分）本堂（40分）妙高山（45分）454㍍ピーク（20分）天神山（30分）奥の谷竜神碑（5分）天満宮社跡（30分）蓮華寺（車20分）黒井駅

〈地形図〉2万5千＝市島

標高による山の紹介シリーズ53

松田敏男

新ハイ関西113号

標高△△13mの山

1313峰（1313メートル 奥飛騨）
滝波山（1413メートル 奥美濃）
八幡平（1613メートル 奥羽山脈）

1313峰

1月初旬、三連休を利用して、時高さん夫妻と3人で奥飛騨へ日帰りのスキー登山を3日間続け、この山へは最終日に登った。

初日に旧清見村と旧荘川村の境にある烏山から火山を歩き、2日目は旧久々野町の船山へ行った。最終日は帰京日なので簡単な山へということで、もう一度火山の登山口近くの西ウレ峠へ戻り、火山の南方にある無名の1313峰へ行くことにした。

雪がたくさん積もっていたのでよくわからないが、森林公園のような所だった。案内地図板があり、ブナの大木の印やコースの説明などが表示されていた。

自然が豊かな森で、山頂あたりからは乗鞍岳や御嶽が美しく望めた。

（平成22年1月11日歩く）

《コースタイム》

西ウレ峠（2時間・下山はスキー滑走）1313峰往復（登り案内板のBコース、下りAコース）

〈地形図〉2万5千＝六郎

滝波山

時高さんと高橋さんとの3人でスキー登山をした。長良川支流の板取川源流である滝波谷の奥にある山なので、滝波山と呼ばれ、旧板取村の奥美濃最奥の山のひとつだ。

滝波谷沿いの林道が奥まで入っているが、標高600㍍付近で左の斜面に上がっている林道を登った。シールを貼ったスキーは林道のような平らな斜面をゆっくり登るのは非常に快適で、歩く時のような上下左右のブレがなく、また足元を見る必要もないから、さながらシネマスコープのネイチャー映画をじっくり鑑賞している感じで登っていける。

標高1020㍍あたりまで登ったところで林道にテントを設営した。まずスコップで雪のブロックをたくさんつくって風避けをつくり、テントの出入口に溝を掘って出入りしやすいようにした。

滝波山からドウの天井・左門岳方面を望む

翌日は西側の斜面に取り付き、少し急な斜面をジグザグに登る。日帰りの軽装備なので、高度差250㍍程の主稜線まで楽しく登れた。標高1270㍍の主稜線からは快適に北上するのみだった。西には美濃平家岳や屏風山など、奥美濃の山々の重畳とした眺めを見ながら、山頂に着いた。

（平成11年2月27日～28日歩く）

《コースタイム》

滝波谷林道車止532㍍付近（3時間30分）林道1020㍍付近へテント泊〉（4時間30分・下山はスキー滑走）滝波山往復（40分・スキー滑走）車止

〈地形図〉2万5千＝門原

八幡平

東北の山は避難小屋が充実している。その中でも八幡平にある陵雲荘は特に印象深いものだった。

盛岡駅前からバスに乗って茶臼岳登山口に行き、茶臼岳や源太森を越えて八幡沼畔に立つ陵雲荘に泊まった。

テラスから八幡沼が眼下に大きく、沼を囲むアオモリトドマツの深い森が遥か東北の山に来た感慨をしみじみと呼び起こさせた。男性登山者がひとりおられたが、私と同じくこの静寂を破るまいと、ひそやかに食事し、沼の暮れなずむ夕暮れの鈍色に身を染めた。

霧の立ち込めた朝は天国のようなすばらしさ。アオモリトドマツの一木一木がくっきりと霧のなかから立ち現れ、池の輪郭がおぼろげにわかりかける頃、日差しが霧のベールをきらめかせた。

八幡平の山頂へは陵雲荘より10分程度の距離で、人が波のように押し寄せるであろう百名山の山頂も、早朝だから登山者がまばらでよかった。あとは静かな、大深岳への縦走に向かった。

（平成18年7月24日～25日歩く）

《コースタイム》

茶臼岳登山口（4時間）陵雲荘（7時間）八幡平経由、大深山荘

〈地図〉昭文社＝「岩手山・八幡平・秋田駒」

随想 山のエッセイ

植物雑感四方山話② ——

田中 明

山への忙中閑有り、何気なしに本誌のバックナンバーを繰っていると、私の投稿した随想「植物雑感四方山話」が目に留まった。それは4年前の83号である。

多彩な植物たちのうち、山野草・樹木のあれこれを紹介したものである。終わりに「他の植物についてはまたの機会に」と結んでいたが、すっかり忘却のかなたとなって汗顔の至りだが、ここでは高山植物に触れてみよう。

とりわけ2009年は高山への登山が多く。さまざまな高山植物に出会えたので、高嶺の可憐なお花について触れてみたい。

まずは礼文島のレブンアツモリソウ。この貴重種はいまや絶滅への危機から、かろうじて柵内で鑑賞するという悲しい状態の花である。

さらにシテンクモキリという2008年に日本植物学会で新種として発表された、唇弁の溝に紫色の斑があるのが特徴の花にも出会えた。調べるとクモキリソウとジカバチソウの中間のような姿のラン科の花である。新種の花に出会えたことはまさに狂喜乱舞であった。

だがしかし、利尻山ではいつもと同時期の登山なのにどうやらその年が冷夏のため、リシリヒナゲシ・ボタンキンバイなどの希少種においては咲いている固体との出会いがなかったのが惜しまれた。

花の百名山でもある八甲田山毛無岱で見たヒナザクラの大群生はさすがだった。雪田植物の妖精といわれ、東北の山ではどこでも見かけるが、これほど心躍らせ喜々として顔を綻ばせたことはない。

同じサクラソウ科であるミチノクコザクラ（別名イワキコザクラ）をここだけに咲く岩木山で見て、さすがに東北の名花であると頷けた。

佐渡のドンデン山へのアオネバ渓谷の花の道には毎年通いたいほどの花々が待っている。なかでもオオミスミソウ（ユキワリソウ）やシラネアオイの優美な満開の姿にうっとりだ。

同じ新潟県の角田山周辺の山々もオオミスミソウは佐渡に負けないが、こちらでは大ぶりなキクザキイチゲの大群生に感動しきりであった。

八ヶ岳ではツクモグサが人気の的だが、私はホテイランにもうっとりするものがあると確信している。誰かが亜高山帯の貴婦人と言ったようだが、まさに森の貴婦人であり、多くのファンが通いつめたい気持ちを抱くが、同感だ。

トウヒレンは高山だけでなく高原や低山でもいろいろな種が住みわけているようだが、私が南大菩薩縦走時に出会った種はセイタカトウヒレン。紫色の楕円形の蕾をつけている時で初見である。キク科トウヒレン属は高山帯でも10種を超える種をもつ。なかでもクロトウヒレン・シラネアザミなどは目にする機会があっても、山梨県や奥多摩に多いセイタカトウヒレンの茎につく翼の幅広いのには驚愕の極みであった。

美ヶ原で咲いていたクワガタソウの仲間のグンバイツルも私には珍しい花だ。果実の形が軍配に似ていてツル性のための由来らしい。

霧ヶ峰でのシソ科のケブカツルカコソウも全体に毛が多く、花後に走出枝をのばしてカコソウ（ウツボグサの別名）に似るからとあるが、そうは見えなかった。

岩の殿堂といわれる鹿岳には関心がなかったのだが、映画「点の記」ブームでやむなく登ることにした。どんな花が見られるのだろうかと調べると、タテヤマイワブキがガレ場で咲くと知り、これをお目当てに登ることにした。

もっとも8月末では花期はとっくに過ぎており、葉さえ発見できなかった。残花は、岩稜続くカニのたてばいで咲いていた同じユキノシタ科のミヤマダイモンジソウくらいだった。

タテヤマイワブキも調べると、鹿岳だけでなく白馬・後立山連峰や穂高にも咲くというので、遅いのを承知で奥穂高岳にも登ったが、ザイテングラードのイワギキョウや涸沢小屋あたりのクロクモソウしか会えなかった。来年はもう少し早めにリベンジしたいものだ。

最後に北八ッで少ししか見たことのなかった、北岳のバラ科キンロバイの大群生にも出会えてこのうえない喜びだった。

いずれにしても2009年もこれだけ多くの高山植物たちに巡り会えたのもひとえに健康の賜ものだろう。まさに歓天喜地の心境である。

シテンクモキリ

鹿岳の祠

紀行

浜名湖を望む一等三角点の山

神石山と葦毛湿原

薮木伸人

三河

ここでの「湖西連峰」とは三河・遠江の三遠国境、浜名湖の西に位置する弓張山系のことである。

8月の終わりに、妻が「葦毛湿原に行こう」と言って、鉄道・バス路線を調べてくれていた。以前私が「白玉星草を見てみたい」と言ったのを覚えていたようだ。花の最盛期には早く、天気次第では9月でいいと思っていたら、台風一過の晴天になりそうだったので、出かけることにした。

湿原を抱く山並には自然歩道がのびていて周遊可能なことがわかった。先に湿原に廻ると、私の場合、時間をくってしまいそうなので、山歩きの後で湿原にくだるプランにした。

普門寺峠（前方は船形山）

7時29分松阪駅発の近鉄特急に乗り、8時43分に名古屋着。8時54分発のJR新快速に乗り換え、豊橋駅には9時46分着。10時発の赤岩口行き豊鉄バスに乗って、30分程で目的地の駒止に着いた。

1190年10月、京に上る途中の源頼朝は、この駒止の鞍掛神社に鞍を奉納して武運長久を祈願したと伝えられ、近くには頼朝が馬をつないだ「駒止の桜」がある。「葦毛」の名も、頼朝が葦毛の愛馬の急死を悲しんで手厚く葬ったことに由来するという。

駒止バス停から地形図通りに山への道をたどる。龍岩院を左に見て豊川用水の小橋を越え、手洗集落に入る。右に「普門寺自然歩道」の道標を見送って直進し、日吉神社の鳥居前に立つ。神社左手から山道に入ると「神石山自然歩道」の道標があった。

夏草、特にササ草がのびていたが道は明瞭で、10分程登ると赤松の植林帯になる。つきまとう虻を払いのけながら登る。水源から離れたせいか、そのうちに虻もいなくなり、稜線に達した。

当初、神石山へは北麓から登る予定だったが、道標に従って歩いていたら南の鞍部に出たので、ここからピストンすることにした。鉄塔巡視路によくある土留めの段が施され、上の方はけっこう急になっていたが、鞍部の道標に10分とあった通りのタイムで山頂に着いた（駒止バス停から2・8㌔、比高は約300㍍）。

天辺が赤く塗られた一等三角点「神石山」324・67㍍を確認。その先に「旧航空灯台跡」の標識があった。1960年頃まで空の灯台としてサーチライトが回っていたそうだ。東側の一部が開けており、浜名湖を望むベンチに坐って一服できる。

長居せずに、11時45分、南への縦走を開始。豊橋自然歩道は歩きやすい稜線の道だ。12時、ヒトツバの茂る道脇の木に「普門寺伽藍跡」のプレートが下がっていた。

普門寺は、727年に行基が船形山に登り、聖観音像を刻んで本尊とし、頼朝の庇護を受けて栄えていたが、戦国の世になって、船形山を巡る今川・戸田両氏の争いで全山焼失、荒廃した。今川義元によって現在地に再建され、江戸幕府の保護下において隆盛を迎えたという。今は東麓の雲谷町にあり、重文の仏像・銅鏡等数点を収蔵している。

伽藍跡の先右手に少し樹木の切れ間があり、豊橋の街が見えていた。下り切った所が普門寺峠で、左（東）にくだると普門寺、右にくだると手洗に至

る。道標に「葦毛湿原3・3㎞」とある。5分登り返すと、送電鉄塔の立つピーク、船形山だ。「船形山城跡」の標柱が立ち、側面に解説が記されている。

「舟形山城は、三河、遠江国境線上にあり、交通の要衝にあたっていたところから、戦国時代には、今川氏、戸田氏、松平氏の交戦場となった。なお遺構は、約六百平方メートルの本丸址、東西の端を区切る空堀、本丸西崖下に長さ四十メートルの帯状に広がる腰曲輪等が代表的なものである。」

右手に木彫の地蔵さんを見ながら次の鞍部にくだると、道が三つに分かれている。真ん中の道を登っていくと、10分程で座談山に着いた。このピークが、行程中でいちばんの展望良好地である。稜線上にこんもりと盛り上がった神石山を指差すと、妻は、あそこから歩いてきたのかと、少し驚いた様子だった。東の支尾根末端のピークは嵩山（四等）。浜名湖は遠くなったが、湖西の田園風景が眼下に広がっている。富士山が見える日もあるようだ。

縦走路より神石山・船形山と奥に浜名湖

妻手製の黄粉シフォンケーキとスポーツ飲料での行動食を済ませ、12時40分、再び先に進む。5分後、二川テレビ中継所ピーク（306㍍）に着く。この稜線では、3月末から4月にかけて、カタクリ・キスミレ・ヒロハノアマナの花が、また5月に入ると、三河地方の固有種ナガボナツハゼの花が見られるという。

このピークから西にくだる道があるようだったが、直進する。左に「大脇自然歩道」の標識を見送り、最後の展望地に立つと、弓張山系最南端尾根の左右に、静岡・愛知両県の景色が広がっていた。

13時、「葦毛湿原↑」の道標に従って手すり（鎖）付き階段をくだる。山腹を捲いて10分で「一息峠」に到着。今度は「↓葦毛湿原1・1㎞」に従って、また10分進む。「←葦毛湿原／葦毛湿原入口へ下る↑」の標識で迷ったが、くだらずに山腹を直進。すぐまた右への分岐があり、ますます迷うがこも直進。ゆるやかな下りが長いので少し心配になってきた頃、「葦毛湿原へ↑」の標識を見つけてひと安心。1分もくだらない間に、木道が敷設された湿原内に入った。

葦毛湿原は愛知県最大の湿原で、5万平方㍍の緩傾斜地に約750種の植物（うち湿生植物約250種）が自生しているといわれる。しかし地表近くにあるチャート層のため表土は薄く、斜面から浸み出す地下水の細流だけで維持されている脆弱な環境にある。

湿原の花は、春浅い頃から咲いているイワタカンアオイに始まり、ショウジョウバカマ、4月に入るとハルリンドウ、5月にかけては固有種のミカワバイケイソウ、続いてカザグルマ・ハンカイソウ・クロミノニシゴリ・ヤブデマリ、夏に向かってカキラン・ノハナショウブと咲き移っていく。

私達が訪ねた8月末には、やはり白玉星草はほとんど開花前だったが、白い金平糖のような多数の蕾を初めて見ることができて感激した。また、これも小さな花だが、黄花のミミカキグサ、薄紫のホザキノミミカキグサがいたる所に咲いていて、思わずしゃがみこんでしまう。何でも、ここには日本産のミミカキグサ4種が全て咲くそうである。

葦毛湿原のミミカキグサ

咲き残ったサギソウや、ミズギク・ミズギボウシ・イワショウブ・サワシロギクといった湿原ならではの花も見られ、ワレモコウ・サワヒヨドリ・キセルアザミも咲き始めていた。さらに花こそ無いが、モウセンゴケ・ヒメシロネ・サワオトギリ・ハンゲショウなども、目をひいた。

9月から10月にかけては白玉星草の花が見頃となり、10月に入るとこれも固有種のミカワシオガマ、晩秋にはホソバリンドウ・スイラン・ヤマラッキョウの開花が見られる。

30分程、湿原内を散策し、14時に湿原を後にする。「石巻山多米県立自然公園」の看板があった。神石山・坊ヶ峰・石巻山を湖西三山と呼ぶのだそうだ。稜線から湿原西までは約2㌔、比高は215㍍。長尾池畔（駐車場やトイレあり）よりも南に出てしまったので、少し北に戻って岩崎バス停を見つける。14時20分、定刻にやってきたバスに乗って家路についた。

もしかしたら、と少し期待していた富士山は見えなかったが、座談山からの眺めは良かった。富士といえば、この弓張山系にも浅間山が点在していることを知った。松阪からだと車を使わないと日帰りは難しそうな所も多いが、いつか行ってみたいと思っている。

（平成21年8月31日歩く）

《コースタイム》
駒止バス停（25分）日吉神社（30分）神石山南鞍部（10分）神石山三角点（15分）普門寺峠（5分）船形山（15分）座談山（5分）二川中継所（20分）一息峠（20分）葦毛湿原（湿原内散策30分）（10分）岩崎バス停

《参考文献》
・東海の百山　前編（00年人間社）
・新・こんなに楽しい愛知の130山（03年風媒社）
・週刊花の百名山25（04年朝日新聞社）
・愛知県の歴史散歩　下・三河（05年山川出版社）

紀行

山行記録

毛勝山

山田明男

黒部

以前、インターネットで笈ヶ岳への山行記録を見ていたときに知った山である。4月末の残雪期に笈ヶ岳へ登ろうと情報を確かめていたときである。笈ヶ岳にはその年の6月にやぶを分けて登った。

毛勝三山といわれ、北の毛勝山、真ん中の釜谷山、南の猫又山と連なり、鍛岳の北西10キロで北アルプスの北端にある。昔は道がなく、毛勝山では99年頃に西北尾根が、猫又山はブナクラ尾根から数年前に開かれている。真ん中の釜谷山にはまだ夏道はない。

笈ヶ岳と同じ2000名山で、共にきつい山として知られていて、本州のきつい山ベスト5に入るようで、ほかにきつい山としては佐武流山・笠ヶ岳・鋸岳がある。

赤谷山より毛勝三山

毛勝山への登山は標高差1700㍍を日帰りしないといけないから大変だ。

06年6月に行ってみた。その年は積雪が多く、標高1800㍍以上は雪で埋まっていた。毛勝谷には例年5月連休頃までしか入れないようだが、この年は6月でも30人以上が入っていた。尾根には我々7人だけだった。

毛勝谷は長さ4キロに及ぶ大雪渓で、標高差1800㍍ほどあり、白馬大雪渓の実に二倍もある。尾根上から谷に入っている人がよく見えた。スキーをしている人もいる。谷は尾根より距離が短いので4～5時間で山頂に着いたと言う。尾根を登った我々も標高差600㍍にも及ぶ上部の雪斜面は初めての体験で、とてもきつかった。

その日、登山口から6時間程で山頂に着いた。山頂に雪は無く、三角点とお地蔵様を見た。1時間もあれば釜谷山へ往復できると言う人がいたが、ここまで来てさらに足をのばす気にはなれなかった。

下りの尾根もきつく、登りと同じ時間がかかりそうだ。毛勝谷の斜面を覗いてみたが、急すぎて我々のグループではとても無理だ。たとえ登れたとしてもくだれないだろう。尾根を外せば斜面がきつく、踏み外せば1000㍍は滑落するだろう。もちろん命は無い。

5時間かけて下山。雪の無い所ではイワウチワ・ヒメイチゲなどが咲いていた。10日後にはシラネアオイもあったと、後で行った知人が話してくれた。

07年9月、雪の無い時期に例会として登った。前日は登山口の片貝山荘で泊まり、翌5時前に出発した。先客のツアー客はその30分前に出た。

初登から1年3ヶ月後で、ずいぶん道もはっきりしていて、一部不明瞭な所もやぶが切られていた。雪のあった所も雪が無ければ歩きやすく、最年長のOさんを先頭にドンドン上がってゆく。残雪期は尾根近くを歩かないといけないが、夏道はずいぶん東の方から廻るように付いている。

最後の急斜面はやはりきつかった。展望が無くガスっていて周囲が見えないので気が晴れない。先行したツアーの人も山頂の少し前で、すぐ先が山頂だと勘違いしていた。ガスっていればの話で、晴れなら間違いはない。

晴れていれば、山頂から猫又山、その先の赤谷山、鍛岳までよく見えるのに残念だ。後立山連山は爺ヶ岳付近から犬ヶ岳方面が眺められる。06年の時は快晴で全て見ることができた。40分山頂にいて下山にかかった。

（平成18年6月2日・平成19年9月2日歩く）

《コースタイム》

〈07年9月〉片貝山荘登山口（2時間20分）三角点（1480㍍）（1時間50分）モモアセ山（1時間30分）毛勝山（4時間30分）登山口

〈地形図〉

2万5千＝毛勝山　5万＝黒部

最新刊　新ハイキング選書　第30巻

関東周辺の
やさしい雪山登山コース
57コース

A5判・196ページ
定価1680円(税込)　植手 崇文 著

何百回かの山行を重ねた著者が、一番熱を入れて取り組んできた雪山について、その美しさ、楽しさ、充実感を、後から続く人に伝えたい。そして多数の方々が雪山に入る助けになりたいとの思いから、あらわした書。そのために、厳冬期の山は、山小屋が営業し、大勢の入山する山に限り、一段と難度の高い山は、天候が安定し、雪崩の危険がほとんどなくなるゴールデンウィーク前後を選んでいる。全体的に言えば、初級・中級コースの紹介であり、また、「紀行集」の形をとり、「ガイド」とするよりも、実際に歩いた感覚が伝わるよう配慮されている。

〈東北・那須〉月山、西吾妻山、朥魔ケ岳、安達太良山、那須　茶臼岳、那須　朝日岳
〈会津　尾瀬　上越〉会津駒ケ岳、燧ケ岳、至仏山、上州武尊山、毛猛山、白毛門、谷川岳、白砂山～佐武流山、苗津岳
〈志賀　浅間周辺〉笠ケ岳、黒斑山、高峯山、水ノ塔～籠ノ登山、湯ノ丸山、村上山
〈丹沢・奥秩父〉丹沢主脈縦走、雲取山、大菩薩嶺、金峰山、瑞籠山
〈八ケ岳・美ケ原〉蓼科山、北横岳、縞枯山、天狗岳～硫黄岳、赤岳、阿弥陀岳、美ケ原
〈南アルプス〉鳳凰三山、甲斐駒ケ岳、仙丈ケ岳、入笠山　釜無山
〈北アルプス〉乗鞍岳、上高地、焼岳、奥穂高岳、北穂高岳、西穂高独標、槍ケ岳、蝶ケ岳、燕岳、燕岳～蝶ケ岳、鹿島槍ケ岳、唐松岳、唐松岳～五龍岳、白馬岳、立山、毛勝山、水晶駒ケ岳、御嶽山、笈ケ岳、猿ケ馬場山

●本誌添付の振込用紙でご注文されると、送料当社負担

新ハイキング社
〒114-0023　東京都北区滝野川7-5-5　Tel/Fax　03-3915-8110

紀行

秋田駆け足遊覧記（上）

田沢湖と秋田駒ケ岳

東北

木村太郎

1日目は伊丹空港の朝便で秋田へ飛び、新幹線で田沢湖駅に出て田沢湖周遊。2日目の朝は秋田駒ケ岳へ登り、昼からは角館祭りのやま行事を見物する。3日目は角館から秋田内陸縦貫鉄道で阿仁前田駅に廻り、森吉山登山。4日目は男鹿半島の本山を歩き、秋田空港の夕便で帰阪する。このように秋田県内を駆け足で遊覧する観光地めぐりと山歩きを計画した。

この号では、2日目までの行程について書いてみた。田沢湖での思い出と、一等三角点の秋田駒ヶ岳登山についてである。また角館祭りのやま行事見物も途中で雨に降られたものの、町めぐりは十分に楽しめた。

1日目＝秋田駅から田沢湖へ

秋田駅西口にバスで着いて、昼食の店を探して駅前の大通りを歩く。秋田を代表する夏祭りの「竿燈」を通りの名称にしている。城跡の千秋公園が近くにあり、久保田（秋田）藩の城下であるためか、竿燈大通りの小広場には「菅江真澄の道」の白塗りの観光標が立っている。

菅江真澄（1754～1829）は江戸後期の紀行家であり、生地の三河国から旅立ち東北や北海道をめぐり歩き、旅先で遊覧記をはじめ図絵帖などを著している。久保田藩主佐竹義和の知遇を得て、出羽六郡の地誌作成を行った民俗学の先駆者でもあった。

田沢湖駅から羽後交通バスで田沢湖畔に向かう。田沢湖は抱返り渓谷を含めて県立自然公園で、春山地区の白浜から遊覧船が出ている。田沢湖は周囲約20キロ、水深423メートル余で深さは日本一。神秘的な瑠璃色の水は、玉川流域の発電所の排水が出るまではフォーレ

ル水色標準液の第一号で、たぐいまれな透明度の高い美しい湖として知られている。

遊覧船は湖を囲む外輪山を眺めてほぼ円形の田沢湖をめぐり、高鉢山麓の「たつこ姫」をまつる御座石神社のそばを進み、院内岳麓に「たつこ像」を建立した西木村の潟尻に接岸する。未来社刊の『日本の民話』秋田出羽篇の松谷みよ子採録「辰子姫物語」によれば、永遠の若さと美しさを願った院内の里に住む辰子という娘が竜に変身し、田沢湖の主になったと語られている。

田沢湖のたつこ像

変わらない若さと美しさを望み院内岳にある大蔵山観音堂へ百日間通いつめ、辰子は観音様のお告げを聞いた。山の北方に湧く泉の水を口にすれば永劫の若さと美しさを得るという。これを信じ、院内岳から駒森山を越えて高鉢山を目指し、花の森を抜けてブナの森に分け入り、辰子は泉を見つけたという。

泉の水を飲んで辰子が竜に化したとき、大地が裂け雷鳴がとどろき大雨が降り注いで湖ができたという話を聞けば、瑠璃色をした田沢湖は辰子の美しさで染められたという伝説を信じる気持ちにさせられる。十和田湖の南祖坊や八郎潟の八郎などの離れた土地に住む湖の主から思いを寄せられるなど、辰子姫の美しさを想像させる民話も伝わっている。

潟尻から白浜の船着場へ向けて遊覧船が引き返す時、湖岸の背後に秋田駒ケ岳が望めたが、山頂は厚い雲におおわれ山裾部だけが目にできた。ベールに包まれた駒ケ岳にあす登るのだが、遠来の目的のその時を思い描いて胸が騒いだ。

天気が良ければ茜色に染まる湖の光景を見ることができるのに、曇天の湖上を遊覧船は小波を立てて走っていた。

2日目＝秋田駒ケ岳から角館へ

水沢温泉郷のホテルタザワをタクシーで6時半に出発。霧が流れる駒ケ岳八合目小屋に7時前に到着し、4時間後の11時に迎えの車を頼んで歩き出す。仙北地方の天気予報では曇りのち晴れ、最高気温が22℃で最低が11℃とか、山の朝はひと桁台止まりであろう。

夏山の最盛期には登山バスが駅前から県道127号の駒ケ岳登山口を通り、駒ケ岳八合目まで運行している。鉱山開発で八合目道路が開通するまで、古くは生保内駅（今の田沢湖駅）と国見温泉からの道しかなかった。

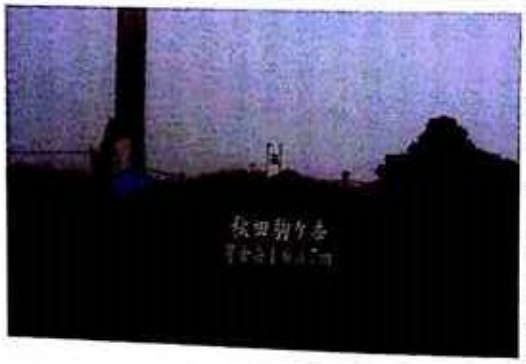
奥羽本線の大曲駅から分線した田沢湖線が盛岡駅と連結していない時代の昭和初期は生保内駅が終着駅であった。当時は最短コースの生保内駅から駒ケ岳へは登りに5時間、下りに4時間を要すると、昭和4年発行の鉄道省刊『日本案内記』東北篇に記載されている。

田沢湖駅から正味徒歩で歩く山登りに比べれば、車で八合目まで入れる今の駒ケ岳登山はアプローチが簡単である。田中澄江は『新・花の百名山』で、秋田駒ケ岳は「花の種類が多い高山植物の宝庫」と言う。田沢湖駅の観光案内所に昨日立ち寄ったところ、掲示板に「秋田駒ケ岳花情報」があった。コマクサは私の憧憬の花だが、9月5日時点で大焼砂と焼森でわずかに咲いているという。

その時購入した駒ケ岳の絵葉書に、大焼砂の斜面にびっしりと密集したコマクサと、大草原に群生したニッコウキスゲの絵柄が印刷されていた。6月のタカネスミレ、7月のコマクサ、8月のハクサンシャジンなど次々に花が咲き競う駒ケ岳、9月にはどのような花が見られるのか楽しみである。

駒ケ岳八合目の休憩小屋を後にして、片倉岳コースへ進んで山道に入る。樹木も下草も未だ眠りから覚めない様子で静まり、朝露に濡れた山道は登るにつれて霧が深くなる。足元の傾斜に注意して行けば、火山性の赤土を敷きつめた片倉岳展望台に出る。ただし、霧のなかの展望地で周りは何も見えない。

やがて保護柵がある水平道になり、絵葉書で見た草原に着いたようだ。ニッコウキスゲの群生地なのだが、すでに花の季節は過ぎているので影も形もない。登山道そばのお花畑に目を凝らすと、黄色いミヤマアキノキリンソウ、青色のオヤマリンドウ、他にはキオン


秋田駒ヶ岳（男女岳）

にゴマナにヤマハハコとおぼしき花が咲いており、山はすでに秋の装いへ移っている。

湿原地の木道になり、このあたりからは男岳や女岳などを見通せる場所だが、霧は濃く深く木道も途中から闇に没している。阿弥陀池西端に男岳分岐があり、右手に折れて男岳への道を行く。平坦な木道が途絶えてロープを張る踏段道になり、その階段が終われば

ガレ場の台地に出て道が交差している。

まっすぐ進めば火口原の馬場ノ小路、横岳へ馬の背道が東に続き、男岳へは西の石塊道を登る。風が強い頂上直下の道端で鈴を揺らしているハクサンシャジンを見つける。青い涙色した可憐な姿をデジカメに撮り、一気に頂上を目指す。登り切った場所にケルンを積んでいるが、頂上ではなかった。

ケルンから尾根稜線を南へ進めば男岳（1623）山頂に出て、山名標が立ち駒形神社がまつられている。円柱の方位盤に田沢湖も岩手山の名も読めるが、間近の女岳溶岩流さえ見えないほどの濃霧に包まれている。霧の向こう側では駒ケ岳伝説の手長椎と足長椎の兄弟神が雪毛の馬に跨り、馬場ノ小路で遊んでいる姿が想像させられた。

兄弟神は雪毛の馬が死んだ後に山上に神馬の祠を建てたという。それからは初夏、残雪期の山肌に奔馬の姿が現れるので駒ケ岳ときには駒形山と呼ばれるようになり、人々の信仰の対象となった。明治中頃まで女人禁制を定めた修験道の山だったという。

男岳の道はさらに南にのびるが、金十郎長根から白滝を通り、桧木内川（玉川水系）に沿う昔からの道は中生保内口へくだることができる。田沢湖というカルデラ火山と、駒ケ岳火山との裾合盆地に開けた生保内集落へ、木材搬出のために開いた桧木内林道が続いている。

男岳の祠に手を合わせた後、男岳分岐に引き返し、阿弥陀池北沿いを歩く。霧が深く岸辺しか見えないために、池の大きさが掌握できない。まるで大海原の渚を彷徨している感じで、小波が押し寄せる木道を歩く。

男女岳の道標を見つけて池と離れ、石畳を敷きつめた道に入るが、すぐに崩落防止の柵を巡らした階段道に変わる。柵内に目を向ければチングルマの実、ウメバチソウの花などが見える。草花がいっせいになびいて、帽子が吹き飛ばされそうになり、頂上が近づいて風が強さを増してくる。

機内に持ち込めるようにと荷を少なくした小さいザックで頂くはなかったが、秋田駒ケ岳（1637・4）山名標の傍らにザックを下ろして記念写真を撮る。一等三角点が座る秋田駒ケ岳は、手元にある戦前の山岳案内書（昭和8年『東北の山々』朋文堂刊）には女目岳の山名が記されている。男女岳の山名を使い始めた時期も理由も知らないが、男岳と女岳を従える秋田駒ケ岳の最高峰であるので、男女岳の名が相応しい気がした。

早々に風の山頂を後にして、阿弥陀池の駒ケ岳避難小屋に入る。小屋は積雪期に備え二階建だが、一階の長椅子を借りてペットボトルのお茶でパンをかじる。ガスバーナーもコッヘルも無い冷たい朝食を済ませ、小屋を出ると外が明るくなってきた。男岳の方向から強烈な風が吹き抜けて阿弥陀池が全貌を現している。百億の昼と千億の夜が過ぎ、何かの生命が誕生した瞬間のように霧が消え、眩しい光景が開けてきた。

頂上部を除いて山肌を見せた男女岳を振り返りつつ横岳へ登り始めるが、登山道の草地にオクトリカブトが群生している。馬の背へ登り着けば、オオカメノキ・クロウスゴなどの樹木が紅葉し始めている。雲間より時々差し込む薄日を浴びてたどり着いた横岳（1582・7）は、コマクサ群生地の大焼砂から国見温泉へくだる分岐点ピークである。

焼森の砂礫地に来てコマクサを探してみたが、駅案内所の花情報より4日が過ぎ、完全に花が無くなっていた。焼森分岐で湯森山への道を分け、駒ケ岳八合目の道標へくだる。八合目広場の休憩小屋を見下ろしつつ、いったんは谷間の小沢へくだり、シャクナゲが茂る支尾根に登り返した後は下り一辺倒になる。

10時40分に八合目に下山、すでに駐車場をマイカーが埋めている。続々と登山者が来ている様子だが、私と同じコースで入山しているらしく誰ともすれ違わなかった。車で着いた女性グループに、山に咲いている花の情報を伝えている間に約束したタクシーが到着した。田沢湖駅から角館駅へは秋田新幹線で一駅、今回の旅の楽しみのひとつ、みちのくの小京都角館のお祭り見物へ急いだ。

神明社と薬師堂を氏神とする「角館祭りのやま行事」は、9月7日から3日間行われ、国指定重要無形民俗文化財である。町内の要所に歌舞伎や武者人形を乗せた置山を飾り、深更に及んで飾山囃子を奏でた曳山同士が通行の優先権を争い、山をぶつけあう「山ぶつけ」の祭りで知られている。

駅通りや町内には、ご神燈が吊られ屋台が並んで祭り気分を盛り上げている。町内の主要地には祭典の舞台が建てられ、朝から夜遅くまで町の男衆女衆が民謡や舞踊を熱演している。久保田支藩の角館城主が芸能を奨励した風土が今に根付いているのだろう。私が通りかかった時、テイチクレコードの小桜舞子という若い演歌歌手が舞台に立ち、美しい歌声を聴かせていた。NHK秋田放送局開局70周年記念曲の角館が舞台の「恋する城下町」を歌った縁で、角館町の「ふるさと観光大使」に任命されて、茅ヶ崎市出身だが招かれたようだ。

田町武家屋敷通りにある西宮家の蔵を改造したレストランで魚料理の遅い昼食をとった。角館郵便局で葉書を買い、お祭り記念に9月9日の風景印を押してもらった。「たつこ姫」ゆかりの潟尻川や院内川の水を合わせた桧木内川（雄物川水系）に架かる朱塗りの横町橋に出て、国名勝指定の「桜名所百選の地」、枝垂れ桜並木の桧木内川堤を古城橋まで歩いた。

菅江真澄終焉地（神明社置山）

堤を歩き始めた時、見えていた形よい緑の小山が迫り、散歩の人に聞けば角館城址の古城山と教えられた。お祭り人形を飾り付けた曳山とすれ違い、表町上丁から東勝楽丁の武家屋敷通りを抜ける。西勝楽町の薬師堂前の国性爺合戦、岩瀬下町の神明社前に飾られた上杉公上洛などの置山を見物しながら歩く。

神明社の境内に「菅江真澄の道」の観光案内の標識があり、そばに「菅江真澄終焉の地」の石碑が立つ。角館は秋田に地縁をもつ菅江真澄が生涯を終えた土地である。一生をみちのくの旅人として過ごし、久保田藩の計らいで晩年出羽一円の地誌をまとめていたが、一部未完成のままに角館で筆を絶っている。

真澄は文化十年より出羽六郡の地誌を編むことになり、「花の出羽路秋田郡・山本郡」「雪の出羽路雄勝郡・平鹿郡」「月の出羽路河辺郡」等を書き上げた後、仙北郡内の全町村を調査中、文政九年梅沢村（今の田沢湖町）へ来て病気に罹り、角館の神明社鈴木家に移され死去したという。

真澄の遺骨は久保田に運ばれ秋田郡寺内村の高野の丘に埋葬され、彼の愛した秋田の土に還っていった。地誌「月の出羽路仙北郡」は一部未完成に終わっている。しかし生前に多くの紀行文を書き残した中に、私が山行を計画している森吉山と本山は、真澄が自らの足で踏破して遊覧記を著している。

私の秋田遊覧行は、ある意味で菅江真澄の足跡を追いかける山旅になるのかも知れない。神明社境内の真澄終焉の地碑前に立つ私の身体に夕暮れが迫って雨粒までが落ちてきた。あわててザックから折りたたみ傘を出し、お祭りで賑わう道に戻った。雨脚は激しくなりだしたが、曳山をぶつけあう若者達は、降りかかる雨を露ほどにも気にしていない様子である。

あすの天気を気にかけながら、私は雨にけむる角館の町をめぐり歩いた。

（次号へつづく）

（平成21年9月8日～9日歩く）

《コースタイム》

駒ケ岳八合目小屋（20分）片倉岳展望台（45分）男岳（35分）秋田駒ケ岳（男女岳）（10分）阿弥陀池小屋（20分）横岳（10分）焼森（40分）駒ケ岳八合目小屋

《地形図》2万5千＝秋田駒ケ岳

紀行

三角点を訪ねて ⑥⑤

湖北のやぶ山

連載

点名「大音波」へ

礒部 純

湖北

5月に湖北の点名「滝ヶ谷」へ登った後、引き続き近くの点名「大音波」へ登ることにした。

「大音波」は、高時川と支流大音波谷との分岐の東のピークに位置する三角点峰である。大音波谷の付近には、右俣源流に点名「音波」、谷西の尾根上に「小音波」があり、これらの三角点名は、この谷にちなんで付けられている。

7月に入り、信楽の「小屋ヶ谷山」「掘木谷」へひとりで登り、その山行記を物集女の彼に送ったところ、そのお礼と共に、「点名・大音波へ連れていって欲しい」との強力な依頼があった。

彼の都合の良い日を聞き、集合場所と時間を決めたが、私が多忙だったこともあり、山行案内やメンバーの選定は、物集女の彼に一任した。

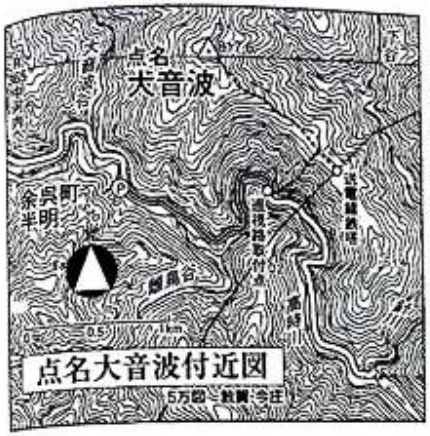
「大音波」三角点

6時45分、JR山科駅で3人を乗せて湖西道路を北へ走る。夜半過ぎに大雨が降り、山行はどうなるかと心配したが、朝には雨も上がり、北へ向かうにつれ天気も回復しそうになった。木之本から北国街道（国道361号）を北上し、中河内集落の広場へ到着したのは8時45分。我々の車が一番の到着で、後続が来るまでに、足廻りの準備にかかった。

9時前に物集女の彼の車がやってきた。連絡していた大兄の姿は見えず、この日の参加者は8名。これまで私の

個人山行へ参加してくれていた守山、宇治の彼や、吹田、長岡京の彼女達は都合がつかず来ていない。初めて参加する宇治の彼女がいたが、いずれも新ハイの見知った顔ばかりで紹介は省略し、簡単に「この日のルートは、距離が短いがやぶ漕ぎになる」と説明する。9時に高時川沿いの林道を東へ走り、登り口の道幅が狭いという記憶があったので、半明を越えた大音波谷分岐東の道脇広場へ駐車した。

9時25分の出発。林道を東へ向かう



点名大音波付近図

が、相変わらず幅広の道路が続いている。こんなことなら、もっと東奥へ駐車すればよかったと悔やんだが、今さら戻る気は起こらない。急登へ取り付く前の準備運動だと自分を納得させながら25分も歩くと、送電線巡視路の登り口に着いた。

物集女の彼に先頭をお願いする。地形図を見ると、巡視路は最初から1/2に等高線が三本もあるような急登である。取付点に階段があったが、所どころ段が壊れている。それを登ると、道は細くジグザグを切って上へのびていて、右手の急な尾根へのると階段も消えた。最近に両脇のやぶが刈られて整備された巡視路は急で足を滑らさないように登るしかなく、あたりを観察する余裕など全くない。点名「滝ヶ谷」へ登る時もキツイ登りに喘いだが、今回の登りはそれ以上かも知れない。わずか15分しか登らないのに休憩をとってもらったが、ものを言う元気もないほど。汗が流れ落ち、下着も山シャツもビショビショ。それにしてもこんな急登をペチャペチャ喋りながら登る女性がいるとは、ただただ驚くしかなかった。

あたりはミズナラの雑木林で、展望は全く無い。息を整え再び登り、左手の林が切れた尾根に出ると、目の前の急斜面には樹林しか見えない。これから登る東西にのびる尾根がはるか上方に見えている。そこから再び樹林の尾根へ入って、ひたすら登ると二度目の休憩。ここで初めて間近にヤマアジサイの花を見た。ここまで登るとやっと足が馴れたのか、あたりを見渡す余裕がうまれる。道脇には所どころにピンクの小さなヤブムラサキの花が咲いており、ヤブレガサの枯花も残っていた。足元にはイワウチワの群生も広がっている。フウフウ言わされ、巡視路取付点から45分も登ると、やっと主尾根へのった。

三角点の師三谷氏が8年前にこの三角点を訪れた時、この急登を23分で登ったと言っていたが、信じられない思いがした。主尾根は平坦で腰高のクマ

ザサに覆われている。その中に見事な枝ぶりのブナの古木が点在している。ササがあるとはいえ、めったに出会えないブナ林だった。

尾根にのると、巡視路は東南へくだっていくが、点名「大音波」へ向かうにはここから巡視路と分かれ、北西へのやぶ尾根に突っ込まなくてはならない。尾根は広く平坦で木々が繁り見通しは全くきかない。地形図に磁石を合わせて方向を決め、胸まであるビッシリ繁ったクマザサのなかを、やぶの薄そうな所を選んで右や左に振りながら進んでゆく。目の前に現れるブナの古木に目をやったり、時々は後ろを振り返り、帰りの目印になる木を記憶に留める。10分も歩かないうちに尾根が切れ、5m程斜面を下りると谷の源頭と思われる湿地帯を渡って、向かいの尾根へ登り返す。

のった尾根も相変わらずササやぶが濃く、灌木の枝が行く手を遮り歩きにくい。地形図に破線が載っているが、それらしい道跡は見当たらない。次第に尾根が狭くなってくると、地形図にない尾根が右手に現れる。下山のときに、右手の尾根をくだらないようにと、目印の木を記憶に残す。気がつくと、こんな山にも三角点病患者が訪れたようで、点々と木に赤い布が下がっていて、青いテープも木に巻つけてある。下りには、このテープを目印にすればよいと思い、少し気が楽になる。いつもなら、巻かれているテープを取り外してしまうのだが、この日ばかりはその気にならなかったのである。

その先も同じようなササタケのやぶ漕ぎは大変だったが、周囲には太いブナが点在し、ブナの自然林を心ゆくまで満喫することができた。右手からきた尾根が合った先の、やぶの切れた広場で休憩をとり、水分・エネルギーを補給する。この場所は尾根の勾配が急になる手前だった。

ここからは、地形図にある破線と思われる道跡が現れる。道跡といっても、いくぶんほかよりやぶが薄い所というべきなのだろう。尾根は次第に細くな

人気商品紹介
◆テクリ・エル◆

オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac
従来のテクリの大型です。
タウンユースからフィールドに小ぶりなディザック。
しっかりした二本縫めの設計。底部も強いケミカルラバーを使用しています。雨蓋が大きくなり、山登りの本格仕様になりました。
☆20l☆
*カラー レッド×チャコール ・マゼンタ×チャコール
パープル×チャコール ・ライム×チャコール
ブルー×チャコール
*重量 700g
*素材 高密度ナイロン
*価格 ¥8,000+消費税
イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、
里山・低山・名山を訪ねます。
お気軽にご参加下さい。

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBE
〒653-0039 神戸市長田区日吉町2丁目1番30号
カナゾノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間／10:00~20:00 毎日曜日不定休

り、勾配も急になってきた。斜面に逆って、ササダケを漕いで大きく足を上げて登ってゆくのは思っている以上に足への負担が大きい。

やぶ尾根をモタモタしながら登っていると、先頭の私を追い越して物集女の夫人が右手から来て先頭に立ち、アッと言う間にやぶのなかに姿を消してしまった。尾根は細くなり、多くなったユズリハを掻き分けて登ってゆく。写真を撮ったり、邪魔な枝を鋏で切ったりしながら登ったので、その間に皆に追い抜かれ、Ca790㍍へ着いた時には、列の最後尾になってしまった。ピークから方向を北へ変え、標高差で10㍍もくだるとやぶのない鞍部。この場所で最後の休憩をとった。

やぶの尾根を北西へ10分も登ると、三角点のあるピークへ着く。山頂は平坦で広いブナの疎林で、下には胸の高さにクマザサがビッシリと生えている。三角点広場はどこだろうと見渡すが、そんな広場は見当たらない。とにかく三角点を見つけようと、おのおの地形図を見ながら、ここぞと思う場所を探し廻ったが、あの三谷氏でも「雪の残っている山頂で、2時間も探したが、残念ながら三角点は不発」と言っていたほどで、三角点を見つけることはできなかった。

三角点に会うことをなかば諦め、物集女の彼に「諦めてくだろうか」とまで漏らしたが、気を取り直して、もう一度地形図を確認して場所を特定し、すぐそばにいた宇治の彼女に、「このあたりにあるはず」と言って探すと、「何か平たい石を踏んだ！」「三角点だ！」と彼女の声。そばへ行って見ると、取り除いた落ち葉の下に標石が頭を出している。彼女が枯れ葉の下の三角点標石の頭を踏んだからわかったもので、三角点は落ち葉に覆い隠されており、見つけたのは偶然としか言いようがない。枯れ葉を取り除き標石を5㌢程掘り出し、まわりのササダケを切って広場をつくる。三角点の標高は817・6㍍で点名は「大音波」、三等三角点である。標石は西南向きで、南から西へ40度振っている。わずか出ている標石の頭の横が赤く塗られ、保護石が一個残っていた。この保護石は枯れ葉の上に出ていたが、そこらの転がっている岩と見えていたのである。

15分も三角点をウロウロ探して、時間はすでに12時15分。昼食はササやぶの山頂ではなく、南の鞍部でとることにする。記念写真を撮って、二度と来ることのないだろう三角点へ別れを告げようとすると、宇治の彼女が三角点標石に枯れ葉を掛けて隠している。「こんなに苦労して三角点を探したのに、次に来た人に簡単に見つけられたのでは悔しい」との思いがヒシヒシと伝わってくる。彼女の意を汲んで三角点は枯れ葉に隠したままにして、鞍部へくだって昼食とした。

鞍部は風は通らず蒸し暑い。喉が乾いてビールでも飲みたかったが、運転するので持ってきていない。それでも喉の乾きに我慢できずに、持ってきていた彼女からほんの一口もらって喉越しを味わう。後はひたすら食べるだけ。

ジッと坐っていると男共に虫も寄りつかないが、虫に好かれた彼女が3人。よく見るとササやぶ歩きでダニもズボンに付いている。こうなるとゆっくり坐っていられず、30分も経たないうちに、虫に好かれた女性達はザックを背負ってウロウロ。やむを得ず、13時5分に出発とした。

Ca790㍍から、磁石で方向を定めてくだり出す。ササが寝ているので登った時ほど足への負担は少ない。尾根をくだると、登りに休憩したやぶのない場所に出る。その後、所どころに付けられている赤や青のテープを見て、登る時に時々後ろを見て記憶していた光景を思いだしながら、左の尾根へ迷い込まないように右へ右へとくだってゆく。尾根分岐を見て、谷源頭を越え、広い尾根までくだると目印にしていた太いブナを確認する。その木の南へ出なければいけないのに、後ろを歩く彼女の言葉に惑わされ、直進してしまったのが間違い。朝に巡視路からやぶに入った場所より、だいぶ東へ出てしまった。

やぶ漕ぎ

下山路は、北の針川へ下りる巡視路がハッキリしていれば、それをくだってワサビを採ろうと思い、送電線鉄塔まで行ってみることにする。鉄塔まで来ると、送電線に添って50㍍幅程に林が伐採されていて、南北が開かれている。南には大黒山の東尾根が張り出し、右上にピークも見えている。北には5月に登った点名「滝ヶ谷」の送電線のある尾根が目の前に迫り、右奥には上谷山や石留山の尾根が間近に見えていた。展望を楽しんだ後、いざくだろうとしたが針川へ下りる巡視路は、生い茂った草に隠され見つけることができない。仕方なく登ってきた道を下りることに決めた。急な巡視路を30分でくだって林道へ下り立つ。朝に準備運動と思って歩いた車までの距離の長かったこと。「何であんな遠くに車を置いたのだろう」と、ひとりブツブツ言いながら帰る。14時55分車へ戻り、解散。

地図上の距離は短く、時間が余り過ぎて困るかなと心配したが、思った以上のササダケのやぶで時間を要した山行だった。見つけることができないと思っていた三角点を見つけ、手つかずのブナ林を見て、大満足の一日であった。

（平成20年7月10日歩く）

《コースタイム》

中河内集落広場（車15分）半明東道脇広場（25分）送電線巡視路取付点（45分）主尾根（1時間15分）Ca790㍍（15分）点名「大音波」（50分）送電線鉄塔（30分）巡視路取付点（25分）車

《地形図》2万5千＝中河内・板取

随想 山のエッセイ

飛鳥の神奈備山

薮木伸人

「神奈備山」は、「神のいます山」の意で、万葉集中のそれは、大部分が飛鳥の神岳だという（他に三輪山と竜田の山がある）。

この神岳は、かつては雷丘や甘樫丘とされていたが、現在は橘寺南方のミハ（ワ）山かフグリ山だとの説が重視されているようだ。

尾根続きのミハ山、フグリ山は、石舞台から飛鳥川をはさんで南西の祝戸地区にあり、歴史公園として整備されている。

近鉄岡寺駅から東へ道なりに進むと、30分程で橘寺前に至る。そこから飛鳥周遊歩道をたどること15分で、飛鳥川に架かる玉藻橋のたもとに出る。その手前右手の階段が、ミハ山への登路である。

10分も登ればフグリ山の頂。磐座といわれるフグリ岩の散らばる道を西に進めばミハ山の頂。どちらの頂からも、北に甘樫丘、雷丘、耳成山、香具山を望むことができる。数々の宮が営まれた飛鳥中部が一望であり、古人もこの眺めを楽しんだことだろう。

尾根上の磐座（フグリ岩）

飛鳥神奈備山付近図

さらに遊歩道を進むと、南に稲淵の棚田が望める所を通り、南麓にくだってゆく。下り切った所には、稲淵宮殿跡がある。中大兄皇子の河辺行宮跡といわれており、ここから仰いだフグリ山は、なるほど山裾に飛鳥川を帯びて、神奈備山の趣がある。対岸には謎の石造物「マラ（魔羅）石」が立っている。飛鳥坐神社の陽石群とつながりがあるのだろうか。この神社は、平安初期（829年）に現在の鳥形山に遷されたが、それまでは甘南備山にあったという。従ってフグリ石やマラ石は、その祭祀の名残なのかもしれない。

フグリ山より中央雷丘と耳成山

万葉集には、神奈備（神名火・甘南備などとも表記）、神岳（神丘）の詠みこまれた歌が二十首余り見られる。その中で、とりわけミハ山やフグリ山が神奈備山だろうと思わせる歌を記してみたい。

・神名火の山下響み行く水に河蝦鳴くなり秋といはむとや
（巻10—二一六二）

・甘南備の三諸の神の帯にせる明日香の川の水脈速み……（巻13—三二二七）

・月日は変はり行けども久に経る三諸の山の離宮所
（巻13—三二三一）

ミモロ・ミムロは神のいます所、神を祭る所で、神奈備と同義だ。

・神名火山の帯にせる明日香の川の速き瀬に生ふる玉藻の……
（巻13—三二六六）

・三諸の神奈備山ゆとの曇り雨は降り来ぬ……
（巻13—三二六八）

この「神奈備山から雲がたなびいて雨は降ってきた」という部分で、雲がかかる程度の高さがある山だと推定できる。浄御原宮や板蓋宮があったとされる場所から南に見えるミハ山、フグリ山に雲がかかると雨になる、と古人は観天望気を行っていたのではないだろうか。

（参考文献）
『万葉集』桜井満訳注（85年）
『万葉集』佐々木信綱編（07年）
『飛鳥の古社を歩く』和田萃（07年）

研究

旗振り通信の新研究⑭

連載

伊賀市で新発見の旗振り山Ⅳ

柴田昭彦

【長田の百田地区、権平山の発見】

平成21年5月8日、上野図書館で4月にコピーしておいた『長田郷土史』（中村竹次郎氏遺稿（壱）、長田公民館、昭和51年）を、島ヶ原駅～三軒家の間のハイキングコースを歩くための下調べとして、読み直していた。

見当山で見当を振ったという記述のある右頁から左頁に移り、金刀比羅山茸狩の項目を読んでいて、目が点になってしまった。

「ホ、金刀比羅山茸狩　百田区後山金刀比羅山を中心に茸狩の名所たり権平の処最もよく平坦にして遊山に適し眺望も絶佳なり権平は昔見当を振りたる所とも伝へられ三十三所の観音も金刀比羅より西蓮寺に至り建てられてゐるしかし今は茸も出ず樹木により見晴も悪く今は昔を伝へるのみ」

まさか、見遠山以外に、見当を振った場所が長田地区にあるとは予想していなかったので驚いてしまった。さっそく、長田の百田地区の百上進一さんに連絡して、家の西にある裏山なので、明日、現地を案内してもらえることになった。

市場から権平山を見る（右は長田小学校）

5月9日、地形図と住宅地図を持って行き、百上さんに、裏山付近を案内してもらった。その場所は「権平山」だという。「ごんべい」か「ごんべえ」らしいが、はっきりしないという（後日、百上さんは年配者に尋ねてみて、「ごんべい」と呼ぶことを確認され、5月20日付の手紙で知らせて戴いた）。

金毘羅大権現の前から登り、尾根道を歩いた。途中から西国三十三ヶ所観音霊場巡りの石仏が出てきて、一番石仏には弘化二年（1845）の年号があることを教えてもらう。

権平山（百田）付近の地図（上野市1万分の1地図を修正）

権平山と呼ばれている場所は、予め知人に聞いて確認したとのこと。尾根道で、途中の右側二ヶ所が小さなピークになっているが、手狭でふさわしくなく、最初の池「北の新池」（平成10年修正の1万分の1上野市都市計画図1の地図には馬池とあるが間違いで、馬池は南にある小さくて古いほうの池に付けられた名前だという）に出るまでの道のりで最も高い場所（山頂に石仏あり）がいちばんふさわしい場所であった。知人によれば、その高まりのあたりが権平だということであった。計画図で標高を読み取ると、220㍍の等高線に囲まれたピークであり、約225㍍であろう。

そこは『長田郷土史』の「昔は最もよく平坦で遊山に適して眺望絶佳」「今は樹木で見晴しが悪い」の記述に一致する場所であった。

百田新池（地図に百田新田池とあるが間違いという）のそばに出て引き返し、下山した。

この見当を振った場所は、明治20年の地誌ではなく、著者中村竹次郎さんが地元の古老に聞き取って記述した可能性が高いという。

百上さんの話では、ここで見当を振ったという中村氏の記述をとりあげて、見遠山と混同したのではないかと疑う、中村氏と同じ文化財委員（当時）のひとり（故人）がいたようである。しかし、中村氏は綿密な調査研究をされた方として知られており、権平山での見当振りを疑う理由は見当たらない。

筆者は、5月17日の伊賀市での講演において、「伊賀の旗振り山」のレジュメの他に、「旗ヶ峯・見遠山・権平山の調査」の最新レポートを当日に配布して、権平山の報告も行った。その際、伊賀暮らしの文化探検隊会員で、百上さんと同じ「いがうえの語り部の会」の会員でもある廣岡とも子さんから権平山の見当についての質問が出された。

廣岡さんは長田に何年か居住し、中村竹次郎さんの息子の尚さんと知り合いという。江戸時代に木津川船運回路

新刊

西国三十三所道中案内地図

(上)(下)(二冊本) 森沢義信 著 B5判 各二五二〇円

今、歩いて札所を巡る人が増えています。
いつどこでも／日帰りで身近な札所から

(下)(上) 伊勢神宮～那智山～十四番三井寺まで
十五番今熊野観音寺～三十三番谷汲寺

新刊

写真で見る 京都自然紀行

石田志朗 監修／京都地学教育研究会 編著
A5判オールカラー 二二四頁 一九九五円

京都の自然と人の関わりを写真で
「地学」の目で景観や歴史を見直すと、
魅力がより明らかに。アクセスマップ付

ナカニシヤ出版
京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161
www.nakanishiya.co.jp/ 郵送販売

で塩・米の輸送が行われていた頃、川のそばに大きな石灯籠があって、明治2年に金毘羅社へ移した事例があり、権平山への「献灯」を、「見当」と混同した可能性に言及された。

これについては、裏付けの方法がなく、中村さんの文化財委員としての業績をどれだけ信頼できるかでしょうと返答しておいた。

百上さんとのやりとりの中では、権平山は見当振りにふさわしい場所であることを確認しあったことを付け加えておきたいと思う。

権平山が旗振り山である場合、どこと通信したのであろうか。高旗山は、平地からでも見えるので、登る必然性がない。おそらく、米穀取引所のあった上野西町へ、売買の指示を出した可能性が考えられるだろう。

米蔵の残る西町集議所は現在も会所として用いられているが、明治期には米問屋であり、主屋は切妻屋根の平入り町家である（『上野の町家と町並み』上野市、平成10年）。ここが、明治27年3月から同34年4月まで上野米穀取引所（上林正矩『商品取引所の知識』中央経済社、昭和29年、46頁）として使用された場所と言われている。

【伊賀市中友生の旗ヶ峯の調査】

『三重県の地名』（平凡社）の「中友生村」の解説に「西北端の旗ヶ峰には後期古墳数基がみとめられ、須恵器が出土する」とあり、この「旗ヶ峰」が何によって命名されたものなのか気になっていた。

平成13年12月、上野市教委の山崎寧子さんに、旗ヶ峰（標高204・5㍍）の由来を問い合わせたところ、平成14年1月11日に返信が届いた。旗ヶ峯遺跡は、小字名から付いた呼称だが、その由来は全く不明という。古墳があったが、砂防工事で破壊されているとのことであった。

旗ヶ峯が、旗振り山であるかどうかは不明のままになっていたが、平成21年5月に伊賀市で講演を行うに当たって、改めて、確認することにした。

まず、5月2日、伊賀市上野図書館を訪ねて、池永四男『友生だにの口碑と伝説』（昭和51年、私家版）を調べてみた。

○中友生村地誌取調書（明治20年9月）の同村小字名に「旗ヶ峯」があり、その小字の中に含まれた旧地名に「蟹穴」「中芝」「芝ノ内」「遺鎌」「旗峯」「新開」がある。

○界外村地誌取調書（明治20年9月）の同村小字名に「旗が峯」があり、その小字の中に含まれた旧地名は「旗ヶ峯」だけである。

○中友生村と界外村に同一地名があるのは、地勢の関係で、隣接の村との間に、土地所有の混淆が多かったためだろうという。

○友生の地名は、太古に発生した「とものを」に起因すると考えられる。

○著者は「とものお」を「鞆の尾」と推定している。鞆は船の鞆、尾は山や丘陵の端っぽを意味する。二つの川の流れに挟まれた細長く伸びた丘陵が、船の形に見え、丘陵の尾が船の鞆辺りと見えたのだろう。

○「とものを」はその後、いつしか語呂の調子から「とものの」に変化したと考える。

○著者は、文中で、「旗峯」と書いているけれど、その語源には一切、ふれていない。

上野市教育委員会編集『三重県上野市遺跡地図』（平成4年）の図版番号35の地形図に楕円形で示された「遺跡番号389～393」が旗ヶ峯遺跡である。

巻末の一覧表には、中友生字旗ヶ峯に所在する旗ヶ峯遺跡として掲載され、山麓では須恵器、坩（壺）が出土している。後ろの斜面上に円墳が四基あって、旗ヶ峯一号墳は径13㍍、高さ1・8㍍、二～四号墳は砂防で破壊された。二・三号墳では須恵器が出土し、二・四号墳の径は13㍍である。

2日の午後、上野から高山行きのバスで、中友生に向かった。バス停から荒木の白鷺公園に行き、高区配水池を経て、平坦な林道を歩き、旗ヶ峯の山頂に着いた。その後、下友生の弁天池のそばにある「旗ヶ峯公民館」に立ち寄り、旗ヶ峯の南西麓の集落に向かう。

住宅地図に旗ヶ峯への道が描かれているが、その道の入口にある家のそばにいた2人のうち、年配の方に、地元の人であることを確かめたうえで、「旗ヶ峯」の由来を聞いた。その尾上さんに聞いた話は次の通りであった。

○この上の山が「旗ヶ峯」で、山だけでなく、旗ヶ峯公民館が離れた向こうにあるように、平地の部分を含めてかな

白鷺公園から旗ヶ峯へ続く道

り広い範囲を「はたがみね」と呼んでいる。

○「旗ヶ峯」の名前の由来は地元には言い伝えなど一切ないのでわからないが、百年以上も前からずっと、そう呼んでいる。

○最近の若い人は「旗ヶ峯」という名前を知らない人もいる。

○家の左側から入る山道を登ったら途中に古墳がある。山頂までの半分よりは手前の辺りだ。3分の1ほど行った先辺りになるかな。途中の道はやぶで歩けないだろう。

○「はた」は「旗」でなくて、大きな山の端という意味とも考えられますが、と質問してみたが、とても同意できないという表情で首を左右に振っておられた。

以上のことから、「旗ヶ峯」は小字としてかなり古くから存在している地名であり、米相場の旗振りはおろか、戦陣の旗立てなどといった話も一切見当たらないことがわかる。由来は不明としか言いようがないが、少なくとも、米相場とは無関係であろう。

蛇足ながら、【三重県】（角川日本地名大辞典）の「畑村」（大山田村）の解説に「地名の由来は、川の端に立地することにより、端が畑に改まったと考えられる」とある。

立地上、「鞆の尾」に見える船形の細長い丘陵は、大きくそびえ立つ荒木山（403・6m）の山塊の南西端にあり、「端が峰」と言ってもおかしくないだろう。端というよりも、旗なびく峰のように表記したほうが地名として、ふさわしいものであったに違いあるまい。

【伊賀市での発見のまとめ】

以上の通り、四回の連載において、伊賀市で新たに見つかった旗振り山である、大山田地区の下阿波ケント山、上阿波ケントヤマ、長田の見遠山（見当山）、長田の百田地区の見当を振った場所の権平山を紹介した。また、中友生の旗ヶ峯の由来調査の結果についても報告することができた。

重要な発見の情報を提供された、伊賀の國地名研究会の米澤範彦さん、発見の契機を作られた池田裕さんに感謝申し上げたい。おふたりの協力がなければ、伊賀市における大きな発見がもたらされることはなかったであろう。

まとめとして、伊賀市の四つの旗振り山が、「米相場の見当を振った見当山」であったことにふれておきたい。地域性が感じられて、非常に興味深い事実である。

鈴鹿市の見当山（岸岡山）と津市一身田の見当山（犬頭山、けんと山とも呼ばれる）がどちらも旗振り山であったことを思い合わせると、三重県下の六つの見当山がすべて米相場の旗振り山であったわけである。他道県には見当山があるが、米相場の旗振り山はひとつも見つかっていないのである。

旗振り山の呼称には、兵庫県の畑山、奈良・兵庫県の相場取山、岡山・兵庫県の旗振台のように、地域に独特のものがあるが、三重県では「見当山」なのであった。

伊賀市は上野での米取引が盛んであったこともあり、郷土史に収録されていない旗振り場の存在がほかにも考えられる。古老の記憶だけに残る伝承、歴史に埋もれた伝承を、今後も追求していきたいと思うのである。

【伊賀市での情報の展開】

○平成21年6月7日、池田裕さんの紹介で、ケーブルネット鈴鹿の福島礼子さんから、伊賀上野ケーブルテレビと共同制作している歴史番組「時の散策」への出演を頼まれて引き受けた。

7月5日、大山田郷土資料館での録画、上阿波ケントヤマ・下阿波・高旗山でのロケを経て、伊賀上野ケーブルテレビでの資料撮影にも立ち会った。ケントヤマでは強風時の旗振りの困難さを体験できた。

収録の成果は、旗振り通信の専門的な研究成果を盛り込んだ番組として結実し、8月に「米相場と旗振り通信」、9月に「伊賀伊勢の旗振り通信」と題して、鈴鹿市と伊賀市のケーブルテレビで、それぞれ放映された。

○平成21年10月8日、9月のテレビ放映を見たという、伊賀市島ヶ原山菅の菅耕太郎さん（大正8年生まれ）から、意味もわからずにケントウさんと呼んでいた家の前を歩いて小学校へ通っていたことを教えていただいた。

新研究⑬で紹介したように、水口昌也先生（元島ヶ原中学校長）の情報で判明した菊岡家がケントウさんであり、その言葉の意味はわからなくても、昭和初期には有名な家であったことがわかる。

○伊賀市での平成21年5月の講演の際、北出楯夫さんから旗振り通信についての原稿依頼があり、『伊賀百筆』19号（平成21年12月、伊賀百筆編集委員会発行、問合せ＝0595—21—2145）に「伊賀の旗振り山」を寄稿し、その全貌をまとめることができた。

○以上をもって、「伊賀市で新発見の旗振り山」の連載は終了となるが、引き続き、旗振り通信の情報を次回もお届けしよう。

（つづく）

（平成21年8月16日成稿）
（平成22年2月28日追加）

韓国登山シリーズ⑮

連載

江華島歴史散策
摩尼山

ヨシミスポーツ　吉見英樹

韓国

江華島は韓国では五番目に大きな島である。ソウルの北西に位置し、すぐ東の金浦市とは狭い海峡を挟んでいる。昔より歴史によく登場する島で、外敵から守るために中世から近代にかけて建設された国防上の遺跡が数多く残っている。南北国境線にも近く、島の北部へ行けば北朝鮮が見えるという。

摩尼山は、島の南部に位置し、江華島でいちばん高い。といっても標高468㍍。標高こそ低いが、周りに遮るものは何もなく、海からいきなり立ち上がるのでその展望は360度。眼下に西海が見下ろせるうえ、仁川空港なども見える。夕暮れ時がお勧めのようで、真っ赤に染まる海に浮かぶ島々がとてもすばらしい。

交通アクセス

ソウル新村市外バスターミナルから江華島総合バスターミナルまで頻繁にバスが出ている。

島内の登山や観光には総合バスターミナルでタクシーを捕まえることをお勧めする。タクシーを一日貸し切るのがよい。高くつくように思うが、観光や登山などがマイペースで利用でき、結果的には大変にお得だ。

コース

春真っ盛りの4月、所用でソウルを訪れた。いつもくっきりと澄み切ったソウルの空が今回は何となく霞んでいる。聞くと、最近中国からの黄砂の影響が大きく、小学校などでは、生徒の喘息発作を避けるために、黄砂のひどい日は休校になるとのことである。

出張の最終日が丸々空いたので（むりやりに空けたと言ったほうが正しいが）、前夜夕食の際に、最終便で帰国するまで簡単な山歩きでもしようということになった。知り合いのFさんが、

「では私のお薦めの低山へ行きましょう。その山は昔私も登って、とても海がきれいな良い山です。登りは30分、往復でも走れば40分です」と、その言葉を信じて、翌早朝に江華島へ向かう。

江華島は、歴史には必ず登場する江華島事件や有名な伝燈寺がある島なので、山よりもお寺のほうが楽しみであった。

島を結ぶ江華島大橋を車で渡り、まず江華山城を訪れた。この山城は13世紀の高麗王朝高宗時代、モンゴルから逃れるために江華島に遷都した際につくられた山城である。しかし、多くの楼閣などは時代からとり残され、崩壊してしまった。現在の山門などは最近復元されたもので風情がなくて残念であった。

次に向かったのは、南のチョンジンという海に面した要塞だ。

近代には列強諸国の艦船が開国を求めて江華島近辺に出没していた。この要塞は1600年代に設営された砲台要塞で、1875年に接近してきた日本艦船に砲台から大砲をぶちかました。日本は直ちに報復を加えるとともに、これを口実に不平等条約による開国を強く迫ったのである。これが世にいう江華島事件で、その後に日本の李氏朝鮮への介入、植民地化へと突き進んでいったのである。

展望のきく要塞に上がると、当時の大砲が残されている。海岸線の景色は平和そのものでこの風景から当時を思い起こすのは、なかなか難しい。

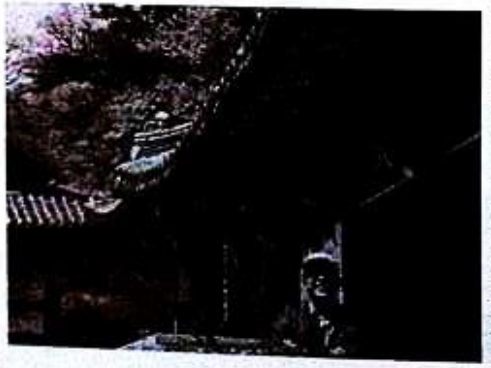
次に訪れたのが伝燈寺。鼎足山麓にある古刹であるが、三郎城という山城の中に陣取り、緑に囲まれとても気持ちのよい寺である。高宗時代の建立といわれ、王妃が仏典に燈火を捧げたことから、この名がある。

木々に覆われた参道の石段を上がると、幅の広い二階建の鐘楼が立っている。梵鐘は、11世紀の中国宋時代河南省でつくられたと伝えられ、なぜここにあるかは不明とのこと。どっしりと風格のある鐘楼は日本の鐘だけを吊ったものではなく、どちらかというと楼閣のように感じる。鐘楼の欄干に腰をかけ、あたりを見渡すと、鳥が鳴きまばゆい新緑が揺れ、風が気持ちよく吹き渡ってくる。

緑に囲まれた境内には大雄殿などの見事な塔頭があり、なかなかの名刹ぶりである。ここはぜひとも時間をつくって訪れたい寺である。

さて、本題の摩尼山へ。サンパン里登山口に到着すると、大きな駐車場や

伝燈寺にて



食堂があり、バスなどが多く駐車している。その人の多いこと、登山スタイルではなくスニーカーや普通の靴の人も多い。かなりがっかりしてしまったが、自分も似たり寄ったりだ。

いずれ登り30分だし、とにかく「ゴー！」ということでペースなど考えず、「20分で登るぞ」ぐらいの気持ちで歩き出した。登山道といってもほとんどが石段道だ。ゆるい傾斜の道をガンガン登っていく。

ところがかなりハイペースのはずなのに、30分経っても半ばにも到っていない。30分のつもりだから、水など持っていなく、喉がカラカラになってきた。ゼイゼイ言いながら、よくよく考えてみると、「標高468㍍の山。登山口が20㍍だから、どうがんばっても30分で登れるはずはない」。

摩尼山付近略図

何が間違っているのかわからないまま、1時間程を過ぎた頃、やっと高い所に到着した。

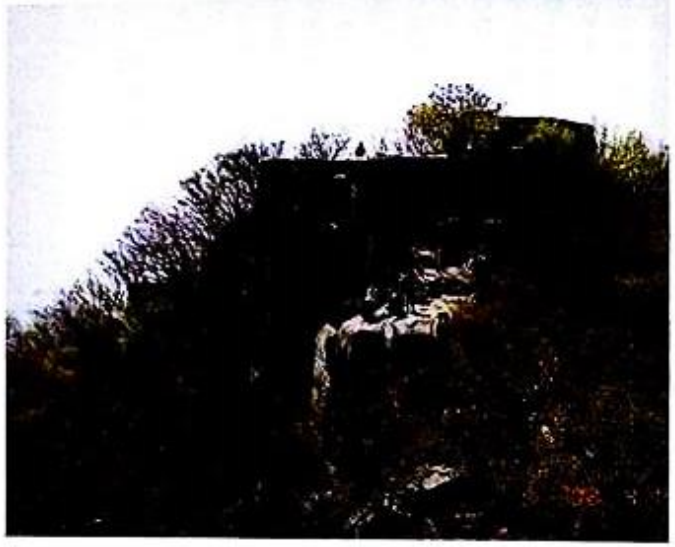
ここにはチャムソン壇という朝鮮半島神話の場所がある。石を積み上げた祭壇のような状態になっているが、天に向かって祭司を執り行った場所といわれている。天照大神神話に似たようなものであるらしい。

私はここでFさんの来るのを待っていた。上は人だらけ。「アレは何だ、向こうが何だ」などと、韓国人が写真を撮ったりしている。ひとりから「写真を撮ってくださいな」と頼まれ、快くシャッターを押してあげると、お礼にキュウリとペットボトルの水をもらってしまった。（いやー、これは想定外のことで）とても嬉しかった（実際、欲しそうな顔をしていたのではないか）。キュウリはうまいし、最高であった。

ここからの風景は360度の大展望である。眼下には春の長閑な西海が大きく広がり、仁川方面もよく見える。

アタッテ痛い靴の巾広げします
靴底張替承ります！
通販も可能です。
OUTDOORS SHOP YOSHIMI
とスキーのヨシミスポーツ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-70
http://www.yoshimisports.co.jp/
JR天王寺駅
TEL. 06-6772-7231 ●営業時間／AM10:50〜PM8:00（日曜は7:00まで）
毎週木曜日定休

行き交う船もノンビリ走っている。そうこうしていると、Fさんがヘトヘトになって登ってきた。もらったキュウリと水を分け分けして、ふたりでしばらく海を眺めていた。


摩尼山のチャムソン壇

ひと息ついた後は、ほぼ平行移動の岩稜尾根をさらに進み、摩尼山頂上に到達した。風景はチャムソン壇と変わりない。

帰路は車で来ているので同じ道をたどるのだが、南東にくだると名水で有名なチョンス寺があるらしい。名水を求めて多くの茶道家がこの寺を訪れると本にも書いてある。この寺へは小1時間でくだれるようである。

登山口に戻り、ペコペコのお腹とカラカラの喉を癒すため一目散に食堂に飛び込んだ。プルコギ鍋（バラ肉汁鍋）にたっぷりニンニクを放り込む。そしてもちろんOBビールである。

今回は文字通り反省会風になり、「なぜ30分が65分になったんだろう？」という話になった。最初は酒のアテ程度の会話だったが、Fさんに「いつ登ったのか」と聞いたところ、何と40年前の小学校低学年の頃の話であったのだ。だから、かかった時間もほぼいい加減にしか覚えていなかった。日本風に真面目に聞く私に、適当に「30分だ」と言ったとのことであった。

経験上、韓国で大まかな話になるときは、たいがいが30分の区切りになる。勿論悪気は全くないし、コレも韓国風なのだ。Fさん曰く「歩いている間も、ず〜とおかしいな〜、なんでかな〜」と思っていたとのことである。

ともあれ、楽しい山歩きであったことに間違いはない。

《コースタイム》
サンバン里管理事務所（1時間10分）チャムソン壇（20分）摩尼山（1時間）サンバン里

文学歴史探訪ハイク ⑪③

箕面の滝を訪ねて

松永恵一

明治の森箕面国定公園

大阪で紅葉の名所といえば箕面。江戸時代からの大坂商人達の行楽地は、秋は紅葉、春は桜。

摂津国の名所を絵画と文章で紹介した『摂津名所図会』は、「それこの一山は丹楓多くして、秋の末は三千の樹々錦繊のごとく、瀧の流は紅を湛ぎ、樵夫は錦着て家に還り、山僧の志情を染めぬ。紅の色艶しく、風のかけたるしがらみは蜀錦を布が如し。」と記した。

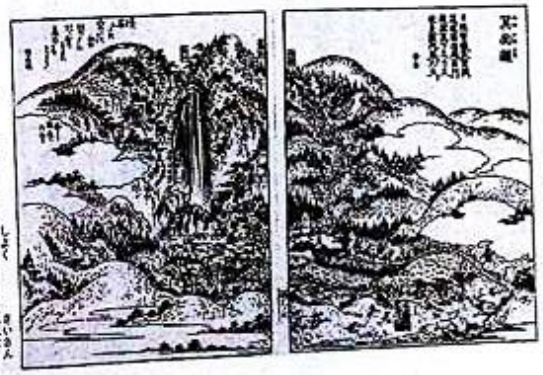
箕面市北部の山地に広がる風光明媚な自然公園は、およそ1300種の植物と3500種の昆虫、数多くの野鳥、哺乳動物、両生・爬虫類、魚類などが棲息する自然の宝庫である。

東京の高尾山とともに、明治4年(1871)わが国初の公園となり、明治百年記念事業のひとつとして、明治の森高尾国定公園とともに昭和42年(1967)に国定公園に指定。二つの公園をつなぐ東海自然歩道は、緑豊かな自然と歴史を伝える貴重な文化財をみずからの足で歩いて訪ねる一都二府八県にまたがる、全長1697・2キロの長距離自然歩道。

日本の滝百選にも選ばれている壮大で美しい箕面の滝は落差33メートル。多くの文人墨客が訪れている。『摂津名所図会』は「巌頭より飛瀉して、石面を走り落つる事凡て十六丈。瀧壺より泡を飛す事珠をちらすがごとく、霧を噴く事雲の如し。日光これを燭して璀璨目を奪ふ。天下賞して瀧の第二とす。瀧の上に碧潭あり。これを龍穴といふ。村民旱天に遇う時。ここに祷れば忽膏雨降るなりとぞ。

三鈷松。瀧の上にあり。三葉にして、而も其色四時蒼々として艶しく、瀧水日影に映ずる時は光あり。」と記す。

箕面瀧『摂津名所図会』



瀧安寺

本山修験宗の寺院で山号は箕面山。宝くじの起源である富くじの発祥の地。

箕面は瀧を中心とした山岳修行の地。斉明天皇四年(658)、投げた三鈷杵に導かれた役小角は、大滝の上の龍穴で龍樹菩薩より法を授けられ、不動明王と弁財天の像を刻んで安置したと伝える。竹生島・江ノ島・厳島と共に四弁財天のひとつで60年に一度開帳される。役小角は伊豆大島へ流罪になるが赦されて箕面へ戻り、天上ヶ岳(520メートル)から昇天されたという。

箕面寺と称し空海・法然など諸僧が修行し、『梁塵秘抄』には「聖の住処はどこどこぞ、箕面よ勝尾よ…」と歌われている。後醍醐天皇の隠岐脱出を、護良親王の令旨により修法して功績があり、瀧安寺の名と勅額を賜る。

毎月7日は護摩供が行われる。4・7・11月は関西一円から山伏が集まり、箕面駅前を10時に出発。瀧安寺まで練り歩く「山伏大行列」が行われ、「採灯大護摩供」が執り行われる。

箕面公園昆虫館

昆虫館前の道に面した所に鋼板製レリーフが設置されている。ハラビロカマキリ・オオセンチコガネ・アブラゼミの幼虫。特徴がよく出ていて触って楽しめる。入口にカラクリ時計がある。1時間ごとに蝶が舞い、ハチが踊りながら曲を演奏して来訪者を歓迎してくれる。

館内は、箕面を中心とした昆虫をはじめいろいろな昆虫の標本を展示している展示ブースと、一年を通じて蝶の自然に飛び交う姿を観察できる放蝶園とに分かれている。白黒のまだら模様が特徴的な大型のオオゴマダラや、シロオビアゲハ・コノハチョウ等が優雅に飛び、頭に止まったりする。毎日羽化する蝶を放蝶するイベントがある。箱に手を入れて触ったり、音やにおいによって、昆虫の生態を知ることができるコーナーも楽しい。

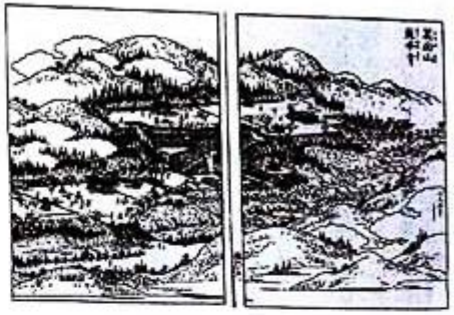
昆虫好きには見逃せないミュージアムショップは、4月から11月末までの土・日・祝日にオープンしている。

蛇含草

上方落語の「蛇含草」に箕面の滝が出てくる。蛇含草は、深山に棲むウワバミが、兎や狼、時には人間を呑み込んだ時、腹が張って苦しくなると消化薬として食べる草である。

大家の所で重箱いっぱいに入った餅を見た熊さんが、俺なら全部食べられると言いだす。食べられるものなら食べてみろ。大家が火鉢で焼く餅を次々に食べるが、ただ食べるだけではおもしろくないと「放り食い」。二つ一度に放り上げる「お染久松夫婦食い」。体の周りをグルリといっぺん回してから口で受ける「淀の川瀬の水車」。最後が「箕面の滝食い」。空中に放り投げた餅をデボチン(額)でいっぺん受けて、ポンと跳ね返ったところをパクリと食べる。箕面の滝は落ちる直前に一度岩に当たって跳ね返ってから落ちる二段滝。

腹が苦しくてのたうち回る熊さんは、腹ごなしの特効薬と急いで蛇含草を頬張る。女房が行ってみると、部屋の中で餅が着物を着て横たわっていた。



箕面山瀧安寺『摂津名所図会』

コース概観

箕面といえば、紅葉とお猿さんと箕面の滝。梅田から阪急電車に乗り、宝塚線の石橋駅で箕面線に乗り換え、箕面駅まではわずか26分。駅前からすぐに明治の森箕面国定公園への登山道が始まる。箕面の滝まで、片道2・8キロ。渓谷に沿って四季折々の変化が楽しめる。お弁当を持って家族連れで出かけた。お土産は「もみじの天ぷら」。

終点の箕面駅下車。駅前にカリヨンの鐘がある。箕面の滝の流麗な姿を表現し、季節、時間によってメロディが変わる箕面のシンボル。交番の前から土産物屋が軒を並べる滝道をたどる。かりんとうのような「もみじの天ぷら」を食べながら歩く。

箕面スパーガーデンの前を過ぎると、右に笹川良一氏の孝養の像がある。

わが母への賛歌

母背おい宮の　きざはしかぞえても
かぞえつくせぬ　母の恩愛

横に「世界は一家人類は皆兄弟」の碑。

箕面公園に入る。一の橋たもとに木造三階建の橋本亭がある。明治43年に建てられた旅館はリニューアルされて新たな箕面滝道の顔になっている。レトロな森の隠れ家音羽山荘は元三井造船の保養所。梅屋敷は昔の面影をそのままに再建された休憩所。

夫婦橋休憩所を過ぎると箕面公園創始者衆議院議員森秀次氏の像がある。昆虫館の東山際に野村泊月の句碑。

椎の花八重立つ雲の如くにも

箕面公園昆虫館は火曜日が休館。中学生以下無料。瀧安寺が並ぶ。山門は光格天皇が文化六年（1809）に京都御所から移築した。瀧安寺前の箕面川で錦鯉や小さな魚たちを見ているとナマズが泳いでいた。野猿の姿を見る。国の天然記念物。箕面市では、人間とサルが共生していける環境を整備するため、サルと出会っても「食べ物を見せないで！」「食べ物をあたえないで！」「近寄らないで！」と、「サルを自然に帰す運動」を行っている。

左は見上げる山、右は見下ろす渓谷。ロッジ風の建物は山本珈琲館。緑に憩う至福のコーヒータイムを提供したいというこだわり。珈琲店前から橋を渡り左岸道を進む。加古川旅館の横を進む。対岸は野口英世博士が母親と逗留した「琴の家」。大正4年（1915）、寸暇を割いて米国から帰国した英世は、待ちわびていた母を伴って関西方面を旅行し、箕面に立ち寄って母を慰めた。高台の上に博士の銅像が建つ。

姫岩の間を潜り抜けると、地獄谷の

合流地点。地獄谷方向へ石段を上がり、橋を渡って左にとる。石段の道を上り下りし、「天狗の鼻」といわれているあたりを過ぎる。長い石段を下りる。風呂ヶ谷の橋が見える。谷筋道はトイレの右横を上がるが、橋を渡って左へ向かう。川の向こうに唐人戻岩。「大岩にして阪路に遮る。むかし来朝の唐使この滝比類なきとて登山し、嶮路として駕を戻されしよりこの名とす。」

滝道に出て箕面川右岸道に移る。合田百一氏殉職の碑。昭和26年7月、当時の箕面警察署長合田百一氏は部下3名を同行し、集中豪雨で箕面川が氾濫し濁流が渦巻くなかを、勇敢にも人々の救助に向かい、殉職された。

まもなく豪快な滝音を立てて箕面の滝が勇壮な姿を見せる。樹林の間から見る滝の形が農具の「箕」に似ていることから箕面の滝と呼ばれるようになったという。織田信長は天正七年（1579）3月晦日、鷹狩りのついでに箕面の滝を見物している。

滝の左側の赤い滝見橋のたもとに、後藤夜半の瀧前句碑が建立されている。

瀧の上に水あらわれて落ちにけり

「この俳句は戦前全国名所俳句募集の瀧の部一位入選作です」と解説がある。滝の右手の滝壺脇に頼山陽の詩碑。

萬珠飛沫砕秋暉　仰視懸泉劃翠微
山風作意争気勢　横吹紅葉萬前飛
萬珠沫をそそいで、秋暉に砕く。
仰ぎ視る、懸泉の、翠微を劃するを。
山風、意を作して、気勢を争い。
横さまに、紅葉を吹いて、萬前に飛ばしむ。

山陽が母しづの手を引いて、画家田能村竹田や儒学者後藤松陰らと滝見物に来遊した折に滝前で作詩したもの。箕面の滝は一名「孝養の滝」と呼ばれる。

見学後は箕面駅目指して右岸を歩く。箕面の楓（カエデ）の大部分はイロハモミジで、その中に、オオモミジが少し混じる。毎年11月の下旬から12月上旬にかけて、山の斜面全体があらゆる暖色系の色布でパッチワークをしたように染まり、渓谷に沿う約2キロの道は紅葉のトンネルとなる。

《コースタイム》
阪急箕面駅（20分）昆虫館・瀧安寺（30分）箕面の滝（40分）箕面駅

〈地形図〉2万5千＝伊丹・広根

〈費用〉
阪急梅田駅～箕面駅　260円

（問い合わせ先）
大阪府公園協会箕面公園管理事務所
☎072（721）3014
箕面公園昆虫館
☎072（721）7967
瀧安寺
☎072（723）1885

山のレポート

山の地名を歩く㊷

ペテガリ岳

西尾　寿一

北海道・日高山脈の盟主となれば最高峰の幌尻岳（2052㍍）となるが、約150㌔にもおよぶ山脈の中央に秘密の扉にがっちりガードされたように佇むペテガリ岳は、魅力的で憧憬の対象となってきた。

そのペテガリ岳は1736㍍とけっして高山とはいえないが、ジュラ紀の岩層といわれるミグマタイトに覆われ、厳しく浸食された姿は容易に人を近づけない奥津城の領域にあるといっても過言ではない。

遠く十勝平野から長大な日高山脈に魅せられて描いた画家坂本直行の絵には日高の山の独得の山容が見事にとらえられている。なかでも中部日高のルベツネ山・ペテガリ岳・中ノ岳・神威岳といった独得の屋根形の山容は迫力十分である。

日高の山は遠くからよく見えても近く寄ると全く見ることができないのは、山の深さと浸食の厳しさである。北部のカムイエクウチカウシ山と南部の楽古岳のピラミッドのほかは、総じて傾斜の急な切妻瓦屋根を想起させるが平板ではない。いたる個所にカール地形を残し、かつて氷河時代のあったことが忍ばれる。人里から遠く分け入らねばならないペテガリ岳登山は今日でもかなりの難物といえる。熊の棲息密度が高い日高では時々事故があるが、ペテガリ岳周辺では尾根が極度にやせているためか出合った人は少ない。

東西に張り出した長大なやせ尾根には各一本登山路があるが、西尾根が一般的である。東尾根は途中に足幅しかない極めてやせ細ったやぶ尾根に阻れるほかに、長大かつ不完全な踏跡をたどるので少なくとも3日間を要する。沢通しはさらに困難である。

ペテガリ岳の名は魅力的でさぞ立派な由来をもつアイヌ語だと思っていたが外れた。「pete-kari-i」で、「川がその場所で廻っている状態」という。その水源の山がペテガリ岳となるのは山名誕生の類型そのものでおもしろくない。沢名が山名になる例は日本アルプスでも同様で安易すぎはしまいか？山名確定までに要した努力が少ない気がしているが、それなら日高山脈の日高側と十勝側の異る地名を総合して誰にも納得できる地名（山名）が導きだされるか、また、それを誰が行ない得るか、となると極めて難題である。

それにアイヌ語の和訳も微妙に違う部分もあり、時代の経過もあって、ついには現状の追認となってしまう。

激しく曲折する沢（川）は日高の中部一帯では普通のことで特にペテガリ岳が特別ではないが、その部分はアイヌ狩人も通れない所だったのかも知れない。

「北海道の地名」では「ペテガリペツ」の沢名が少し離れたコイボクシュシビチャリ川の支流にあるが信頼できない。とされるが、ペテガリの名が特異な形状でなく、ごくありふれた「川が廻りくねった場所」そのものであるなら、ほかにも調査次第でいくつかのペテガリが出てくる可能性が高いのである。あまりペテガリの名にこだわるべきではないのかも知れない。

しかし、「ペテガリ」とは実に響きの良い言葉である。ペテガリの名によって瞬間的にペテガリ岳の姿が脳裏に去来する習性からは今や逃れ得ないのである。もし山名調査を厳しくしてペテガリのほかに平凡な山名が導きだされでもしたら困るのは、そんなペテガリファン達なのである。

ペテガリ岳の登山は測量班が1913年に三角点を設置し、点名を「辺天狩岳」とした。

初登は誰か、となると登山者は測量隊だの、冬期登山の北大隊だと言うかも知れないが、小生が大樹の奥山でアイヌ集落で聴いたところ、アイヌ狩人はやぶの尾根をものともせず歩き廻ってきたという。むろん真偽のほどは不明であるが、ある程度信じてよい部分はある。小生は登山困難といえども彼等アイヌの山であるべきものと考えている。

ペテガリ岳を一躍有名にしたのは1940年1月の「ペテガリ岳雪崩遭難」であった。

コイカクシュサツナイ岳から極地法による冬期初登を目指し強力なメンバーを投入したが、主脈に至るまでの沢で雪崩が発生、10名のうち8名を失った事故だった。同大学で再起を決し成功したのは3年後のことである。

ペテガリ岳の困難さは、難攻不落の恐怖の山として強い印象を残したが、その裏返しが憧憬の山ともなっていった。百名山に含まれないのに、多くの登山者が静内から西尾根を目指すのは、ペテガリの美しい響きをもつ山名と華々しい登山史に心引かれてのことであるが、ペテガリ岳は十分それに応えてくれる。

小生は昭和38年の9月7日、単独で東尾根から登頂したのに正味2日間を要した。

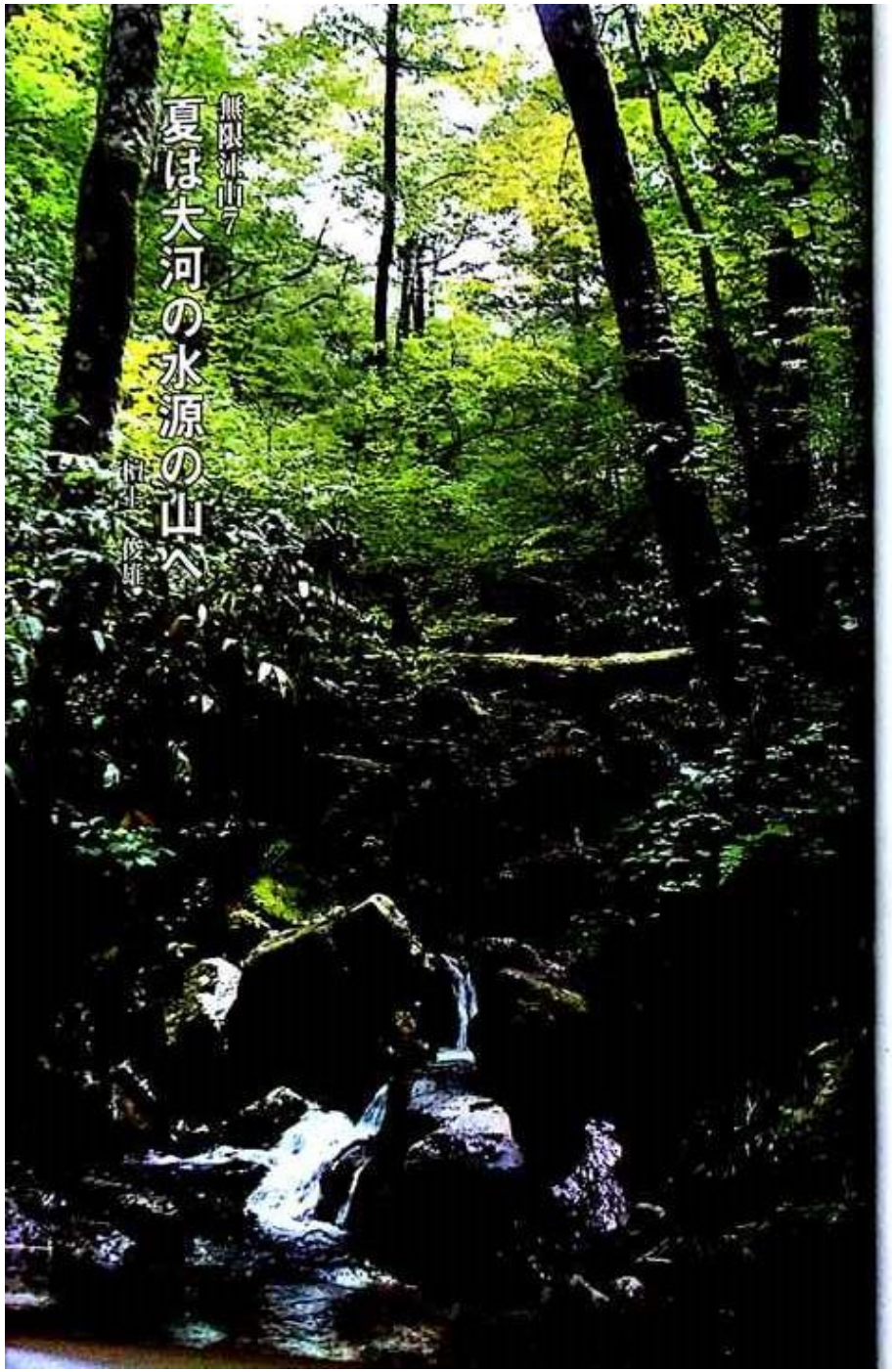
十勝南部の大樹営林署の特別な協力を得て、ペテガリ岳の偵察とあわよくば登頂するプランでポンヤオロマップ岳の取り付きにある作業小屋まで送ってもらった。

登れても登れなくとも3日目の朝までに下山する約束である。それを過ぎると厄介なことになるばかりか、大変な迷惑をかけることになるので緊張する。

飯場小屋には中年婦人がいて、水を入れる一升瓶を借りようとしたが「無い」と冷たい返事、仕方なく水筒満杯の1㍑の水で凌ぐことになった。

ペテガリ岳へはまず関門としてポンヤオロマップ岳のピラミッドに登らねばならない。

ポンは「小さい」だから小ヤオロ（主脈にヤオロマップ岳がある）であるが1



無限沢山7

夏は大河の水源の山へ

恒生 俊雄

400㍍余の鋭い山で主脈が展望できる。まずこの山に登ってツエルトを張り、翌朝早く登り出すことにする。山頂は狭いが主脈の展望は良く、遠くペテガリ岳が正面に見える。あんなに遠くて大丈夫なのか、と一抹の不安がよぎる。

ヤオロマップの名は主脈のコイカクシユサツナイ岳の南にある名と同じで、これも川名のヤオロマップからきているが意味不明で、アイヌ語辞典にも出ていない。

翌朝すこし明るくなった頃、濃いガスのなかを出発する。ポンヤオロマップ岳から急激に落ち込む尾根の最低鞍部は岩場になっていて飛び越える。予想通りのやせ尾根に厳しいやぶが張りついていて前進を阻む。

早大尾根が合流するピーク1519㍍で全体の四割の距離だ。しかしポンヤオロとの高度差はわずか100㍍にすぎない。やせ尾根のアップダウンの連続で高度差はほとんど無関係の山である。

しかし、所どころでペテガリ岳・中ノ岳・神威岳など主脈の山々が遠く峭壁のように見えてきて感動する。

入ってはいけない神の領域へ迷い込んでゆく感じがしてならない。しかし手足は自然に前進してゆき、ジワジワと距離を縮めている。

早大尾根は早大がペテガリ登頂に選んだ尾根で、多少歩きやすくなるかと思ったが逆に厳しくなり、しかも足裏の幅しかない極端なやせ尾根となってくる。これではやぶが無ければ歩けたものではない。

主稜線へ抜け出る最後のギャップでは明確な形でカール地形が見える。本州の山ではめったに見ない氷河地形の名残で美しいものだ。

1㍑の水はすでに半分以下となり、水を含んでいそうな木の実を口にほうばるが苦くて吐きだす。アイヌに教えてもらった「フリップ」という名の青い実は食べられると聞いたので探すが、山の低い部分にしかないようだ。

時間がどんど過ぎてゆく。どうやら登るか下山かの判断のときが迫っているようだ。だが目前の山頂を捨てる気になれず前進する。主脈に出ると踏跡がはっきりしてきて一気に山頂に達した。夕暮れの誰もいない海底のような静けさの山頂だった。人里遠く孤独な山。ペテガリ岳に達した喜びは東の間のこと、すぐ平常心に戻り駆け出すように帰路につく。

早大尾根出合近くで夜になった。月明かりを頼りにくだるが水が無くなり、途中の水溜まりの水を飲む。ポンヤオロの途中で北のペルプネ川へ向かう尾根に入り、1時間ばかりロスする。

最後の岩のギャップを飛び越えて黄色のツエルトはためくなつかしいポンヤオロ山頂へ戻った。16時間、ほとんど休みなしの強行だった。

何もせずツエルトにもぐり込み、翌朝4時ガスのなかを下山する。「フリップ」を見つけて口にほうばる。草の葉の露を口にしてようやく飯場小屋へ戻った時、ズボンは前後に暖簾を下げたようになっていた。

夏は高みを目指すにふさわしい季節である。豊かな雪や雨によって育まれる植物の垂直分布の見事さに、水の国のこの国に生まれて本当によかったと思う。

登山口では物語はすでに始まっていて、河口の街から近づく山を楽しみながら源流に至るアプローチも、すばらしい山旅の一部となることだろう。

尾瀬など多くの人で賑わうが、ここから流れ出る阿賀野川の河口どころか、流域のことを知らない人がほとんどだ。しかし、新潟側の奥只見や福島県檜枝岐から登山する人は少しはこの川を思い描くことができる。

上高地などでも清冽な梓川の流れに感動するものの、この上流や下流信濃川と結びつかない人が多い。北岳の野呂川にそそり立つ姿は多くの人に感動を与えるが、この川も同様であろう。

名山と呼ぶ山でもこのようなケースが多く、登山と流域の旅、そして水のある暮らしを組み合わせるなかにこそ自然の恵みがあるのに、実にもったいない話である。

京阪神では昔から琵琶湖の水が使われているが、多くの人がこの湖に親しみ、この湖の水源の山に愛着を持つ人は多い。水道水がまずくなれば、だれもが湖を心配する。水源ですばらしいブナ林に接すると、自分ごとのようにうれしくなるのである。この距離感が大切なのだ。

関西の岳人は湖北の山の頂から奥美濃越しに北アルプスを遠望し、その姿に憧れ、夏になると出かけてゆく。北アルプス南端の乗鞍岳は中央分水嶺の最高峰であり、高島・余呉トレイルの延長線上には大好きな川上岳などがある。

川上岳からは間近に槍・穂高連峰の山並を見ることができ、そしてパノラマの左端は黒部五郎岳である。中央分水嶺ではないが、日本を代表する大水源地帯である黒部源流や雲ノ平を身近に感じさせてくれる。

黒部源流

自然に学ぶことができるのはそうした場所へ足を運ぶ登山愛好者の特権であり、自然の営みを体験的に知ることではじめて知識としての科学というものが理解できる。経験と知識が車の両輪となり、私達が健やかに生きるうえで大切な多くのことを、生態系が維持された山や森から、楽しみながら学ぶ

ことができるのである。

このように考えれば山は川をたどって頂を目指すのが理にかなっていて、自然からの恵みが大きいことがわかるだろう。夏山は可能であれば登山口から涼風が心地よい沢歩きでゆきたいものである。体力や技術に自信がなければ谷道のあるコースを選ぶといい。それも無理なら尾根道をさわやかな早朝に登るということになる。

黒部川水源地標

午後の下りでは日が当たる暑い山の南・西側は避け、日陰の多い北・西面のコースを選ぶといいだろう。

私達は競争をするために山に向かっているのではなく、安全快適な登山のなかで思い思いに自然に親しみたいと願う。余裕があれば、春夏秋冬の季節の変化ばかりか、天候の違いによるさまざまな表情をつぶさに見たり感じたりすることもできる。

がんばって多くの山に登ってみても山のもつ奥深さが見えてくるとは限らない。少なくともひとつくらいはホームグラウンドと呼べるような勝手知った山を持っておきたいものであり、そうすれば新たな山と比較できて理解しやすい。

水源の森からあこがれの頂へ立つということは、いろんな面で簡単なことではない。とはいえ、こうした登山環境をつくるプロセスはとても大切なことであり、自然に学ぶ登山の一環といえるものである。健康で持続可能な登山生活を約束してくれることからも、多くの山を知るという結果以上に重視すべきことかもしれない。

登山口に近い川の上流に住む人と話をすれば、下流の人に迷惑をかけないように水を大切に扱ってきたという自負が言葉の端々に感じられる。自己実現の山旅をする私達登山者も社会的に見れば、大都市を潤す大河における水源地帯の自然環境を最もよく知る存在であり、山登りを通じて見聞したことを、それを知らない下流の多くの人に伝える役割が期待されている。

水源地帯の自然はこれ以上破壊が進めばその機能が大幅に減じるばかりか、自然拠点としてかろうじて残されてきた山の魅力も、山に生きた人達が歩いた森の峠道も次の世代に伝えることもできず、すっかり失われかねない状況にあることはまちがいない。

コースガイド[1]

若狭

（里山シリーズ57　若狭町三方）

梅林と湖が美しい 三方五湖周辺の三角点巡り①

一般コース（★★）

長宗　清司

京阪神からJR湖西線経由敦賀行きの新快速には、青春18きっぷが使用できる期間中、人気の金沢方面に行く中高年の旅行客でいっぱいだ。私達は敦賀駅で小浜線に乗り換え、三方駅に11時13分着いた。

三方駅東側に、鉄道と並行する国道27号の手前に、古い街道が三方集落を南北に抜けている。右の山際には三方石観音があるが今回は割愛し、線路際の道をさらに北上して踏切を渡る。三方湖に向かう途中で右折し、生倉集落を北上すれば新しく建て替えられた山脇神社の前に出る。

正面には、これから登る小山が見える。道なりに左へ進み、舞鶴若狭自動車道新設の工事現場下を通って、湖岸に通じる道に出る。

もうすぐ水際という所で、正面の△134・6㍍の山頂に繋がる尾根を直登する。登山道でなく厳しい登りだがすこし辛抱すれば、やがて明るい尾根上に出て歩きやすくなる。低山でも、水際の小山からは眼下に美しい湖が眺められる。

やがてここぞとおぼしき小石の多い高みに到達し、探るまでもなく簡単に四方を小石で囲った生倉山四等三角点の標石を見つけ、12時15分昼食となる。

短い休憩後、次の双耳形のピークを探り、ここから三方湖と菅湖を両側に、さらに水月湖を見る格好（Y字型）の突き出た岬の付け根に向かい、湖岸への急峻の支尾根を一気にくだる。谷のゆるやかな梅林にくだるのは楽だが、地主のことを考えて畑にくだるのは控えたほうがよい。

△100.7㍍尾根上から水月湖越しに△70.9㍍岬を望む

地形図にも記されている三方湖と菅湖を結ぶ細い水路の小橋を渡る。けもの除けの金網の立派な仕切り扉が開かれていた。水路際の金網に沿って登り、上部に出ると、両側が湖の中道は幅3㍍程の蒲鉾型の尾根にしっかりした道がある。標高点52㍍を過ぎて、まず左の岬にある△100・7㍍を目指す。

14時、標石を確認。折り返して交点に戻り、次いで右の岬の先端で化槨のネット内に△70・9㍍の標石を45分後に偶然見つける。いずれも四等である。日当たりのいい南斜面には梅林が広がり、下には点々とフキノトウが出ていてすでに花を付けている。

再び水路口から両側に梅林の広がる菅湖の東畔に出て、北上する。

三方湖・菅湖付近図

敦賀駅発の小浜線の早い電車に乗れば、久々子湖と水月湖とを開削して結ぶ人工河川浦見川にまで足をのばすことができるが、今回はここで打ち切って最寄りの気山駅に向かう。16時に駅に到着し、4分後の敦賀行きに乗る。

《コースタイム》

JR三方駅（30分）山脇神社（45分）生倉山（25分）Y型突岬口（1時間）△100・7㍍（45分）△70・6㍍（15分）Y型突岬口（1時間5分）気山駅

＜地形図＞2万5千＝三方・早瀬

（問い合わせ先）

若狭町役場商工観光課

☎0770（45）9118

＊三方石観世音（本尊、聖観世音菩薩）＝弘法大師一夜の作と伝わる片手観音。手足の病に効くと信じられ、病んでいる側のお手足をお借りして回復を祈願する。境内には万葉の歌碑がある。「若狭なる三方の海の浜清見い行き返らい見れどあかぬかも」

＊山脇神社（祭神、山脇大神・宗像大神・竹生島大神）＝小浜奉行、行方久兵衛翁による浦見川開削の折に奉斎された神社で、寛文七年（1667）来年建立。一度再建。その後現在の地で官幣官祭されている。平成19年9月、宗像神社境内地が舞鶴若狭自動車道の建設工事に伴って移転を余儀なくされ、山脇神社に合併合祀奉斎された。

△100.7㍍岬の尾根道

コースガイド㉘

鈴鹿

続・近江側から登る鈴鹿の山々28

権現谷北尾根

やや健脚コース（★★★★）

礒部　純

岩野リーダーの新ハイ例会「鈴鹿を歩く」は、平成8年3月20日の第一回「清水平谷から残雪の雨乞岳」から平成20年12月7日の三〇〇回「権現谷北尾根」まで、12年9ヶ月の長きにわたる。この間に歩いたルートは、沢歩きのルートも入れると181ルートになる。

鈴鹿というあまり広くない山域の中で、しかも登る基点を近江側に限定し、これほど多くのルートを歩かせてもらった人がいるとはほかに聞いたことがない。今回は、その記念山行で私が初めて歩いたルートを紹介する。

有名なピークへ登るわけでもなく、霊仙山の山腹を歩くルートだが、圧倒されるような霊仙山の姿とすばらしい自然林が味わえる。

多賀久徳から東へ入り、芹川沿いを東行。権現谷と大洞谷分岐の山女原東の道広場に駐車し、ここから権現谷沿いの林道を東へ歩く。5分もたたないうちに、谷の中洲に数本の太い杉が立ち、その西に鳥居が立っている。車で走ったのでは見逃してしまうが、「口の権現」と呼ばれる社である。上流の権現谷と行者谷分岐には水神を祀ったという「奥の権現」があるが、雪のある時は「奥の権現」へ詣ることができない。そのため「口の権現」に詣でて参拝したことにするのだという。鳥居の奥には蔦が絡む大岩が鎮座していると聞くが、それを見たことはない。

右から左へ捲くと、左側は見上げるような岩壁が続いている。両側に垂直に立っている狭い岩壁の間の橋を左岸へ渡り、右手へ廻り込んだ先の左下の谷に鳥居が立っている。ここの狭い岩の割れ目の上方に「奥の権現」がある。今でも1・5・9月の縁日には権現祭が催されているという。役ノ行者が大峰山へ入山する前にこの谷で修行したとの言い伝えが残っており、戦前には、大峰山へ参拝した人達が、その帰りに

この日の参加者全員（筆者を除く）

権現詣りをする習慣があったというから、霊仙寺華やかなりし頃から、このあたり一帯は信仰や修行の場として重要な所であったのであろう。

ここから「奥の権現」東の丸太を組んだ橋を渡って行者谷へ踏み込む。これまで岩野さんの例会で何度となく霊仙山最高峰の東にある岩ノ峰からの下山路として滝谷・行者谷をくだっているが、行者谷を遡るのはまた違った趣がある。谷入口から水の無い岩のゴロゴロしている谷底を50㍍も遡ると、高さ2㍍程の一枚岩の段がある。水があれば滝となる地点で以前は段を下りるのに苦労したが、今はワイヤーが下がっていて簡単に登ることができる。

大岩がゴロゴロする水の無い谷を登って行く。谷が右手に廻り込むと谷が狭くなり、両側から切り立つような壁が迫ってくる。このあたりがこの谷いちばんの核心部で落石があったら逃れようがない。上を気にしながら急いで通り抜ける。すぐに右手から流れるガレ場があり、その先でいくぶん広い谷床になってくる。谷右岸にある十数本の杉の林を通り過ぎ、左から張り出している尾根が近づくと、右岸に踏跡が現れる。

谷を離れて踏跡をたどり、右岸の斜面を登って行くと、こんな所に?と思われるような3㍍幅程の道にのる。右手には樹木が立ち並び、春であればフサザクラが咲き、秘境といわれる谷とは思えない光景を見る。やがて尾根を左へ捲くと行者谷と重谷の分岐へ着く。

右手の谷は、フクジュソウの季節に霊仙山から岩ノ峰を経て尾根をくだり、白谷林道、滝谷とくだってくる谷であるが、今回は重谷と呼ばれる左の谷を遡る。狭い谷入口から奥へ入ると次第に谷は広がり、谷右岸に道跡が現れる。谷は勾配のない比較的平坦な谷で、道跡を400㍍も遡ると、この山域にはめずらしく杉林が現れる。谷は比較的広く平坦な杉林のなかに水の無い小川がある状況で、それまでの荒々しい谷の様相とは全く変わってしまう。

暑い季節には、主様（ヤマビル）の住処になると思われる杉林のなかを歩き、左からの谷を見てさらに東へ向かうと、右手からくる谷分岐の平坦な杉林のなかに作業小屋がある。谷から見えていた、谷の左斜面に切られている

権現谷の核心部

道がここへ繋がっているようだ。

この分岐から、切り返すように霊仙山南斜面に切られている幅2㍍程の道を登って行く。これは地形図に載っている破線路の道で、近江展望台南斜面と標高点712㍍、標高点598㍍に囲まれている斜面に伐採木材を運び下ろす目的でつくられたと思われる。伐採木材は、ここから上の白谷林道か行者谷から運び下ろしたのであろうが、調べてもその資料は見つからなかった。当然、今畑方面から笹峠を越えてこの破線に繋がる道があったはずだが、今では笹峠から東の下で消えている。

斜面に切られた2㍍幅程の道は、水平に近くゆるく登ってゆく。所どころで崩壊個所ややぶがあるが、人が通るのに支障はない。右手急斜面の上方に人手が入った形跡の若い杉林があるところを見ると、今でも利用されているのだろう。

標高点565㍍の尾根を右手へ廻り込んで西へ向かうと、急斜面を切る道が終わり、ゆるい斜面の杉林のなかへ入る。若い杉の植林帯で道は不明瞭になる。構わず緩斜面を西南へ向かうと、再び道跡が現れる。その道跡は西へ向かう浅い谷を登ってゆくが、道跡を離れ、前にある尾根へのって右手へ登り、標高点598㍍へ登りつく。

このピークは低い岩がアチコチに点在する比較的平坦で木々も疎ら。地面にはエビネの葉も見ることができ、その中でも一本の太いケヤキがある印象的な山頂だ。あたりを見渡すと、東には谷を挟んでコザト・リョウシが横たわり、その左奥にソノドも顔を出している。南には、鍋尻山・岳の畑が腰を据え、西の笹峠から近江展望台への西南尾根、目の前に立ちはだかる南斜面は圧巻としかいいようがない。出発してからここまであまり時間は要しないが、昼食場所としては、申し分のない場所だといえる。

このピークを西へくだり、方向を南へ振って斜面を横切って行く。落ち葉が敷きつめられた情緒ある浅い谷を越え、さらに溝状の谷を渡って尾根に上がり、北西へと登る。岩野さんはこのあたりを長サコと呼んでいるが、正確にどこを指すのかわからない。当日、尾根の途中で、権現谷林道の地蔵尊の横からこの尾根へのびている古い道を探しながら登ったが見つけることはできなかった。地形図の等高線の幅が広いが、実際には地形図で読む以上に急勾配の尾根だ。

雑木疎林の急尾根を登り、メギの低木のやぶを潜いで登ったピークがCa710㍍。狭いピークではあるが、展望は標高点598㍍以上のすばらしさで、北の近江展望台南斜面がのしかかってくるように感じる。

行者の森から疎林のくだり

このピークからは細い尾根をくだり、標高点712㍍の南をかすめて西南への尾根をくだる。ここから山女原へのびている尾根は、4月のフクジュソウ山行で何度となく上り下りしている。ゆるい雑木林の尾根をくだって、細い岩ガラの尾根になるとここがオオジャレの頭。ここから南の急斜面をくだると、すばらしい雑木疎林の平坦地が広がっている。休憩するには絶好の場所で、岩野さんが最初は「宝冠の森」と名付けたが、その後、「行者の森」と呼んでいる。

ここからゆるい尾根を西南へくだる。春にはヤブレガサが一面といってよいほど出ている尾根なのに、12月ともなると落ち葉だけが斜面を覆っている。このゆるい尾根先端を上手山と呼ぶそうだが、山と呼べるピークはどこにもない。

この尾根から山女原へ下りる尾根にのるのは間違いやすく、尾根先端を北へ廻り込み、杉林の北側をくだらなくてはならない。転げ落ちそうな急勾配の尾根を足を滑らせないように慎重にくだり、杉林に入ったら、尾根を左へ捲くようにくだると民家の東の車を置いた道広場へ下り立つ。尾根から道広場へ下りる時、畑を踏むことになるので、くれぐれも民家の間は通らないようにしたい。（平成20年12月7日歩く）

《コースタイム》
山女原道広場（20分）行者谷分岐（50分）重谷分岐（15分）横道取付（1時間）標高点598㍍（30分）Ca710㍍（30分）行者の森（40分）山女原道広場
＜地形図＞
2万5千＝霊仙山・彦根東部

コースガイド③

比叡

苔むす古道をたどる 山中道（滝ヶ谷）を経て夢見ヶ丘（青山）へ

一般コース（★★）

松尾　一郎

比叡山無動寺谷への旧参詣道京道・山中道は、現在では北白川から山中までは山中越（車道）となっている。旧参詣道は山中町から滝ヶ谷川左岸沿いを溯って、途中で志賀越道を右に分け、夢見ヶ丘（青山）に達している。参詣道は少々荒れているが、幸い今もほぼ全ルートの踏跡がたどれるので、地味な山道だが往時を偲び、苔むす古道を踏査してみよう。

三条京阪もしくは出町柳から、京阪バス比叡平または比叡山頂行き（京都駅発あり）に乗車し、山中上バス停で下車。バス停を少し戻り、右へ白川支流の滝ヶ谷川沿いの林道（志賀峠への道標あり）に入る。

しばらくすると幅広の堰堤が姿を現し、林道から左へ滝ヶ谷沿いにくだる旧参詣道を分ける。今は旧道も歩けるので、左へ下りてみよう。流れに沿う地道を行くと、二基の常夜燈と旧石標（志賀峠への道標あり）が立っている。右へ林道に架かる上下橋をくぐる道は志賀越道（注1）である。

山中道を左にとると、すぐ前方にパイプ式堰堤が立ちはだかってくる。足下に気をつけて水辺に下りると、堰堤右岸に階段状の捲道が付けてあるが、水流が少なければ、パイプの隙間から人ひとりが楽に通過できる。堰堤の先で沢道は林道と合流し、滝ヶ谷左岸に沿った本格的な山道となって登ってゆく。

途中で道標はないが、踏跡は上部を除いて明瞭であり、山中町から夢見ヶ丘への送電用電柱を確認しながら行くとよい。登るに従い谷は徐々に狭まり、日陰には苔が繁茂し、旧道の面影を忍ばせる。旧参詣道の傾斜が増してくる頃、ルートを左右（注2）に分けるが、右の石積み溝沿いの道をとる。しばらく溝に沿って登って行くと、前方に石積状の堰堤が現れ、堰堤左岸に登り着く。堰堤上部に続く水路左岸沿い踏跡のやぶを進み、適当な所で凹字溝放水路（雨天以外は水流なし）に下りる。

パイプ式堰堤

そのまま溝の中を登って行くと、夢見ヶ丘直下の遊戯施設スーパースライダー（ボブスレイ）終着点の広場にたどり着く。木枠の階段を上れば、夢見ヶ丘（約520㍍）の駐車場に登り着く。

下山は夢見ヶ丘の北外れから東海自然歩道（白鳥越）に入り、すぐ左へ小宅谷へくだる自然歩道（道標あり）を分ける。ルート最高峰の青山（535㍍）へは、ここから北へ往復5分程である。

さて、ゆるい下り気味の尾根道を東へ進むと、自然歩道は分岐で右（雨）（道標あり）（注3）へ降下してゆく。白鳥越は尾根をそのまま東へ進み、鳥居の柱だけが二本建つ三分岐（標識あり）（注4）に着く。ここはまっすぐ神輿山（約440㍍）を乗っ越すと、浄刹結界跡碑の前に下り着く。その少し先で、右へくだってゆく踏跡があるが、ここが旧唐崎道のひとつで滋賀里へくだる大谷下降点（注5）である。

夢見ヶ丘を一望

コースの状況は良いとはいえないがルートは比較的明瞭で、雑木が繁るジグザグ道を10分もくだると「十四丁石」が埋まっており、この二股は登りの場合は右にとること。小石混じりの歩きづらい急坂の谷道をくだって行くと、やがて水流が湧き出てきて薄暗い

大谷（唐崎道）下降点

滋賀里の自衛隊官舎の北側そばの舗装路に下り着く。

そのまま滋賀里住宅街を東進し、送電用鉄塔をかすめて大道寺墓地を通り抜け、西大津バイパス（国道161号）の陸橋を渡り、倭神社の前を過ぎて東へ行けば、京阪石山坂本線の唐崎道踏切に達する。

京阪滋賀里駅へは線路沿いに南へ約450㍍だ。JR唐崎駅へは踏切を渡って東へ約300㍍の交差点を左に曲がり、さらに湖西線沿いに北へ約500㍍である。

（平成22年1月23・30・2月28日歩く）

《コースタイム》

山中上バス停（5分）堰堤（5分）志賀越分岐（4分）パイプ堰堤（34分）石積堰堤（5分）夢見ヶ丘下（5分）夢見ヶ丘（5分）小宅谷分岐（青山往復5分）（12分）東海自然歩道分岐（3分）鳥居（2分）神輿山（5分）大谷下降点（20分）林道（22分）自衛隊官舎（6分）西大津バイパス陸橋（6分）京阪唐崎道踏切（6分）京阪滋賀里駅

（注1）志賀越道は本来は京都市左京区白川から山中町を経て、比叡主稜（比叡山ドライブウェイ）の志賀峠（今はトンネル）を乗っ越し、滋賀里へ通じる古来の街道であった。

（注2）2万5千地形図の京都東北部は左の沢に誤ったルートが記入されているので要注意。

（注3）東海自然歩道（道標完備）は際川沿いに滋賀里へくだっているので、エスケープルートになる。

（注4）①まっすぐが神輿山を乗っ越し逢笠山へ、②右へは神輿山を捲いてその先で①に合流、③左へくだる小道は旧唐崎道の一部で、四ッ谷川に下りて興聖寺谷へのルートだが、青天谷道崩落のため通行不可。

（注5）白鳥越はこのまま昆布を東進し、逢笠山をかすめ穴太の高穴穂神社に達している（本誌108号62ページ参照）。

植林帯となり、石のケルンを過ぎ、しばらくくだれば大谷林道に下りる。

林道を少しくだると道右脇に「十一丁石」が埋まっており、林道を大谷川（鹿池川源流）沿いに左岸右岸と渡り返し、水量が増したころ流れは左下方へくだってゆく。林道は簡易舗装となり、

せせらぎ

山に関する最新の情報を随時お寄せください。1行15字詰め、30行程度です。原稿用紙下部に、ご自分の住所・氏名をお書きください。都合により掲載できないことがあります。

題字　故　小林玻璃三

木津川市役所を訪れた際、山背古道のパンフレットが目に入り、手にとった。

山背古道とは聞いたことはあるが、コースは何も知らなかった。見てみると、城陽から木津まで全長25㌔の詳しい地図が載っており、早速出かけてみた。

3月17日、曇天のなか、JR城陽駅を10時にスタートし、水度神社、鴻ノ巣山、森山遺跡と順調に歩いたが途中で雨が降りだし、11時30分やむなく長池駅で中止した。

再度、4月1日、9時に長池駅をスタート。何とか天気はもってくれ、7時間かけてJR木津駅に到着した。

日頃、コース近くを通るがほとんど知らない道ばかりで、細い路地を通ると、昔ながらのたたずまいを見ることができた。

椿板付近の校、泉橋寺の石仏など、近所にこのようなすばらしい所があるとは知らなかった。

なかでも印象的なのが、コースの道案内として道路に埋め込まれている子供達の手づくりで、名前が入った陶板製の道しるべである。

将来、子供達が私の年代になっても、道しるべが刻まれていてほしいと思った。

（木津川市　久保田　勉）

4月中旬、山崎合戦で有名な天王山へ登った。

自宅近くの淀川堤防からは、天王山や若山（太閤山）が眺められるし、昭和47年には幼い子供達を連れて登っている。

後期高齢者の私にとって、光秀・秀吉のどちらにも肩入れすることなく、歴史ある山は大切である。

今回、JR山崎駅から山崎聖天を経由し、旗立松展望台、十七烈士の墓、酒解神社と歩いて天王山頂上へ到着した。小倉神社へくだり、参道をJR長岡京駅まで歩いてみた。

登りの山崎聖天、下りの小倉神社経由は、いずれも未経験だった。しかし、厳しい急登・急下降があり、年寄りには大変だった。

一般的には宝寺経由で登り、柳谷観音へくだるのだが、それは平成3年に歩いているし、さらに平成11年には水無瀬から登り、柳谷観音へくだっているので、敬遠した。

今回、旗立松で山崎合戦の石碑を確認できたし、展望台からすばらしい眺望を楽しんだ。平成4年に建てられた大鳥居に目を見張ったりもした。「秀吉・光秀の道」の陶板画も次々現れ、頂上にも存在していた。

頂上広場から西南に鉄塔の立つ山が望まれたが、それは太閤山でなかっただろうかと思う。また、小倉神社へくだる途中の巨大な竹林では枯れた大竹が谷川を埋めていた。

晴天下の日曜日だったので大勢の子供連れに出会え、有名な山でのいろいろな経験が彼等の印象に深く刻まれたことだろう。

山崎合戦以前、天王山は山崎山と呼ばれていたことを付記しておく。

（枚方市　東谷　宏）

野洲市の希望ヶ丘文化公園が、2万5千の地形図を拡大したウオーキングマップを配布してい

る。

青年の城の西「希望の橋」から鏡山を望むと、里山とは思えない広大な樹海が続いていて、この斜面に赤の破線が蛇老寺川の源流奥鳴谷まで続いている。

たどってみると200㍍も行かないうちに消えてしまい、右の尾根に登るとやっとひとりが通れるくらいの細尾根のゆるい登りが続いた。

リョウブ・コナラ・タカノツメなどの落葉高木のなかに、ヒサカキ・ソヨゴ・マツなどの常葉樹が一体となっている。

マツの樹木はあるがやぶはない。鞍の溜め糞があったり、所どころでの展望を楽しんで登ると、鳴谷の南尾根の登山道に着いた。

地図をよく見ると、荒川谷の源流「希望の橋」の北の谷から三本の細尾根が鳴谷の南尾根に向かってのびていて、この尾根も踏破してみた。

低山にしては未知の樹林のなかに細尾根が続き、やぶのないゆるい登りで四季を通じて歩きたくなり、「鏡山樹林の裏の細道」とでも言いたいぐらいだ。

鏡山登山の新ルートとして、鳴谷の南尾根から別の尾根をくだったり、左に行って野外活動センターを廻ったり、右に行ってモトクロス山を廻るルートも歩ける。2時間半から4時間で自由に選べる。

（近江八幡市　岩野　明）

2月27日、三森山に行った。一部の人は水晶山へ縦走した。

28日、例会でオサンパパへ。3度目でやっと行けた。

3月8日、7日に予定していたが雨で本日尾城山へ。林道が上まであって30分で行けた。

13日、手掛岩山に行くが、南の903ピークで撤退。高岩だと思われる。

14日、新ハイの例会で仏ヶ尾山に行く。快晴で見晴らしは最高に良かった。

19日、小島山に行った。雪が消え、単独で3時間で戻れた。

22日、野伏ヶ岳に行けたが、薙刀は時間なく中止した。

26日、霊仙山に行くが、雪模様で寒く、フクジュソウも雪を被っていた。

27日、高山市の十二ヶ岳に行った。林道でフキノトウが採取できた。

28日、ひとりで南乙山へ。ミスミソウ見て鹿遊山にも行った。

30日、新ハイの花見例会だったが、雪でフクジュソウは見られず、しかし霧氷がきれいだった。

4月2日、鹿遊山に再び行った。きょうはルートを変えて登った。

3日、波然山に行った。スキー場を歩くことができたので楽に登れた。

4日、鏡山に上谷山経由で行った。残雪があったから楽だった。

8日、御池岳へ。フクジュソウがきれいだった。

10日、若丸山へ。長い尾根歩きだったが、やぶがなくて行けた。

11日、手掛岩山・寒霞気山・宮山・山の梯子へ。宮山は上まで車で行った。

17日、芦倉山へ行くも八合目で撤退した。

18日、観音山と高山に行った。熊の足跡と熊棚を見た。北アルプスがきれいに見えた。

23日、花見で鈴鹿の山に行く。しかし花には少し遅かった。

24日、八尾山に行って二・三・四等の三角点と御料局三角点を見た。

25日、雨乞櫛山・尾城山の岐阜百山二山に行った。

（海津市　山田明男）

どこへ行こうか
新ハイキングクラブ(SHC)
サービスチェーン

サービスチェーン
SHC
新ハイキング

サービスチェーンには右のような看板が掲げてあります。

新ハイキングクラブに協力してくださる宿やバス・タクシー会社です。自然を大切にし、ハイカーを仲間として歓迎してくれます。時間と体力と気持ちに余裕を持てば、安全な山行につながります。ぜひご利用ください。

ほとんどのチェーンがホームページをもっていて、新ハイのホームページからたどれば大体の様子を簡単に見ることができます。
ご利用の際はそれぞれの宿のホームページの予約欄か、電話または往復はがきで必ず予約してください。予約のときに、料金を確認してください。

利用するときは、新ハイキングクラブの会員証を持参してください。

快適なお宿をとおいしい料理のお宿
若妻・熟妻の登山口と米沢駅まで送迎致します。（白布・大日岳）
さんそう　もみの木
1泊2食付き　6,500円から
〒992-1121
山形県米沢市万世町対安
電　0238-22-1051
（米沢スキー場）
F　0238-22-2950

阿武隈の名峰
雲山登山口の自然あふれる宿
彩りの里　りょうぜん　紅彩館
1泊2食付き　8,300円から
（入浴・休憩・夜食もできます）
〒960-0807
福島市伊達市霊山町田中字町39-1
電　024-589-2233

大雪山 黒岳ロープウェイ乗り場から5分
（2009年グループ割引
8名以上で1名無料！（6・8・10月のみ）
5月連休および6月から営業
大雪山層雲峡ユースホステル
〒078-1701
北海道上川郡上川町層雲峡
電　01658-5-3418

東大雪のニペソツ山・石狩岳・ウペペサンケ山の登山拠点。朝・夕食付き・弁当用意します。（SHC会員1,000円引、新しいお部屋で
（SHC会員1,000円引、会員証提示）
温泉ペンション 森のふくろう
〒080-1403　北海道河東郡
上士幌町字ぬかびら源泉郷西区2
電　01564-4-2013
http://www.50.ca.sc.mbn.or.jp/

秋田駒ヶ岳山麓
岩手の秘湯・名勝鶯宿渓谷近
国見温泉　石塚旅館
〒020-0562
岩手県岩手郡雫石町橋場
問通　090-1933-4734
5月から11月10日まで営業
連絡先　019-692-3355

自然の宝庫　尾瀬ケ原見晴
尾瀬小屋
〒967-0531
福島県南会津郡檜枝岐村尾瀬ケ原
電　090-8921-8342
（営業期間中）
オフ0241-75-2225

尾瀬白砂山、知床連山縦走、知床岬ネイチャーウォッチングボート
知床五湖、カムイワッカに一番近い宿
知床岩尾別ユースホステル
（知床国立公園内）
〒099-4356
北海道斜里郡斜里町字岩尾別
電　01522-4-2311

1・3月冬籠り（休館）させて頂きます。春になりましたら、又お出かけください。
妖精の森　コテージラウル
1泊2食付き5,300円
〒016-1451
秋田県北秋田市森吉森吉高原
電　0186-76-2107
http://www.5.ga.sakuraba/musugi/

秋田駒ヶ岳への登山に最適なお宿
三陸海の幸山口、三陸海のスキー場送迎OK
新潟温泉またはの湯（貸天）も車で3分
あみはりロッチ
〒020-0585
岩手県岩手郡雫石町長山字岩手山
電　019-693-2313
http://www.03.xdt.ne.jp/amhari

宮城県・福島県各コース送迎可能／新幹線蔵王駅から登山口まで自転車送リます／新ハイキング会員割引5,500円／ネイチャーガイド常駐
手打そば　山菜　大雲沢（おおくもざわ）ヒュッテ
〒946-0303
新潟県魚沼市大白川新田
電／F　025279-6-3024
http://www.geocities.co.jp/"coxmo13/

山行計画
（7・8月）
新ハイキングクラブ関西

山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人すつ（夫婦は一枚）往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。

「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として400円をお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申込み先に連絡してください。体調の悪い方幼児と飛び入りはお断りします。

なお、例会の参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの場合は2日になり200円）を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。（損害保険ジャパンと契約）

・死亡・後遺障害保険	金額	1000万円
・入院保険金	日額	5000円
・通院保険金	日額	3000円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は本部まで）

（記入例）
（往復ハガキを使用）

例会申込み書

山行名（正確に記入すること）
期日
住所〒
氏名
会員番号
（会員でない方は会員外と記入）
血液型
電話番号・FAX番号
生年月日
緊急時の連絡先　TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」と必ず記入しておいてください。

7月	地域	対象の山	定員	リーダー	サブリーダー
3(土)	朽木	地蔵峠～三国岳	24	狩野	
3(土)	奥揖斐	高峰	24	須磨岡	
3(土)	湖南	笠間ヶ岳		村田	
4(日)	飛騨	池ノ尾山	10	山田	
4(日)	鈴鹿	元越谷（沢）	*	岩野	
4(日)	大峰	弥山～八経ヶ岳	25	西上	
7(水)	比叡	ケーブル比叡駅～銀閣寺		仲谷	
8(木)	台高	伊勢辻山～地蔵谷	25	西上	
10(土)	朽木	横谷峠～駒ケ岳西尾根	24	狩野	
10(土)	敦賀	燕蝶ヶ岳～西方ヶ岳		高島	
11(日)	湖北	椿坂峠～河内山	25	村田	
11(日)～12(月)	奥越	吉野ヶ岳～取立山	21	森脇	
15(木)	台高	江馬小屋谷～野江殻の頭	25	西上	
17(土)～18(日)	丹後	由良ヶ岳～依遅ヶ原山	6	中	
17(土)～19(日)	上信越	雨飾山	25	村田	
18(日)	鈴鹿	権現谷林道～白谷林道	*	岩野	
22(木)	大峰	駅逃ヶ岳～不動小屋山	25	西上	
25(日)	京都北山	三頭山～地蔵山		村田	
25(日)	比良	八淵の滝		秦	
27(火)	湖北	伊吹山古道歩き	10	山田	

＊＝マイカー山行

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および生年月日など必ずご記入ください。

② 返信の山行案内は、実施日の10日前頃にします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。

④ 山行のグレードは、次の5ランクに決めています。

（初級向き）初心者でも安全に歩けるコース（3～4時間コース）
（一般向き）日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山（5時間コース）
（中級向き）かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース（6～7時間コース）
（やや健脚向き）距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース（6～7時間コース）
（健脚向き）距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース（7時間以上）

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜（17時発表）に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください（係から連絡はしません）。降雨山行の嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

8月	地域	対象の山	定員	リーダー	サブリーダー
1(日)	若狭	久須夜ヶ岳		高島	
7(土)	飛騨	三方岩岳～野谷荘司山	10	鷲見	
7(土)	奥揖斐	一山	24	須磨岡	
8(日)	比良	釣瓶岳	25	村田	
8(日)	大峰	高塚山	25	西上	
12(木)	大峰	頂仙岳～熊渡	25	西上	
13(金)～17(火)	尾瀬会津	至仏山～燧ケ岳～会津駒ヶ岳	20	村田	
14(土)	播州	七種山	6	中	
21(土)	丹生	奄駅山～種子墓山		村田	
22(日)	湖東	鎌山	*	岩野	
22(日)	湖北	伊吹山古道歩き	10	山田	
24(火)	比叡	古黒谷道～比叡山		仲谷	
26(木)	大峰	行仙岳～転法輪岳	25	西上	
28(土)～29(日)	奥揖斐	藤無山～扇ノ山	20	村田	
31(火)	鈴鹿	御池岳	10	山田	

＊各計画の概要は次ページ以降に紹介している。

週末ハイク109
高島トレイル⑱コース
朽木・地蔵峠から三国岳（一般向き）

7月3日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）生杉休憩舎林道ゲート―地蔵峠―カベヨシ（818ピ）―岩谷峠―三国岳―茶屋跡―桑原橋（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　昭文社＝「京都北山」
2万5千＝古屋・久多
係　◎狩野東彦
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員24名
10コースに分割した高島トレイルの終点ポイント、桑原橋まで歩きます。
雨天中止

宍粟50名山④
鬼倉磨・高峰（一般向き）

7月3日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR姫路駅南口バスターミナル9時15分
行程　姫路駅（バス）道の駅（バス）登山口―高峰―アンテナ―まほろばの湯（入浴・バス）姫路駅（解散17時頃）
費用　2500円（バス・弁当・入浴代）
地図　2万5千＝神子畑・音水湖
係　◎須磨岡　輯
申込　〒671―1262
姫路市余部区上余部50の2の11
須磨岡　輯まで
＊定員24名
心地のよい広葉樹林の尾根を伝う。小雨決行

金曜里山ハイキング29
湖南アルプス・笹間ヶ岳（一般向き）

7月3日(土)　日帰り
集合　JR石山駅9時30分
行程　石山駅（バス）上関バス停―笹間ヶ岳―大谷河原―御仏河原―天神川林道―アルプス登山口（バス）石山駅（解散16時頃）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝瀬田・朝宮
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
村田智俊まで
山頂の八畳岩から見る湖南の眺望はすばらしい。上関バス停から登り、アルプス感覚の岩の上を歩き、展望の尾根道をたどる。大谷河原の花も見頃です。雨天中止

展望の山70
飛騨・池ノ尾山（一般向き）

7月4日(日)　日帰り
集合　JR西岐阜駅7時00分
行程　西岐阜駅（車）登山口―池ノ尾山―（往路）―登山口（車）西岐阜駅（解散）
費用　交通費各自（車代3500円）
地図　2万5千＝下之本
係　◎山田明男
申込　〒503―0535
海津市南濃町松山624の19
山田明男まで
＊定員10名程度
北アルプスの双六岳近くの山。登山口まで車で4時間かかりますので帰りが遅くなります。雨天中止

鈴鹿を歩く336
元越谷（沢歩き・健脚向き）

7月4日(日)　日帰り　マイカー
集合　国道477号元越谷林道入口手前8時30分
行程　広場―元越谷林道―元越谷―左俣―尾根―元越谷林道―広場（解散）
装備　渓流シューズか地下タビ・ワラジ必携
費用　交通費各自（保険対象外）
地図　昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係　◎岩野　明○山田景三○後藤康幸
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
毎年恒例の夏の沢歩きです。状況によってコース変更もあります。雨天中止

大峰・弥山から八経ヶ岳（中級向き）

7月4日(日)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅（バス）トンネル東口―一のタワ―弁天の森―弥山小屋―八経ヶ岳―（往路）―トンネル東口（バス）橿原神宮前駅（解散19時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝弥山
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名
毎年恒例の花山行。昨年はオオヤマレンゲの咲き始めに会えて幸運でした。今年も期待を込めて登ります。小雨決行

ゆっくり歩こう7
東山トレイル3
比叡
ケーブル比叡駅から銀閣寺（初級向き）

7月7日(水)　日帰り
集合　叡電八瀬比叡山口駅9時25分
行程　ケーブル八瀬駅（ケーブル）ケーブル比叡駅―水飲対陣碑―石鳥居―瓜生山―銀閣寺道バス停（解散14時頃）
費用　交通費各自
地図　京都一周トレイル「東山」
係　◎伸谷礼司○沖　伸
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
前回雨で流れたコース。距離は短くゆっくり歩きます。長い登りを避けて下りの経路にしました。雨天中止

台高
伊勢辻山から地蔵谷（中級向き）

7月8日(水)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅（バス）和佐羅滝口バス停―三度辻小屋―伊勢辻分岐―伊勢辻山―伊勢辻分岐―地蔵谷―木原林道滝見展望所（バス）橿原神宮前駅（解散17時）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝大豆生
係　◎西上利和○下部正年
申込　〒610―0121
城陽市寺田大畔10の10
新ハイキング関西まで
＊定員25名
展望抜群の伊勢辻山から台高縦走路を北上し、新緑がすばらしい地蔵谷をくだります。多少の渡渉があります。雨天中止

週末ハイク110 高島トレイル⑦コース 朽木 横谷峠から駒ヶ岳西尾根（一般向き）

7月10日(土) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅（バス）横谷峠—池原山分岐—駒ヶ岳南尾根—駒ヶ越—駒ヶ岳—駒ヶ岳西尾根—木地山バス停（バス）朽木てんくう温泉（入浴・バス）京都駅（解散17時30分頃）
費用 約3000円（バス代）
＊入浴代別途
地図 昭文社＝「京都北山」2万5千＝葛庭野・古屋
係 ◎狩野東彦
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員24名

4月に中止したブナ林が続くコース。このトレイルは短距離コースなので、下山後に入浴します。雨天中止

敦賀の山 蠑螺ヶ岳・西方ヶ岳（中級向き）

7月10日(土) 日帰り
集合 JR敦賀駅9時00分
行程 敦賀駅（車）浦底登山口—蠑螺ヶ岳—西方ヶ岳—常宮登山口（解散）
費用 交通費各自
地図 2万5千＝杉津
係 ◎高島伸浩
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで

敦賀半島縦断の山旅。無人島の水島、敦賀湾・若狭湾などが眼下。常宮登山口に車しますので車のご協力お願いします。＊車か電車か明記してください。雨天決行

湖北・椿坂峠から河内山（中級向き）

7月11日(日) 日帰り 貸切バス
集合 JR京都駅八条口7時40分
行程 京都駅（バス）椿坂峠—県境尾根—長野尾峠—河内山—池河内湿原（バス）京都駅（解散18時頃）
費用 約3000円（バス代）
地図 2万5千＝中河内
係 ◎村田智俊
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
＊定員25名

椿坂峠からさらに余呉トレイルを北上し、河内山から池河内湿原を歩く。雨天中止

奥越・吉野ヶ岳と取立山（一般向き）

7月11日(日)～12日(月) 貸切バス
1泊2日
集合 〈11日〉JR京都駅八条口7時40分
行程 〈11日〉京都駅（バス）登山口—吉野ヶ岳—（往路）—登山口（バス）丸岡温泉「たけくらべ」（泊）
〈12日〉宿（バス）登山口—大滝—こつぶり山—取立山—東山コース—登山口（バス）京都駅（解散17時頃）
費用 約20000円（バス・宿泊代等）
地図 2万5千＝北谷・山王
係 ◎森脇貞義
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員21名

初日越前五山の一つ吉野ヶ岳、翌日取立山に登ります。取立山はミズバショウが有名ですが、ササユリもみごとです。頂上からは360度の大展望。白山が美しい。雨天決行

台高 江馬小屋谷から野江股の頭（中級向き）

7月15日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程 橿原神宮前駅（バス）江馬小屋谷—赤い橋—ナンノ木平—尾根分岐—野江股の頭—（往路）—赤い橋（バス）橿原神宮前駅（解散17時）
費用 約3000円（バス代）
地図 2万5千＝七日市・宮川貯水池
係 ◎西上利和○下部正年
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員25名

雨で流れて二度目のリベンジ。緑が深まりゆく山々に涼風を求め、初夏の台高に登ります。小雨決行

丹後 由良ヶ岳と依遅ヶ尾山（一般向き）

7月17日(土)～18日(日) 1泊2日
集合 〈17日〉JR石山駅7時30分
行程 〈17日〉石山駅（車）丹後由良荘—西峰—東峰—（往路）—丹後由良荘（泊）
〈18日〉宿（車）登山口—依遅ヶ尾山—（往路）—登山口（車）石山駅（解散）
費用 約15000円（宿泊・車代）
地図 2万5千＝丹後由良・西舞鶴
係 ◎中 照行
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員6名（禁煙者に限る）

丹後の関西百名山二山に登る。2日共雨天の場合中止

上信越・雨飾山（健脚向き）

7月17日(土)～19日(祝) 貸切バス
2泊3日
集合 〈17日〉JR京都駅八条口7時40分
行程 〈17日〉京都駅（バス）小谷温泉「山田旅館」（泊）
〈18日〉宿—広河原—ブナ平—荒菅沢—バテレン峰—笹平—雨飾山—笹平—中ノ池—難所ノゾキ—梶山新湯「雨飾山荘」（泊）
〈19日〉宿（バス）京都駅（解散19時頃）
費用 約32000円（バス・宿泊代等）
地図 2万5千＝越後大野・雨飾山
係 ◎村田智俊
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
＊定員25名（会員に限る）

山のいで湯につかり、雨飾山にゆっくり登る。雨天決行

鈴鹿を歩く337 権現谷林道から白谷林道（中級向き）

7月18日(日) 日帰り マイカー
集合 河内線風穴手前寺院広場8時30分
行程 広場（車）権現谷林道—白谷林道—笹峠—P712m—権現谷（解散）
費用 交通費各自
地図 昭文社＝「御在所・霊仙・伊吹」
係 ◎岩野 明○山田景三○後藤康幸
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで

古い話になるが、昭和58年7月16日『花の百名山』の田中澄江さん達が芦川地区を調査し、権現谷から白谷林道を歩かれ、『近江カルスト・花と人生』の本にまとめられて

いる。現在どの程度残っているのか？　花々を探しながらのんびり歩きます。小雨決行

大峰
釈迦ヶ岳から不動小屋山　（中級向き）

7月22日(木)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅（バス）峠の登山口―古田の森―千丈平―釈迦ヶ岳―千丈平―古田の森―不動小屋山―旭登山口（バス）橿原神宮前駅（解散18時）
費用　約3500円（バス代）
地図　2万5千＝釈迦ヶ岳
係　◎西上利和〇下郡正年
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
雄大な大峰の山並を眺めながら釈迦ヶ岳を往復し、あまり踏まれていない三角点の山を目指す。多少のやぶ漕ぎあります。小雨決行

京都北山歩き139
三頭山から地蔵山　（一般向き）

7月25日(日)　日帰り
集合　JR八木駅8時20分
行程　八木駅（バス）越畑―芦見峠―三頭山―芦見峠―地蔵山―裏参道―神明峠―巡視路分岐―愛宕林道―亀岡駅（解散17時頃）
費用　交通費各自
地図　昭文社＝「京都北山」
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
三頭山の三角点に立ち寄り、一等三角点の地蔵山へ登る。帰路は神明峠から巡視路を伝い、日除で涼しい愛宕林道を亀岡へくだる。雨天中止

比良を歩く84
八淵の滝　（一般向き）

7月25日(日)　日帰り
集合　JR近江高島駅9時00分（9時03分発畑行きに乗車）
行程　近江高島駅（バス）ガリバー旅行村―大摺鉢―貴船の滝―オガサカ分岐―カラ岳―シャカ岳―雄松山荘道出合―雄松山荘道―南小松―近江舞子駅（解散16時30分頃）
費用　約1900円（京都から）
地図　2万5千＝北小松・比良山　昭文社＝「比良山系」
係　◎桑　泰夫
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
夏は滝めぐり。大摺鉢から八淵ノ滝へ入ります。雨天中止

平日お花見山行⑤
湖北・伊吹山古道歩き　（一般向き）

7月27日(火)　日帰り
集合　JR関ヶ原駅8時30分
行程　関ヶ原駅（車）ドライブウェイ七合目―古道歩き―山頂遊歩道―七合目（車）関ヶ原駅（解散）
費用　交通費各自（車代1000円）
地図　2万5千＝関ヶ原
係　◎山田明男
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員10名程度
今回も前回と同じコースです。何が咲くか？　雨天中止

若狭の山
久須夜ヶ岳　（一般向き）

8月1日(日)　日帰り　マイカー
集合　小浜市役所9時00分
行程　小浜市役所（車）久須夜ヶ岳―蘇洞門―久須夜ヶ岳（解散）
費用　交通費各自
地図　2万5千＝鷲崎
係　◎高島伸浩
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名
先に一等三角点の久須夜ヶ岳へ車で上がり、天下の奇勝蘇洞門へくだり、昼食後登り返す。全国最大規模のオオキツネノカミソリの群生が見られます。雨天決行

自然観察山行280
飛騨
三方岩岳から野谷荘司山　（一般向き）

8月7日(土)　日帰り　レンタカー
集合　JR岐阜駅7時30分
行程　岐阜駅（車）白山スーパー林道三方岩岳駐車場―三方岩岳―野谷荘司山―三方岩岳―駐車場（車）岐阜駅（解散）
費用　約6000円（岐阜駅からレンタカー代等）
地図　2万5千＝鳩谷・平瀬・中宮温泉・新岩間温泉
係　◎鷲見守康
申込　〒504―0828　各務原市蘇原村雨町1の19の5　鷲見守康まで
＊定員10名（申込状況により減員あり）
野谷荘司への縦走路から眺める三方岩岳の優姿は壮観です。小雨決行

央峯50名山⑤
奥播磨・一山　（一般向き）

8月7日(土)　日帰り　貸切バス
集合　JR姫路駅南口バスターミナル9時15分
行程　姫路駅（バス）道の駅（バス）高野峠―一山―阿舎利（バス）一宮温泉（入浴・バス）姫路駅（解散17時頃）
費用　2500円（バス・弁当・入浴代）
地図　2万5千＝音水湖
係　◎須磨岡　輯
申込　〒671―1262　姫路市余部区上余部50の2の11　須磨岡　輯まで
＊定員24名
山頂からの眺望はすばらしい。小雨決行

比良・釣瓶岳　（中級向き）

8月8日(日)　日帰り　貸切バス
集合　JR京都駅八条口7時40分
行程　京都駅（バス）朽木栃生―ホトラ山―笹峠分岐―イクタワ峠―釣瓶岳―ナガオ―アカサカ道―大摺鉢―ガリバー旅行村（バス）京都駅（解散18時頃）
費用　約3000円（バス代）
地図　昭文社＝「比良山系」
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　村田智俊まで
＊定員25名
朽木側から釣瓶岳に登り、ナガオをくだる。雨天中止

大峰・高塚山　（一般向き）

8月8日(日)　日帰り　貸切バス
集合　近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程　橿原神宮前駅（バス）トンネル東口―一のタワ―支尾根出合―1418㍍峰分岐―高塚山―1194㍍峰―西原泉谷林道（バス）橿原神宮前駅（解散16時30分）
費用　約3000円（バス代）
地図　2万5千＝弥山
係　◎西上利和〇下郡正年
申込　〒610―0121　城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで
＊定員25名

大峰の名峰弥山の東に位置する不遇な山ですが、豊かな自然が残る静寂な尾根歩きが楽しめます。小雨決行

大峰・頂仙岳から熊渡（一般向き）

8月12日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程 橿原神宮前駅（バス）林道坪の内線—栃尾辻—ナメリ坂—頂仙岳—カナビキ尾根—熊渡（バス）橿原神宮前駅（解散17時）
費用 約3000円（バス代）
地図 2万5千＝弥山
係 ◎西上利和〇下部正年
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員25名
バスで標高1200m付近まで登ります。弥山まで続く整備された新緑の尾根の景観は、訪れる人々に感動を与えてくれます。小雨決行

尾瀬会津 至仏山・燧（ひうち）・会津駒ヶ岳（中級向き）

8月13日(金)夜～17日(火)朝 貸切バス
前夜発3泊4日
集合 （13日）JR京都駅八条口21時00分
行程 （13日）京都駅（夜行バス）
（14日）（バス）戸倉（専用バス）鳩待峠—至仏山—山ノ鼻—上田代—中田代—見晴十字路「弥四郎小屋」（泊）
（15日）小屋—見晴新道—柴安湿—燧ヶ岳—熊沢田代—広沢田代—尾瀬御池「御池ロッジ」（泊）
（16日）ロッジ（バス）駒ヶ岳登山口—駒ノ小屋—会津駒ヶ岳—中門岳—駒ノ小屋—大津岐峰—キリンテ（入浴・夜行バス）
（17日）（バス）京都駅（解散6時頃）
費用 約32000円（バス・宿泊・入浴代等）
地図 昭文社＝「尾瀬」
係 ◎村田智俊
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
＊定員20名（会員に限る）
尾瀬の二山に登り、高原状の会津駒ヶ岳を歩く。雨天決行（雨天はコース変更あり）

播州・七種山（ぐさ）（一般向き）

8月14日(土) 日帰り
集合 JR石山駅7時30分
行程 石山駅（車）福崎野外センター—七種山—七種槍—野外センター（車）温泉（入浴・車）石山駅（解散）
費用 交通費各自（車代ワリカン）
地図 2万5千＝寺前・北条・前之庄
係 ◎中 馬行
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員6名（禁煙者に限る）
関西百名山の七種山から七種槍を周回するコース。雨天中止

金曜里山ハイキング30 丹生 帝釈山・稚子墓山（一般向き）

8月21日(土) 日帰り
集合 神鉄箕谷駅9時40分
行程 箕谷駅（バス）衝原—丹生山—帝釈山—鉱山道分岐—双坂池—稚子墓山—肘曲り—柏尾台—大滝口—箕谷駅（解散16時頃）
費用 交通費各自

地図 2万5千＝淡河
係 ◎村田智俊
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
つくばら湖畔の箱木千年家を見てから義経道を丹生山へ登り、帝釈山、稚子墓山へと尾根道をたどる。雨天中止

鈴鹿を歩く338 鏡山（一般向き）

8月22日(日) 日帰り マイカー
集合 竜王インター東希望ヶ丘リッチランド入口広場9時00分
行程 広場—鳴谷池—奥鳴谷広場—鏡山—北稜—鳴谷南尾根—P274m—モトクロス山—東ゲート—名神横広場（解散）
費用 交通費各自
地図 2万5千＝野洲
係 ◎岩野 明〇山田景三〇後藤康幸
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊会員に限る
あまり知られていない鏡山の新ルートを歩きます。雨天中止

展望の山71 湖北・伊吹山古道歩き（一般向き）

8月22日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅8時30分
行程 関ヶ原駅（車）ドライブウェイ七合目—古道歩き—山頂遊歩道—七合目（車）関ヶ原駅（解散）
費用 交通費各自（車代1000円）
地図 2万5千＝関ヶ原
係 ◎山田明男
申込 〒503—0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで
＊定員10名程度
お盆過ぎの山頂は？ サラシナショウマなどが咲いているでしょう！ 雨天中止

火曜ハイク72 比叡・古黒谷道から比叡山（一般向き）

8月24日(火) 日帰り
集合 ふるさと前バス停9時00分
行程 ふるさと前—八幡天満宮—首切地蔵—古黒谷道—青龍寺—釈迦堂—根本中道—悲田谷—大宮谷林道—日吉大社—京阪坂本駅（解散15時30分頃）
費用 交通費各自
地図 昭文社＝「京都北山」
係 ◎仲谷礼司〇沖 伸
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
一部整路がありますが、涼しい道を選んで歩きます。雨天中止

大峰 行仙岳から転法輪岳（中級向き）

8月26日(木) 日帰り 貸切バス
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程 橿原神宮前駅（バス）白谷トンネル東口—行仙岳—倶利伽羅岳—転法輪岳—（往路）—白谷トンネル東口（バス）橿原神宮前駅（解散18時30分）
費用 約3500円（バス代）
地図 2万5千＝池原
係 ◎西上利和〇下部正年
申込 〒610—0121 城陽市寺田大畔10の10 新ハイキング関西まで
＊定員25名
展望抜群の行仙岳から熊笹にも重なる大峰山脈の景観を楽しみながら、転法輪岳まで縦走します。小雨決行

テント山行
奥播磨・藤無山と扇ノ山（一般向き）

8月28日(土)～29日(日)
1泊2日　貸切バス
集合　(28日) JR新大阪駅正面口7時30分
行程　(28日) 新大阪駅（バス）藤無峠―コル―藤無山―若杉高原スキー場（入浴・バス）八東町ふるさとの森（テント・バンガロー泊）
(29日) ふるさとの森―林道―登山口―扇ノ山―大ズッコ―小ズッコ―名水広場（バス）新大阪駅（解散19時頃）
費用　約9000円（バス・宿泊代等）＊食料持参
地図　昭文社＝「氷ノ山」
係　◎村田智俊
申込　〒610―0121 城陽市寺田大畔10の10 村田智俊まで
＊定員20名

藤無峠から藤無山へ。高原でテント泊し、ブナ林の扇ノ山を縦走する。テント装備はバスに置いて歩ける。＊バンガローの人は「バンガロー」と明記ください。雨天決行

平日お花見山行⑥
鈴鹿・御池岳（一般向き）

8月31日(火)　日帰り
集合　JR関ヶ原駅8時30分
行程　関ヶ原駅（車）鞍掛峠―鈴北岳―御池岳―鈴北岳―鞍掛峠（車）関ヶ原駅（解散）
費用　交通費各自（車代1000円）
地図　2万5千＝篠立
係　◎山田明男
申込　〒503―0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで
＊定員10名程度
もう秋の花が咲いているか？　雨天中止

新ハイキング関西　◎7・8月実施山行係（リーダー）紹介　平成22年（2010）7月現在・五十音順

氏名	例会名	〒	住所	電話（FAX兼）	申し込み
岩野　明	鈴鹿を歩く	523－0041	近江八幡市中小森町666－15	0748－33－7215	関西本部
狩野東彦	週末ハイク	617－0006	向日市上植野町番堀9－9	075－933－1458	関西本部
須磨岡輔	兵庫周辺の山	671－1262	姫路市余部区上余部50－2－11	0792－73－3037	本人
鷲見守康	自然観察山行	504－0828	各務原市鵜沼村岡町1－19－5	0583－83－3978	本人
高島伸浩	若狭周辺の山	914－0076	敦賀市元町14－29	0770－23－2443	関西本部
中　照行	関西の名山	520－2134	大津市瀬田3－33－6	0775－45－7017	関西本部
仲谷礼司	火曜ハイクほか	617－0817	長岡京市滝ノ町1－6－4	075－952－1577	関西本部
西上利和	奈良周辺の山	586－0043	河内長野市清見台4－19－1－409	0721－63－7196 (0721－63－5988)	関西本部
秦　康夫	比良を歩く	603－8211	北区紫野上石竜町22	075－491－2373	関西本部
村田智俊	金曜ハイクほか	610－0121	城陽市寺田大畔10－10	0774－53－2754	本人
森脇貞義	近江の山	520－1602	高島市今津町桂434－1	0740－22－5088	関西本部
山田明男	展望の山ほか	503－0535	海津市南濃町松山624－19	0584－56－1466	本人

山行報告
（3・4月号）
新ハイキングクラブ関西

播磨・小野アルプス縦走（週末ハイク100）

3月6日(土)　雨のちくもり
(集合) JR小野町駅9・35～55―前山10・25―愛宕山10・55―アザメ峠11・15～20―松山11・30―アンテナ山11・45～50―惣山（小野富士）12・00～15―岩倉峠12・25（昼食）13・00―紅山13・25～40―岩山14・10～20―宮山14・35―ふくでん峠14・45―小野町駅15・40（解散）

朝方から雨で参加者が半減したが、予定通り雨の装備で出発。入山地点を前山からに変更して小雨のなか、午前中に五つのピークを越えて少し遅めの昼食。昼食中に雨が上がって陽も差したので、紅山の岩場は滑落危険もなく、全員登り切った。

(参加者)　仲谷礼司　船本裕巳子　小池一郎　三野　旭　山高多恵子　堀江房廣　相澤浩美　西谷眞実子　浅野　剛　木内範文　岩城登子　白島忠子　小関舞子　◎狩野東彦　(計14)

六甲・七兵衛山

3月7日(日)　くもりのち雨
(集合) 阪急岡本駅9・05―保久良神社9・32―金鳥山10・15―八幡谷分岐10・35―七兵衛山南口10・45―七兵衛山11・00～10―風吹岩11・45（昼食）12・20―キャッスルウォール上部12・50―荒地山13・20―阪急芦屋川駅14・45（解散）

朝方まで雨が残り、参加者が減少した。七兵衛山は楽しい雰囲気の小さなピーク。前半の散策気分に比べ、後半のロックガーデン上部から荒地山は緊張感のある岩場や、展望の良い所などがあり、変化に富んだ山行になった。

(参加者)　鮫田二郎　首藤睿子　(計3名)
◎古賀慶二

鈴鹿・残雪の雨乞岳（鈴鹿を歩く328）

3月7日(日)　◎岩野　明
＊雨天のため中止しました。

南山城
長山・大焼山・万灯籠山（火曜ハイク68）

3月9日(火)　◎仲谷礼司
＊雨天のため中止しました。

台高・高見山から釜杉峠

3月11日(木)　くもり
(集合) 近鉄榎原神宮前駅8・05～20（バス）高見林道入口9・40―小峠10・20―高見山11・50（昼食）12・30―カヤノ山分岐13・10―天狗山13・30―船峯山―黒石山15・00―釜杉峠16・00―井出集落16・55（バス）榎原神宮前駅18・30（解散）

高見林道入口から通行止めでバスが入れず。大峠から登るのをあきらめ小峠経由で登る。山頂避難小屋で昼食後、早々に東尾根に取り付いた。昨年よりも積雪が多く体力勝負の縦走となった。

(参加者)　小栗大直　三井統一　林　正義　古山幸男　中江南海雄　西村静子　渡部和美　鍋方由子　森野輪子　今泉　勲　沖　伸　中島　稜　岩村春子　柳　明子　志水明美　三野　旭　松上美代子　島田　崇　桜庭　栄　山本みゆき　川俣　勲　岩澤裕子　相生村京子　○竹田勝英　○下部正年　○西上利和　(計26名)

三河・吉祥山

3月13日(土)　(自然観察山行276)
◎鷲見守康
＊定員未満のため中止しました。

比叡・修学院から大比叡

3月13日(土)　くもり一時小雨
(集合) 叡電修学院駅9・00―雲母坂登山口9・27―千種忠顕碑10・50―大比叡12・08―延暦寺駅12・30（昼食）13・05―明王堂13・43―JR比叡山坂本駅15・00（解散）

雲母坂から大比叡（一等三角点）に登った。下山は明王堂を経由して無道道からくだった。リーダーの集合が30分遅れたことお詫びします。

(参加者)　木木恭子　松上美代子　大井隆嗣　小西敦子　神戸定敏　◎中　照行　(計6名)

比良・武奈ケ岳

3月13日(土)　くもり時々雨

(集合) JR堅田駅8・40～45(バス) 坊村9・20～40—休憩地10・30—P846m鞍部11・20—御殿山手前夏・冬道分岐広場11・45(昼食) 12・20—御殿山12・30～35—武奈ケ岳13・30～40—イブルキノコバ14・30～35—八雲ヶ原14・50～15・10—北比良峠15・30—ダケ道—大山口16・40～50—イン谷口17・10—比良駅17・40(解散)

残雪の急登が続き、御殿山手前広場で昼食となった。予定より1時間遅れで武奈ケ岳に登頂したが、ガスがかかっていて展望は無い。釣鐘岳への縦走を止めて八雲ケ原へくだり、ダケ道経由で比良駅へ帰着する長いコースになった。山頂付近は残雪があり、雪解け道はぬかるんでいた。

(参加者) 菱子衣代　大槻一夫　金森節子　下山　登　岩本彩子　藤本紀子　後藤智之　後藤美恵子　武村千鶴　須藤清子　武部美美子　浅野　剛　岡本正明　水見真砂子　山口敏晴　西田俊治　森実喜美子　後藤純子　杉本和子　横本紀代子　大和　紘　牧　和夫　田中祥介　貴堂雅路　大野宣子　川島桑子　○宮野哲郎　○安倉正勝　○村田智俊　(計29名)

鈴鹿・奥草山から政子

(近江の山シリーズ31)

3月14日(日)　晴れ

(集合) JR京都駅7・37(バス) 大河原9・04～10—林道終点9・40～47—P537m10・00～07—休憩地10・23～33—奥草山11・00(昼食) 12・00—政子12・10～25—ピーク12・30—テレビアンテナ12・47～13・00—林道13・25—大河原13・56(バス) 京都駅15・40(解散)

林道から尾根に取り付き、急坂をあえぎながら奥草山に着いた。綿向山が間近に見え、政子からはダムが下に見えた。帰路は大河原へくだったが、急な坂ばかりでシリモチをつく人が続出した。

(参加者) 山根弘美　大園加代子　仲谷礼司　上田裕子　市井ユリエ　岩本健二　岩本彩子　船本裕巳子　松村雅子　岡崎知子　中澤美香子　竹田勝英　和田純子　砂原恵英子　小池一郎　志水明美　安田文美江　磯部　純　岩佐　修　三野　旭　北村　正　首藤育子　大嶋　勉　辻中　資　山形　明　○村井寿和　○森脇貞義　(計27名)

蓬莱山から小女郎ケ池・権現山

(比良を歩く81)

3月14日(日)　晴れ

(集合) JR志賀駅9・02(バス・ロープウェイ) 打見山9・40～55—蓬莱山10・18～34—小女郎ケ池11・00～10—ホッケ山11・37～40—水分神社分社11・55(昼食) 12・25—権現山12・30—スゴノバン13・00～05—雲仙山13・28～35—雲仙山登山口14・07—栗原バス停14・50～15・13(バス) 和邇駅15・23(解散)

積雪が無いのが残念だったが、琵琶湖を見下ろしながらの稜線歩きは快適だった。湖面の向こうに横山岳・金糞岳が白く輝き、伊吹山の左後方には、御嶽山・乗鞍岳まで遠望できた。

(参加者) 小谷和子　中嶋日出男　福本愛子　岩城豊子　杉本和子　大和　紘　福隅　章　○秦　康夫　(計8名)

大峰・天竺山

3月17日(水)　晴れ

(集合) 近鉄橿原神宮前駅8・05～20(バス) 奥里10・55—ザレ場12・30—天竺山12・45(昼食) 13・25—旧花瀬道尾根出合14・05—内原橋バス停14・40(バス) 橿原神宮前駅17・10(解散)

雨続きのなか、久々の快晴に恵まれ、直登を汗をかきながら登った。山頂の展望は無かったが、芽吹き始めた木々と野鳥の声を聞きながら日だまりのなかで昼食を楽しみ、プロムナードのような旧花瀬道を快適にくだった。

(参加者) 三井紘一　中江南海雄　渡部和美　古山幸男　竹村英樹　荒木光雄　松村雅子　今泉　勲　入江　勲　岩村春子　松上美代子　三野　旭　池田　茂　久保田順一　真田明子　川俣　勲　小坂さゆり　志水明美　湯口靖孝　緒方由子　○下部正年　○西上利和　(計22名)

飯高・三峰山(三重の山107)

3月20日(土)　晴れ

(集合) 飯高町道の駅「飯高駅」8・30～55(車) ゆりわれコース登山口9・55～10・00—八丁平11・30(昼食) 12・10—三峰山12・20～30—新道峠—月出コース登山口14・10—ゆりわれコース登山口14・30～40(車) 道の駅「飯高駅」15・20(解散)

八丁平、三峰山頂共に展望とても良し。新道峠への尾根道のブナ・ヒメシャラの林が見事だった。登山口近辺のフサザクラ・ミツマタも見頃だった。解散後有志で温泉「飯高の湯」に入り、山荘「無酔庵」へ。

(参加者) 平　馥一　平　幸子　杉本和子　堀江房雄　武藤由美子　亀井悦子　山形　明　石田眞由美　水戸鉄治　相沢正二　川村敏和　中森義信　○稲垣逸夫　(計13名)

高島トレイル⑥コース

朽木・横谷峠から水坂峠

(週末ハイク101)

3月20日(土)　晴れ

(集合) JR京都駅7・40(バス) 横谷峠9・17～30—P532m9・50—P536m10・06—行者山分岐10・27—行者山10・30～35—共同アンテナ11・00—P416m11・10—P378m11・47～50—行者山椒川登山口12・05(昼食) 12・50(バス) 桜峠12・55—P545m13・35～45—二の谷山14・15～30—P486m15・05—水坂峠15・35～50(バス) 京都駅18・00(解散)

汗ばむ陽気だったが、少し強めの風が吹いたので汗がすぐに乾いて快適な歩きができた。春霞のなかにも百里ヶ岳など周囲の山や竹生島も望めた。昼食後の桜峠からの急登や水坂峠への急降下も無事にクリアできた。

(参加者) 上田裕子　渡部和美　仲谷礼司　木村　豊　武部美美子　山根弘美　蓬井洋子　大園加代子　福島　昭　岡崎知子　佐々木輝子　長沢佑美　建場君子　沖　伸　井上正章　宮野哲郎　宮野紘子　和田純子　岩村春子　池田美恵子　西村文男　岩佐　修　松上美代子　磯部　純　三上伸夫　○狩野東彦　(計26名)

南勢

越門山・高峰山・姫越山

3月20日(土)～22日(祝)　2泊3日

○村田智俊

＊バス定員未満で中止しました。

飛騨・六郎洞山

(展望の山66)

3月21日(日)　○山田明男

＊雨天のため中止しました。

台高

ショウジ山から点名「切原」

3月21日(日)　○西上利和

＊バス定員未満で中止しました。

残雪の御池岳・鳥の平

(鈴鹿を歩く329)

3月21日(日)　くもり時々雪・晴れ

(集合) 御池林道小又谷分岐広場8・15(車) ゴロ谷出合8・35—第三尾根取付9・15—ガレ場横10・25—風池西11・35—丸池11・55—夕日のテラスドリーネ12・00(昼食) 12・45—お花の池13・05—ヒルコバ13・35—伊勢尾14・00—ゴロ谷出合15・35(解散)

春の風が鈴鹿の山を包む。ゴロ谷第三尾根はアキレス腱が悲鳴をあげる急登。浮石・落石の恐怖に顔が強張る。フクジュソウは吹雪に花を閉じ、オオイタヤメイゲツも凍っている。ヒルコバからの下りも風雪のなか、春の天使は全くいたずら好きだ。

(美香子)

(参加者) 武村千鶴　中澤與司博　稲津謙治　木下朝子　中澤美香子　寺井博子　滝川　登　奥野太一郎　栗本敏夫　一芝義雄　一芝美知子　西村敏夫　大西修郎　左近健一朗　貴堂雅路　谷　守　小林　修　緒方由子　○後藤康幸　○山田恭三　○岩野　明　(計21名)

京都東山トレイル

ケーブル比叡駅から鹿関寺

(ゆっくり歩こう3)

3月24日(水)　○仲谷礼司

＊雨天のため中止しました。

大峰・石仏山

3月25日(木)　○西上利和

＊雨天のため中止しました。

湖西・箱館山

(金曜里山ハイキング26)

3月27日(土)　晴れ

（集合）ＪＲ近江今津駅9・10～25（タクシー）ビラデスト今津9・50～10・00―セラピーロード東屋10・15―癒しの森東屋10・30―箱館山Ａコース分岐11・00―箱館山スキー場11・30（昼食）12・30―一等三角点13・00―箱館山スキー場駐車場登山口13・50～14・03（バス）近江今津駅14・25（解散）

野草の開花は遅く、まだ山頂付近は雪景色で、昨夜降ったトレースの無い新雪の雑木林をぬって箱館山スキー場へ行った。琵琶湖を眼下に昼食後、山頂付近の散策をとりやめ、一等三角点に立ち寄って、早目に下山した。

（参加者）堀内預智　金森節子　大川直澄　遠藤　率　小林　桂　角江朝子　河本英機　河本美千子　妹尾一正　川島勝美　熊田千夜子　木下朝子　川島榮子　森実喜美子　林　信男　永冨律子　大野宣子　上田直代　林　義朗　◎村田智俊（計20名）

鈴鹿北部の山・鳥帽子岳

3月27日(土)　晴れ

（集合）上石津支庁8・50―細野登山口9・10―鳥帽子岳11・05（昼食）12・15―細野登山口13・50（解散）

ぬかるみにブロック六個を敷いて出発。4ヵ所の見晴らしポイントがあり、徐々に展望は良くなり、頂上からの「水道源」は絶景。前夜の雪で再び処女雪を踏む。

（参加者）岩本彩子　白木やす子　谷　守　◎高島伸治（計4名）

高島トレイル①コース

湖西・愛発越から黒河峠

（週末ハイク102）

3月27日(土)　くもりのち晴れ

（集合）ＪＲ京都駅8・00（バス）国境スキー場9・50～10・00―愛発越登山口10・25―乗鞍岳北尾根11・20～30―乗鞍岳12・20～30―電波塔12・45（昼食）13・30―No.160鉄塔14・20～25―芦原岳14・40―狼ヶ馬場15・40～50―黒河峠16・20～30―マキノ林道口17・00～10（バス）京都駅19・20（解散）

三度目でやっと実施できたこのコースも一面の銀世界。新雪を踏んでの樹氷、琵琶湖から敦賀・若狭の海、三重県や武奈ヶ嶽までのトレイルルートの景色を楽しみながら歩いた。

（参加者）岩鶴健司　武部美美子　小石浩子　渡部和美　大園加代子　山根弘美　小栗大直　廻井洋子　中川光郎　福島　昭　松村雅子　岡崎知子　井上正章　佐々木輝子　宮野哲郎　宮野哲子　岩村春子　塚本忠次　後藤純子　須藤浩子　武村千鶴　繁田広美　船本裕巳子　和田純子　竹内正子　堀江房順　下部正年　西田俊治　浅野　剛　大嶋　勉　渡部百合江　大平　漸　稲津謙治　加藤浩二　池田繁子　堀田輝子　氷見真砂子　瀧川佳秀　高橋静雄　丸山敏之　◎仲谷礼司　◎狩野東彦（計43名）

奥播磨・日の原山

（炎業50名山③）

3月28日(日)　くもり

（集合）ＪＲ姫路駅9・20（バス）日ノ原登山口10・55―隧道上部11・30―日ノ原山12・10（昼食）12・50―展望地13・20―引原登山口13・45（バス）波賀温泉14・35（入浴・バス）姫路駅16・10（解散）

登山口の日ノ原大森神社で安全を願い、大きく育った杉林のジグザグの植道で隧道へ向かう。マンガ谷を眺める展望地でひと息入れた後、小さなアップダウンを繰り返し、国交省、兵庫県の無線塔が建つコナラ林の山頂に着く。早春の山頂はまだ寒く下山を早める。鉄塔点検用の階段が1200段続くがそれほどでもなく楽に展望地へ。次の展望地で鉄塔を撮き、急坂をくだれば登山口。

（参加者）栗岡克子　岩城登子　多賀久子　若林文夫　金谷　昭　前川　一　十島　喬　中島　隆　岩本彩子　柳川雪雄　池田美恵子　浜田律子　平井満千枝　楠原良彦　今津省司　岩田有士　兼田幸子　三輪直文　石田賢二　君塚郁子　小田潤子　光川二美子　山本武臣　三野　旭　砂原恵美子　鮫田二郎　朝倉松雄　松上美代子　木下朝子　小林優子　○大和　紘　◎須磨岡　輯（計33名）

鈴鹿・御池岳

（平日お花見山行①）

3月30日(火)　晴れ

（集合）ＪＲ米原駅8・05（車）鞍掛橋8・45～9・00―伊勢谷の分岐9・25―鞍掛尾根11・00―鈴北岳11・20―フクジュソウ探索後11・50（昼食）12・20―丸山13・05―鈴北岳13・45―尾根分岐14・10―下の林道15・30―鞍掛橋15・40～16・00（車）彦根駅16・35（解散）

ここ数日の寒波で山は雪模様。多くは積もっていないが、霧氷の花が咲いた。おかげで目当てのフクジュソウは雪の下に隠されていた。雪に慣れない人がいたから時間がかかったが、丸山山頂まで行けた。

（参加者）広瀬亜見　広瀬恵美子　相澤浩美　岸本紀子　中澤美香子　下山　登　下山誠公　中江南海雄　武村千鶴　島田　廣　松永はつゑ　藤本紀子　岡坂陽子　北村つねみ　上篤秀夫　◎山田明男（計16名）

京都東山

鼠上から琵琶湖疏水

（桜・北山ちょっと歩き）

3月31日(水)　くもり

（集合）京都地下鉄鼠上駅9・00～05―鴨川専用浄水場9・20―日向宮9・25―七福思案処手前の分岐9・39―鉄筋混凝土橋10・00―山科疏水第三トンネル入口10・18～23―休憩広場11・05（昼食）12・00―普門寺12・30～35―小岡越12・50～13・00―長等公園13・40―三井寺14・00―京阪三井寺駅14・10（解散）

連日の花冷えで疏水沿いの桜並木の開花は少し遅れ、ちらほら咲きであったが、寒さは和らぎ桜見物客も少なく、のんびりと散策が楽しめた。

（参加者）仲谷礼司　浅野　剛　渡辺いく　守田光太郎　中辻勝子　岡本和子　宮崎由美子　山口敏晴　加藤浩二　金森節子　中嶋日出男　小林　桂　兼田幸子　大園加代子　川上久敬　森嶋靖子　河本美千子　小林博子　藤井義治　川島勝美　岩本彩子　堀田輝子　大和　紘　河内正治　林　信男　高田京子　妹尾公代　後藤智之　森実喜美子　岩城登子　栄山昌子　木下朝子　小川明美　八木爽子　長沢佑美　加藤興計　中田将一　小谷和子　竹田善英　栗岡克子　山盛加奈子　今津省司　上田直代　松上美代子　山岸勝雄　○磯部　純　○谷　守　◎金谷　昭（計48名）

三河・雨乞山

（自然観察山行277）

4月3日(土)　◎雲見守康

＊リーダーの都合で中止しました。

春のロングコース

東生

東生寺から兜岳・鎧岳

4月3日(土)　晴れ

（集合）近鉄室生口大野駅9・00～10（バス）宇野川橋9・30～35―蓄合橋10・05～10―南松の滝10・20―クマタワ11・10―済浄坊渓谷の滝12・10（昼食）12・50―目無地蔵13・00―兜岳13・45～14・00―峰坂峠14・30―鎧岳15・05～20―新宅本店前16・15～20（バス）榛原駅17・00（解散）

南松の滝を見てからクマタワへ登りつめ、済浄坊渓谷へくだって滝を見た後、昼食でひと息ついた。目無地蔵から岩場の急登をこなし兜岳で展望が開けた。峰坂峠を登り返して鎧岳でゆっくりし、植林のなかを下山した。兜岳へは今回のように目無地蔵から登るほうが安全だ。岩場の急坂をくだるのは大変に危険。

（参加者）中江憲子　中江南海雄　池田　茂　宮崎靖久　宮崎由美子　相澤浩美　中山　賢　西谷真実子　竹内正子　堀内預智　久保田玲子　金森節子　川田洋子　中島　隆　岡崎知子　兼子衣代　宮路ちへ子　林　信男　山高義治　山高多恵子　後藤智之　多田　徳　今村克美　田中　操　井上圭子　湯口靖孝　柳　明子　小林　桂　山本博子　渡部和美　西村静子　大野宣子　川島榮子　廻井洋子　宮野桂子　○宮野哲郎　○安倉正勝　◎村田智俊（計38名）

花の霊仙山西南尾根

（鈴鹿を歩く330）

4月4日(日)　晴れ

（集合）河内風穴手前寺院広場8・20（車）今畑8・45―笹峠10・00―近江展望台11・10―新ハイ福寿園11・45（昼食）12・40―最高峰13・25―岩ノ峰13・35―白谷林道

14・30―東谷15・20―奥ノ院現16・30―広場17・25（解散）

今年のフクジュソウは少ないが、新ハイ福寿園でお花見弁当。池には名残の雪、最高峰から岩ノ峰へ、濡木の枝がしなやかにかつ厳しく行手を阻む。一度白谷林道に出て権現谷へとまた一部杣道を行く。谷の岩壁に咲くスハマソウが私達を迎えてくれた。

（参加者）磯部　純　白木やす子　稲津謙治　湯口靖孝　奥野太一郎　杉本和子　木下朝子　石田眞由美　高原芳彦　梨本敏夫　石井ひろ美　滝川　登　永戸鉄治　中澤興司博　池田隆一　一芝義雄　一芝美知子　貴金雅路　山口光代　炭田明美　大西格郎　谷　守　小林　修　○後藤康幸　○山田登三　○岩野　明（計28名）

花見山行
南山城・大河原から笠置山

4月6日(火)　晴れ

（集合）JR大河原駅9・30～40―飛鳥路10・40―瓶穴11・05～15―笠置橋11・35―史の道コース登山口12・00―六角堂跡12・35（昼食）13・30―行場案内所13・40―行場めぐり―案内所14・55―笠置駅15・20～30（解散）

20℃を超える陽気に桜は満開。路傍にはスミレ・タンポポも咲いている。六角堂跡のベンチでお花見の昼食後、行場めぐりを楽しんだ。平日で花見客が少なくゆっくりできた。

（参加者）野間越夫　下山　登　堀内預智　林　信男　宮路ちへ子　永富律子　茂野　剛　武部美美子　米山昌子　川上久堅　柴田公敏　林　義朗　井上聡美　井上由紀晴　平　清子　河内正治　○村田智俊（計17名）

六甲・最高峰

4月10日(土)　晴れ

（集合）JR甲南山手駅8・40―風吹岩10・17―雨ヶ峠11・20―最高峰12・50（昼食）13・30―魚屋道―有馬温泉15・10（解散）

風吹岩で大阪湾を眺め、雨ヶ峠から七曲り道を登った。

（参加者）松上美代子　木村　登　木村恵子　○中　照行（計4名）

高島トレイル⑤コース
湖西・武奈ケ嶽から水坂峠

（週末ハイク103）

4月10日(土)　晴れ―

（集合）JR京都駅7・00（バス）石田川ダム9・48～10・00―ワサ谷橋登山口10・10―P478に10・40―武奈ケ嶽北尾根11・35～40―武奈ケ嶽12・05（昼食）13・00―赤岩山分岐13・20―赤岩山13・30～35―赤岩山分岐13・40―P620に14・00―水坂峠15・30～45（バス）京都駅17・50（解散）

汗ばむ陽気だったが、武奈ケ嶽の稜線は少し強めの風が吹いていたので暑さは感じなかった。谷筋に残雪の大御影・三重嶽・二の谷山など高島トレイルの山々、三十三間山筋越しの若狭湾や遠く青葉山など眺望も楽しめた。カンサイマメザクラが咲き、イワウチワ・イワナシのピンクの蕾も膨らんでいた。

（参加者）林　正義　木村　登　山根弘美　蓮井洋子　里見綽生　岡崎知子　沖　伸　佐々木輝子　和田純子　西村文男　高橋舜治　岩村春子　萩野輪子　須藤浩子　武村千鶴　三野　旭　塚本忠次　川村信子　小川富士雄　後藤智之　竹内正子　船本裕巳子　三上仲夫　○仲谷礼司　○狩野東彦（計26名）

伊賀・霊山

（金曜里山ハイキング27）

4月10日(土)　晴れ

（集合）JR柘植駅9・40～50―霊山林道登山口10・30―霊山11・45（昼食）12・30―霊山寺13・15～50―芭蕉公園14・30―柘植駅15・10（解散）

車道をひたすら2時間かけて登る。山頂はさすが一等三角点の山、大展望に胸のすく思い。霊山寺へは登山道をくだり、大イチョウを見て桜満開の下で休憩。帰路の路傍歩きも長かった。

（参加者）小梨大直　小池一郎　遠藤　半　林　信男　藤井義治　林　義朗　谷　守　山崎みよ子　大井隆嗣　志水明美　宮路ちへ子　岩城登子　田中　操　武部美美子　宮野紘子　○宮野哲郎　○安倉正勝　○村田智俊（計18名）

鹿ヶ瀬から岩阿沙利山・岳山

（比良を歩く82）

4月11日(日)　くもり一時小雨

（集合）JR近江高島駅9・03（バス）鹿ヶ瀬9・21～35―林道登山口9・50～55―鵜川越10・25～30―岩阿沙利山10・52～11・05―八王子11・17―鳥越峠11・47（昼食）12・15―オーム岩12・20～30―岳山13・00～05―岳観音堂跡13・30～35―白坂13・45～55―原滝14・11～25―大炊神社14・40～55―近江高島駅15・10（解散）

早朝に小雨が降っていたので過半数のキャンセルが出た。しかし、時折薄日が差す曇天でラッキーだった。岩阿沙利山の仏岩の上からは、けっこう展望を楽しむことができた。タムシバが咲き乱れ、足元にはショウジョウバカマや可憐なバイカオウレンの花道が続き、見上げる岩の裂け目にはイワナシの姿もあった。時間に余裕があったので、下りの途中、白坂で砂山遊びをしたり、緑青色の原滝の池に寄り道したりと、のんびり山行を楽しんだ。

（参加者）竹田勝英　福本愛子　本間　隆　○桑　康夫（計4名）

鈴鹿・綿向山から竜王山

（近江の山シリーズ32）

4月11日(日)　くもり

（集合）JR京都駅7・43（バス）綿向山登山口9・30～50―ヒミズ谷出合10・05～10―三合目小屋10・50～11・00―五合目小屋11・15～20―七合目（行者コバ）11・38―九合目12・06―綿向山12・12（昼食）13・00―イハイガ岳分岐13・09―P917に14・05―竜王山14・48～15・10―林道15・35―西明寺16・00～15（バス）京都駅18・30（解散）

雨は一日中降らなかった。綿向山からの鎌ヶ岳は迫力があった。ロープの設置された尾根をくだり竜王山に着き、三角点を見て西明寺にくだった。

（参加者）渡部和美　岩鶴健司　木内範文　野間越夫　長沢佑美　入江　勲　前田初雄　吉野榮子　後藤純子　狩野東彦　多賀久子　繁田広美　岩佐　修　川戸せつ　岡坂陽子　金森節子　神谷恵美子　大嶋　勉　浅井良三　○村井寿和　○森脇真義（計21名）

大峰・勝負塚山

4月14日(水)　晴れ

（集合）近鉄橿原神宮前駅8・05～10（バス）通行止ゲート9・20―伊坪谷出合9・40―五合目11・25―七合目12・00―勝負塚山12・40（昼食）13・20―五合目―簡易浄水場15・35―伊坪谷出合15・50―通行止ゲート16・00（バス）橿原神宮前駅17・15（解散）

穏やかな沢沿いの登山道から一変し、沢の小橋の崩壊や朽ちた梯子と難所が続く。尾根に取り付くまでも急登でひと汗かいた。上りも下りも気の抜けない厳しい山行だったが、充実感はあった。

（参加者）別所　昊　三井紘一　渡部和美　古山幸男　中江南海雄　今泉　勲　入江　勲　大園加代子　岩村春子　狩野東彦　竹村秀樹　小梨大直　志水明美　松上美代子　三野　旭　真田明子　川侯　勲　上田裕子　首藤育子　湯口靖孝　桜庭　栄　荒木光雄　○下部正年　○西上利和（計24名）

六甲
ロックガーデンから魚屋道

（ゆっくり歩こう4）

4月14日(水)　晴れ

（集合）阪急西宮屋川駅9・55―高座の滝10・30～40―ロックガーデン―ロック11・40～50―風吹岩12・00（昼食）12・50―魚屋道―会下山遺跡13・50～14・10―青屋川駅14・40（解散）

登りは弱いと言いながらも長い岩場を制覇する。ゆっくり歩けば大概のところには行けるもの。この時期にしてはめずらしく視界が良く、瀬戸内から大阪までの景観に満足した。

（参加者）山口敏晴　茅田幸子　吉村富式　堀川恵子　横山由美子　茂野　剛　松井明忠　金谷　昭　小林　桂　小林博子　柴田康一郎　君塚郁子　林　信男　守田光太郎　川上久堅　平　清子　中嶋日出男　手島幸子　夏山春子　船本裕巳子　吉野榮子　○沖　伸　○仲谷礼司（計23名）

高島トレイル②コース
朽木・横谷峠から駒ケ岳西尾根
（週末ハイク104）

4月17日(土) ○狩野東彦
＊リーダーの都合で中止しました。

台高
小佐倉山から紅梅矢塚

4月18日(日) ○西上利和
＊バス定員未満で中止しました。

横根連峰 （鈴鹿を歩く331）

4月18日(日) 晴れ
（集合）河内線風穴手前寺院広場8・15（車）ツツロ坂峠9・00—最高峰10・25—西横根11・20—横根12・00（昼食）13・00—P700 0㍍13・20—五僧14・30—五僧下広場14・50（解散）

権現谷林道ツツロ坂峠より横根に登る。シャクナゲ茂るやせ尾根は西横根まで気の抜けない岩尾根歩き。山間にはタムシバ・ミツバツツジが咲きだした。五僧峠へ尾根をくだると、磯部氏が見つけた国土地理院の標石が古人の息づかいを今に伝えていた。（美香子）

（参加者）服部 亮　左近健一朗
磯部 純　稲津謙治　白木やす子
杉本和子　金谷 昭　石井ひろ美
木下朝子　一芝義雄　一芝美知子
福川 登　栗本敏夫　中澤典司博
貴堂雅路　澤崎 實　中澤美香子
池田繁美　上嶌秀夫　吉岡うた子
小林 修　坂口裕彦　石田眞由美
大西信郎　奥野太一郎
○後藤康幸　○山田鉄三
○岩野 明　（計28名）

湖北・刀根越から大黒山

4月18日(日) 晴れ
（集合）JR京都駅7・40（バス）椿坂余呉トレイル登山口9・40～50—中央分水嶺県境尾根10・20—沓掛山△559・3㍍付近11・20（昼食）12・00—椿坂峠12・30—大黒山13・50～14・05—南尾根巡視路出合14・40—△781・3㍍鉄塔15・00—椿坂採石場16・00～30（バス）京都駅18・20（解散）

椿坂峠から大黒山の往復をやめ、南尾根から巡視路をくだることにしたので、刀根越をカットして椿坂集落から余呉トレイルに取り付いた。雪解けの中央分水嶺を椿坂峠へたどり、急坂の西尾根から大黒山に登った。残雪の山頂からは敦賀湾を展望し、南尾根ではイワウチワの花を見ながら快適にくだった。

（参加者）渡部和美　中川光郎
西田俊治　松上美代子
蓮井洋子　小池一郎　若林文夫
長沢佑美　三野 旭　塚本忠次
大和 紘　岩田育士　妹尾一正
竹内正子　小谷和子　塩尻香織
三輪直文　福隅 章　山崎みよ子
松見 昭　堀内預智　北川さゆり
上田裕子　後藤純子　大園加代子
大嶋 勉　山根弘美　武藤由美子
和田直樹　廣田一幸　相澤清美
小川明美　緒方由子　○狩野東彦
青木一雄　○村田智俊　（計36名）

六甲・逢ケ山から極楽茶屋
（火曜ハイク69）

4月20日(火) ○仲谷礼司
＊雨天のため中止しました。

平日お花見山行②
湖北・伊吹山

4月21日(水) 晴れ
（集合）JR関ケ原駅（車）上野登山口8・55—一合目9・35—五合目11・00—六合避難小屋11・20—五合目11・40（昼食）12・10—一合目13・30—登山口13・50（車）道の駅（車）近江長岡駅14・50（解散）

雨のため21日に順延して実施した。ドライブウェイが一週間開通が遅れたので、上野登山口から歩いた。上では花も少なくなるので六合目から戻った。花は全部で35種ほど見られた。

（参加者）大村俊子　中澤美香子
藤本紀子　小林一世　北村つねみ
栗栖栄吉　竹田勝英　堀江房嶺
○山田明男　（計9名）

台高
江馬小屋谷から野江股の頭

4月22日(木) ○西上利和
＊雨天のため中止しました。

南紀
熊野古道・観音道と大吹峠コース
（三重の山108）

4月24日(土) 晴れ
（集合）JR大泊駅10・00（車）大泊観登り口10・15—清水寺11・00～10—オタオ山分岐11・25～30—波田須県道311号12・00—大吹峠登り口12・10（昼食）12・55—大吹峠13・15～20—大観猪垣道—オタオ山分岐14・00—大泊観登り口14・45（解散）

新緑がすばらしかった。ミツバツツジ・ウラシマソウ・マムシグサ・ギンリョウソウ等の花々も随所に。そして圧巻は熊野灘の行い。解散後有志で尾鷲の温泉「古道の湯」に入り、民宿「風帆」へ。

（参加者）平 龍一　平 幸子
水戸鉄治　川村政和　○植垣逸夫
（計5名）

飛騨・八尾山 （展望の山67）

4月24日(土) 晴れ
（集合）JR西岐阜駅8・15（車）美輝の里10・00—柿坂峠10・25—1094㍍三角点11・05—八尾山12・05（昼食）12・45—柿坂峠14・25—権現山14・42—柿坂峠15・05（車）西岐阜駅17・50（解散）

柿坂峠から、道がわかりにくいかな思ったが、鉄塔巡視路で時間も短った。四等・三等・二等の三角点と、郵料局の三角点も見られた。

（参加者）川島勝美　中澤美香子
小林一世　三井紘一　広瀬恵美子
広瀬重見　○山田明男　（計7名）

敦賀の山・三内山

4月24日(土) 晴れ
（集合）JR敦賀駅9・00（車）清掃センター9・30—花城四等三角点10・00—日本庭園10・20～11・00—鉄塔巡視路—三内反射板11・25—広場11・45（昼食）12・45—三内山14・00～15—巡視路14・40—分岐15・00—原区15・35—清掃センター16・10（解散）

頂上手前のやぶを切り開きながら登って、全線登山路が完成した。

（参加者）谷 守　神谷恵美子
神野孝允　木下朝子　白木やす子
平塚明美　○高島伸治　（計7名）

湖北・西尾根から横山岳

4月25日(日) 晴れ
（集合）JR京都駅7・40（バス）ウッディパル余呉9・30～40（バス）菅並9・50～10・00—林道の西尾根取付点10・20—ケヤキ広場11・30—尾根広場12・10（昼食）12・45—天狗の森石灰岩露頭13・20—西峰14・00—展望地14・05～15—横山岳14・20～35—鳥越峠15・40～45—小市谷コース分岐16・00—林道出合16・55—菅並17・10～20（バス）ウッディパル余呉17・30～45（バス）京都駅19・10（解散）

西尾根からは琵琶湖向きの急登が続いた。下から順にイカリソウ、カタクリ、イワウチワの群生が続き、登りのつらさを忘めてくれた。横山岳西の残雪の稜線展望地からは三国岳・温壁・三周ヶ岳の後方に白山が見えた。奥美濃の能郷白山も雪をまとっていた。余呉湖には琵琶湖の向こうに比良山系がよく見えた。壇上氏のルート案内で安心して歩けた。

（参加者）山根弘美　緒方由子
岩城豊子　堤 良男　遠谷節枝
渡部和美　岩鬼健司　木村 豊
藤本紀子　多賀久子　上田裕子
蓮井洋子　大槻一夫　久保田玲子
長沢佑美　竹田勝英　大園加代子
後藤純子　高橋舜治　武部美美子
磯部 純　繁田広美　松上美代子
小石浩子　岩佐 修　市井ユリエ
武村千鶴　三野 旭　西谷眞実子
塚本忠次　後藤智之　山崎みよ子
島田 廣　後藤康幸　吉岡うた子
中西和子　村田洋子　松見 昭
宮野紘子　○宮野哲郎
○榎上俊雄　○村田智俊　（計42名）

朽木・おにゅう峠から地蔵峠
（平日ふれあい73）

4月26日(月) 晴れ
（集合）JR京都駅7・40（バス）おにゅう峠10・00～13—水2分標識11・12—P803㍍11・30～40—ナベクボ峠12・20（昼食）13・10—三国峠13・30～45—地蔵峠14・50～15・00—生杉ゲート15・30（バス）京都駅18・00（解散）

麓は新緑なのに尾根はまだ裸木立ち、花遅くイワカガミもまだ蕾、タムシバが白い花をつけていた。

（参加者）中川光郎　角江朝子
妹尾一正　松村雅子　守田光太郎
長沢佑美　岸本紀子　池田美恵子
浅野 剛　福島 昭　渡辺いく
岡本正明　岡本和子　和田直樹
加藤浩二　山岸勝雄　水本加津榮
堀田輝子　冨田雅也　氷見真砂子
志水明美　西島芳洋　下山誠公

○下山　登　○寺井恒夫（計25名）

台高・岩屋口山から千秋峰

4月29日(祝)　雨のち晴れ

（集合）近鉄橿原神宮前駅8・05〜10（バス）青田発電所9・40—P648に登山口—作業小屋10・50—ヤキ尾山11・45（昼食）12・30—岩屋口山12・45—千秋峰13・40—尾根分岐14・00—スタハラ出合—千石平登山口ポスト前15・40（バス）橿原神宮前駅17・30（解散）

朝から小雨模様だったが登山口に着く頃すっかり青空に変わり、気分も爽快に歩き始めた。五感を研ぎ澄まし、芽吹き始めた木々や風のささやき、野鳥のさえずりを聞きながら、季節の移ろいを楽しんだ。

（参加者）岩鶴健司　中江南海雄　渡部和美　山口充代　川田位子　繁田広美　三野　旭　松上美代子　岩田育士　山縣勝美　島田　璜　堤　良男　加藤浩二　前川和佳子　原　幸子　大嶋　勉　今泉　勲　池田隆一　秀田順子　上田裕子　稲津謙治　中江憲子　竹村秀樹　○竹田勝英　○下部正年　○西上利和　（計26名）

残雪の八ヶ岳
磯貫岳・天狗岳・八方台

5月2日(日)〜5日(祝)　3泊4日

（2日　晴れ）（集合）JR京都駅7・40（バス）美濃戸口15・30—赤岳山荘16・20（泊）

（3日　晴れ）山荘6・30—北沢—赤岳鉱泉8・30〜9・00—赤岩の頭10・50〜11・10—硫黄岳11・30（昼食）12・30—夏沢峠13・20〜30—オーレン小屋14・00（泊）

（4日　晴れ）小屋7・30—箕冠山8・30—根石岳9・00—東天狗岳9・30〜50—天狗の奥庭—黒百合ヒュッテ11・30（昼食）12・20—唐沢鉱泉分岐12・45—唐沢鉱泉14・30（泊）

（5日　晴れ）鉱泉8・35—パノラマコース峠9・05〜20—八方台10・00〜30—浜辺野館11・10（入浴・昼食）13・00（バス）京都駅18・20（解散）

澄みきった青空に映える神々しい残雪の八ヶ岳の峰々を展望しながらのんびりと歩いた。今年は雪解けが遅く、樹林帯には1m以上の積雪があり、凍結個所も多くてアイゼンを効かせて歩いた。最後の八方台からは歩いたコースが一望できた。山の温泉と残雪の春山が堪能できた。

（参加者）上田裕子　前田喜久子　中川光郎　南　利憲　多田　徳　相澤浩美　溪谷節枝　田辺弘子　小梨大直　大嶋　勉　白木やす子　松見　昭　○安倉正勝　○村田智俊　（計14名）

（3・4月の参加者　延761名）

松田敏男　山の作品展

2010.7.8（木）〜7.13（火）11:00am 〜 6:00pm
（ただし13日は5:00まで）

嶋屋画廊　中京区四条通富小路東入　tel 075-211-1023

漆技法を取り入れたシルクスクリーン、日本画、漆によるジオラマなど、今回新たな方法で多角的に山の情景を表現しました。
北アルプス、南アルプス、尾瀬、富士山や、樹林、花、夜の風景他、約30点展示しております。どうぞご高覧くださいませ。

会員募集

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」（隔月刊・年6号発行）の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で19年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。

会員は当会のイベントに優先して参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には「新ハイキング関西の山」を毎号お届けします。

係（リーダー）はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。会員が例会に参加されるときは、山行運営費として400円を支出していただきます。

四季の自然に触れながらの山歩きから、ウォーキングまで、若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金　500円（ワッペン共）
年会費　3300円（送料共）

入会の申し込み（随時）は、この雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。第何号からの送本かを忘れずにご記入ください。

なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきますと毎号確実にお手元に届けます。

お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイキング関西の山」最新号を見本誌として無料で送ります。

○山行係（リーダー）募集

係は2ケ月に一〜二回程度山行例会を実施していただきます。

経験のある方、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。

「新ハイ関西リーダー必携」をご参考にお送りします。

○新入会員（定期購読者）紹介

新しいお仲間のみなさんです。会員番号5535番から5552番まで（敬称略）。

【埼玉】岩井ふみ子
【神奈川】横山真由子
【三重】辻　勝史
【滋賀】鈴木恒男　小西節子　戸川義治
【京都】鷹田一幸　岩澤裕子　田中　弘
【大阪】木原康夫　後藤　勝　植田義夫　名加恵美子　小川民子　岡　豊
【奈良】中川善弘　小野和良
【兵庫】西村　明　（18名）

訂正とお詫び　・左記の通り訂正します

○112号（初夏）

＊20ページ写真の説明「日和田の民家」。

＊21ページ中段11行目「板尾根」→「板屋根」

＊22ページ上段19行目「赤梅」→「木梅」

＊25ページタイトル「五郎山」のルビは「ごろざん」が正しい。

＊26ページ上段「瑕疵」のルビは「かし」が正しい。同ページ下段3行目「来年」→「今年」

＊27ページ上段8行目「キンバイ」→「キンシバイ」

＊82ページ中段5行目「比叡関」→「叡山関」

書店でお求めになりたい方へ

前もって毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は偶数月の20日頃（隔月刊）の発売